茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

北　原　遺　跡　Ⅱ

市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

平成 28 年 3 月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

北原遺跡 Ⅱ

（きたはらいせき）

市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

平成 28 年 3 月

常陸大宮市教育委員会

北原遺跡全景（北西から）

第１調査区東部拡大（鉛直，上が北）

巻頭図版２

第103号竪穴住居跡竈遺物出土状況（南から）

第357号土坑小仏像出土状況（東から）

ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県の北西部に位置し，県都水戸から北へ約20㎞の，平成の大合併で誕生した人口約４万２千人の市です。

市域は，鷲子山塊の南端と関東平野周縁台地の北端の境界部にあたります。東部には久慈川，南西部には那珂川，中央部には緒川や玉川の清流が流れ，山間には美林が涵養されていて，まさに山紫水明の地となっております。また，河川の流域や台地上には肥沃な田畑が広がり，大きな農業生産力の基盤となっております。

こうした豊かな自然に恵まれた常陸大宮市は，古くから人々の生活の場となり，多くの歴史を重ねております。そのため市域には，各時期の集落跡をはじめ，古墳・城館跡・塚など多くの遺跡が存在しているのです。

これらの遺跡は，私たちの祖先がどのように生活したのか，そして現在の豊かな生活の礎がいかに築かれてきたのかを知る手がかりになります。遺跡は，私たちが心豊かな生活をするうえで根源的かつ必要な情報を与えてくれていると言えましょう。この貴重な文化遺産を後世に伝えることは，私たちの大切な任務であり，郷土の発展のためにも重要なことと考えております。

北原遺跡では，平成25年度に道の駅整備事業に伴う発掘調査が行われて，古墳・奈良・平安時代の遺構・遺物が出土し，この地に大規模な集落が営まれていたことが確認されています。この集落は，市内の同じ久慈川沿いに立地する上ノ宿遺跡で確認された集落に比肩する規模であり，久慈川中流域の古代史を理解するために，非常に貴重な知見を与えてくれました。

今回の発掘調査は，平成27年5月18日から平成28年3月20日まで関東文化財振興会株式会社に委託して実施したもので，縄文時代から近世に至る幅広い時代の遺構・遺物が出土しました。今回の発掘調査区域は前回の調査区域に隣接しているため，北原遺跡の更なる広がりが確認されることとなりました。

本書は，この発掘調査の成果を報告するものです。歴史研究の学術資料としてはもとより，地域の教育・文化の向上のために十分に活用していただくことを希望いたします。また，この機会に文化財愛護の意識を一層高めていただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査にあたり御指導いただきました茨城県教育庁文化課，全般にわたり御協力いただきました地元の皆様，適正かつ慎重な調査をしていただいた関東文化財振興会株式会社様，その他御指導・御協力をいただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

平成28年3月

茨城県常陸大宮市教育委員会
教育長　　上久保　洋一

例　　言

1　本書は，茨城県常陸大宮市岩崎595番地2外に所在する北原遺跡における市道改良工事に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　本調査は，常陸大宮市教育委員会による試掘確認調査に基づいて，常陸大宮市教育委員会から業務委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。

3　発掘調査及び整理作業は，常陸大宮市教育委員会から業務委託を受けた関東文化財振興会株式会社が，常陸大宮市教育委員会の指導のもとに実施した。

遺跡所在地　茨城県常陸大宮市岩崎595番地2ほか
調 査 面 積　1,196㎡
調 査 期 間　平成27年５月18日～平成27年８月24日
整 理 期 間　平成27年８月１日～平成28年３月20日
調 査 指 導　後藤俊一・萩野谷悟・中林香澄（常陸大宮市教育委員会）
調 査 担 当　高野恒一・萩原宏季（関東文化財振興会株式会社）

4　本書の執筆は第１章第１節を常陸大宮市教育委員会の中林香澄が，第１章第２節～第４章までを常陸大宮市教育委員会の指導を受け関東文化財振興会株式会社の高野恒一が担当した。

5　本書の編集は高野が担当した。

6　調査及び本報告書の作成にあたり，次の方々から御指導・御協力を賜った。ここに記して感謝の意を表する次第である。（五十音順・敬称略）

鶴見貞雄　佐々木義則　楢崎修一郎
茨城県教育庁文化課　岩崎区　常陸大宮市経済建設部都市建設課　常陸大宮市教育委員会生涯学習課　那珂市シルバー人材センター　加藤空撮　カワヒロ産業　古川市郎土地家屋調査士事務所

7　出土土器の圧痕分析は株式会社パレオ・ラボ，人骨・獣骨の同定と分析は生物考古学研究所に依頼した。成果は付章として巻末に掲載した。

8　本調査における出土遺物・実測図及び写真等は，常陸大宮市教育委員会が保管している。

9　調査参加者（敬称略）

（発掘調査）　佐久間弘美　佐々木由二　白土和夫　菅原裕子　鈴木めぐみ　高野正行
谷川明正　飛田けい子　平田桂子　藤倉秋之助　皆川典子　山崎美知子
（整理作業）　益子光江　大越慶子　平井百合子　大山晴美　對馬むつみ

凡　　例

1　本書に記してある座標値は，世界測地系第Ⅸ系を用いている。方位は，座標北を示す。

2　グリッドについては，北原遺跡Ｉの調査時に設定したグリッドを踏襲した。遺跡範囲内を東西･南北各々 20mの大グリッドに分割し，さらにこの大グリッドを東西･南北に各々 10等分し，２m四方の小グリッドを設定した。

3　本文中の色調表現は，『新版標準土色帖』2008年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所指色票監修）を用いた。

4　標高は，海抜標高である。

5　掲載した図面の基本縮尺は，以下のとおりである。

遺構図　グリッド配置図　1/2000　　調査区全体図　1/300

ピット群…1/100，1/150

竪穴住居跡・掘立柱建物跡・方形竪穴遺構・溝跡・ピット列…1/60

土坑…1/30，1/60　　墓壙…1/30

なお，変則的な縮尺を用いた場合には，スケールによってその縮尺率を表した。

遺物図　土器・土製品・石器・石製品・金属製品…1/3を原則とする。ただし種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

6　遺物写真は，原則として実測図の縮尺に合わせて掲載した。

7　遺構・遺物実測図中のスクリーントーン及び記号は，以下に示すとおりである。

（遺構）　竈構築材・柱痕跡　　火床面・焼土　　硬化面

（遺物）　須恵器断面　　煤　　黒色処理

釉

●　土器・土製品　　■　石器・石製品　　▲　金属製品

8　実測図・本文中に用いた略記号は以下を示す。

ＳＩ：竪穴住居跡　　SB：掘立柱建物跡　　SD：溝跡　　SX：性格不明遺構

SK：土坑　　Ｐ：ピット　　TP：テストピット　　Ｋ：攪乱

9　遺物観察表の法量単位はｃｍである。法量に付した〔　〕は復元値，(　) は残存値を示す。

10　本遺跡の略号は，ＨＩＫである。遺物の注記もこれに従っている。

目　　次

ごあいさつ
例　　言
凡　　例
目　　次
第１章　調査に至る経緯と調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴理的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 7
　第１節　調査の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 14
　　１　縄文・弥生時代 …… 14
　　（１）　土坑 …… 14
　　（２）　遺構外出土遺物 …… 15
　　２　古墳時代 …… 16
　　（１）　竪穴住居跡 …… 16
　　（２）　遺構外出土遺物 …… 27
　　３　奈良・平安時代 …… 28
　　（１）　竪穴住居跡 …… 28
　　（２）　土坑 …… 51
　　（３）　遺構外出土遺物 …… 53
　　４　中　世 …… 54
　　（１）　掘立柱建物跡 …… 54
　　（２）　方形竪穴遺構 …… 56
　　（３）　遺構外出土遺物 …… 68
　　５　近　世 …… 69
　　（１）　墓壙 …… 69
　　（２）　土坑 …… 78
　　（３）　遺構外出土遺物 …… 80
　　６　その他の遺構と遺物 …… 80
　　（１）　溝跡 …… 80
　　（２）　ピット列 …… 81
　　（３）　土坑 …… 81
　　（４）　ピット群 …… 89
第４章　総　括 …… 93
付　章　自然科学分析 …… 99
　第１節　北原遺跡Ⅱ出土土器底部の木葉痕および虫体圧痕の同定 …… 99
　第２節　北原遺跡出土土師器甕のオビヤスデ属圧痕 …… 102
　第３節　北原遺跡Ⅱ出土近世人骨 …… 103
写真図版
抄　　録

挿図目次

第１図　茨城県における北原遺跡の位置 …… 2
第２図　調査対象地の位置 …… 2
第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
第４図　基本土層図 …… 7
第５図　第３調査区壁面土層断面図 …… 8
第６図　調査区配置図及び大グリッド配置図 …… 9
第7-1図　第１調査区遺構全体図 …… 10
第7-2図　第２調査区遺構全体図 …… 11
第7-3図　第３調査区遺構全体図（１） …… 12
第7-4図　第３調査区遺構全体図（２） …… 13
第８図　第322号土坑・出土遺物実測図 …… 14
第９図　縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図…… 15
第10図　第104号竪穴住居跡実測図 …… 16
第11図　第104号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 18
第12図　第107号竪穴住居跡実測図 …… 19
第13図　第107号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 20
第14図　第110号竪穴住居跡実測図 …… 21
第15図　第110号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 22
第16図　第113号竪穴住居跡実測図 …… 22
第17図　第113号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 23
第18図　第114号竪穴住居跡実測図 …… 24
第19図　第114号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 24
第20図　第115号竪穴住居跡実測図 …… 25
第21図　第115号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 26
第22図　古墳時代遺構外出土遺物実測図…… 27
第23図　第101号竪穴住居跡実測図 …… 28
第24図　第101号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 29
第25図　第102号竪穴住居跡実測図 …… 30
第26図　第102号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 31
第27図　第103号竪穴住居跡実測図 …… 32
第28図　第103号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 34
第29図　第105号竪穴住居跡実測図 …… 36
第30図　第105号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 37
第31図　第106号竪穴住居跡実測図 …… 38
第32図　第106号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 39
第33図　第108号竪穴住居跡実測図 …… 40
第34図　第108号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 41
第35図　第109号竪穴住居跡実測図 …… 43
第36図　第109号竪穴住居跡出土遺物実測図（１）… 44
第37図　第109号竪穴住居跡出土遺物実測図（２）… 45
第38図　第111号竪穴住居跡実測図 …… 47
第39図　第111号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 47
第40図　第112号竪穴住居跡実測図 …… 48
第41図　第112号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 50
第42図　第354・361・377号土坑実測図 …… 51
第43図　第354・361・377号土坑出土遺物実測図 …… 52
第44図　奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図…… 53
第45図　第５号掘立柱建物跡実測図…… 54
第46図　第６号掘立柱建物跡実測図…… 55
第47図　第１号方形竪穴遺構・出土遺物実測図…… 56
第48図　第２号方形竪穴遺構実測図…… 58
第49図　第３号方形竪穴遺構実測図…… 59
第50図　第４号方形竪穴遺構実測図…… 60
第51図　第５号方形竪穴遺構実測図…… 61
第52図　第６号方形竪穴遺構実測図…… 62
第53図　第７号方形竪穴遺構実測図…… 63
第54図　第８号方形竪穴遺構実測図…… 63
第55図　第９号方形竪穴遺構実測図…… 64
第56図　第10号方形竪穴遺構実測図…… 65
第57図　第11号方形竪穴遺構実測図…… 66
第58図　第12号方形竪穴遺構実測図…… 67
第59図　中世遺構外出土遺物実測図…… 68
第60図　第３号墓壙実測図…… 69
第61図　第３号墓壙出土遺物実測図（１）…… 69
第62図　第３号墓壙出土遺物実測図（２）…… 70
第63図　第４号墓壙実測図…… 71
第64図　第４号墓壙出土遺物実測図（１）…… 71
第65図　第４号墓壙出土遺物実測図（２）…… 72
第66図　第５・６号墓壙実測図…… 73
第67図　第５号墓壙出土遺物実測図…… 74
第68図　第６号墓壙出土遺物実測図…… 75
第69図　第７号墓壙実測図…… 76
第70図　第８号墓壙・出土遺物実測図…… 77
第71図　第316号土坑出土遺物実測図 …… 78
第72図　第356・357土坑実測図…… 79
第73図　第357号土坑出土遺物実測図 …… 79
第74図　近世遺構外出土遺物実測図…… 80
第75図　第６号溝跡実測図…… 80
第76図　第２号ピット列実測図…… 81
第77図　その他の土坑実測図（１）…… 82
第78図　その他の土坑実測図（２）…… 83
第79図　その他の土坑実測図（３）…… 84
第80図　その他の土坑実測図（４）…… 85
第81図　第１号ピット群実測図…… 89
第82図　第２号ピット群実測図…… 90
第83図　第３号ピット群実測図…… 91
第84図　北原遺跡の変遷…… 95
第85図　方形竪穴遺構の分類…… 96

表 目 次

表１　周辺遺跡一覧表 …… 6
表２　第322号土坑出土遺物観察表 …… 14
表３　縄文・弥生時代遺構外出土遺物観察表 … 15
表４　第104号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 18
表５　第107号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 20
表６　第110号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 22
表７　第113号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 23
表８　第114号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 25
表９　第115号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 26
表10　古墳時代遺構外出土遺物観察表 …… 27
表11　第101号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 29
表12　第102号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 31
表13　第103号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 35
表14　第105号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 37
表15　第106号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 39
表16　第108号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 42
表17　第109号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 46
表18　第111号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 47
表19　第112号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 50
表20　第354号土坑出土遺物観察表 …… 52
表21　第361号土坑出土遺物観察表 …… 52
表22　第377号土坑出土遺物観察表 …… 52
表23　奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表 … 53
表24　第１号方形竪穴遺構出土遺物観察表 …… 57
表25　中世遺構外出土遺物観察表 …… 68
表26　第３号墓壙出土遺物観察表 …… 70
表27　第４号墓壙出土遺物観察表 …… 72
表28　第５号墓壙出土遺物観察表 …… 74
表29　第６号墓壙出土遺物観察表 …… 76
表30　第８号墓壙出土遺物観察表 …… 77
表31　第316号土坑出土遺物観察表 …… 79
表32　第357号土坑出土遺物観察表 …… 80
表33　近世遺構外出土遺物観察表 …… 80
表34　その他の土坑一覧表 …… 87
表35　第１号ピット群計測表 …… 89
表36　第２号ピット群計測表 …… 91
表37　第３号ピット群計測表 …… 91
表38　墓壙一覧表 …… 97

写真目次

巻頭１　北原遺跡全景（北西から）
第１調査区東部拡大（鉛直，上が北）
第103号竪穴住居跡竈遺物出土状況（南から）
第357号土坑小仏像出土状況（東から）
PL １　北原遺跡全景（南西から）
第１調査区東部遺構検出状況（西から）
PL ２　第１調査区完掘状況（鉛直，上が北）
第１調査区中央部完掘状況（東から）
第１調査区テストピット（南から）
第２調査区完掘状況（北西から）
PL ３　第３調査区北部東側完掘状況（東から）
第３調査区北部東側完掘状況（西から）
第３調査区北部中央完掘状況（東から）
第３調査区北部中央完掘状況（西から）
PL ４　第３調査区北部西側完掘状況（東から）
第３調査区南部東側完掘状況（東から）
第３調査区南部中央完掘状況（東から）
第３調査区南部中央完掘状況（西から）
PL ５　第322号土坑遺物出土状況（西から）
第322号土坑完掘状況（南西から）
第104号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第104号竪穴住居跡出入口付近遺物出土状況（西から）
第104号竪穴住居跡P4堆積状況（西から）
第104号竪穴住居跡掘方完掘状況（南から）
第107号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第107号竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
PL ６　第110号竪穴住居跡完掘状況（南西から）
第113号竪穴住居跡完掘状況（東から）
第113号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）
第113号竪穴住居跡土師器坏出土状況（北東から）
第114号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第114号竪穴住居跡掘方完掘状況（南から）
第115号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）
第115号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）
PL ７　第101号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第101号竪穴住居跡竈埋没状況（東から）
第102号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第102号竪穴住居跡遺物出土状況（南西から）
第102号竪穴住居跡竈遺物出土状況(南西から）
第103号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第103号竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
第103号竪穴住居跡竈遺物出土状況（南から）
PL ８　第103号竪穴住居跡西壁際火打金出土状況（東から）

第103号竪穴住居跡掘方完掘状況（南から）
第105号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第105号竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
第105号竪穴住居跡遺物出土状況（南東から）
第106号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第108号竪穴住居跡完掘状況（鉛直，上が北）
第108号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）
PL 9　第109号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第109号竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
第109号竪穴住居跡竈遺物出土状況（南から）
第109号竪穴住居跡掘方完掘状況（南から）
第111号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第112号竪穴住居跡完掘状況（南から）
第112号竪穴住居跡竈・貯蔵穴付近遺物出土状況（南から）
第112号竪穴住居跡竈埋没状況（南西から）
PL10　第109号竪穴住居跡竈遺物出土状況（南から）
第377号土坑遺物出土状況（南から）
第５号掘立柱建物跡完掘状況（南東から）
第６号掘立柱建物跡完掘状況（北東から）
第１号方形竪穴遺構完掘状況（南東から）
第１号方形竪穴遺構埋没状況（南東から）
第２号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第２号方形竪穴遺構埋没状況（南から）
PL11　第２・３・７・９号方形竪穴遺構完掘状況（鉛直，上が北）
第３号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第４号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第５号方形竪穴遺構完掘状況（東から）
第６号方形竪穴遺構完掘状況（北から）
PL12　第３～６・８～10・12号方形竪穴遺構完掘状況（鉛直，上が北）
第７号方形竪穴遺構完掘状況（東から）
第８号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第９号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第10号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
PL13　第10号方形竪穴遺構P1根石確認状況（鉛直，上が東）
第11号方形竪穴遺構完掘状況（北から）
第12号方形竪穴遺構完掘状況（南から）
第３号墓壙人骨出土状況（北から）
第４号墓壙人骨出土状況（西から）
第５・６号墓壙完掘状況（東から）
第５号墓壙人骨出土状況（西から）
第６号墓壙人骨出土状況（東から）
PL14　第７号墓壙人骨出土状況（西から）
第８号墓壙獣骨出土状況（南西から）
第357号土坑完掘状況（東から）
第357号土坑埋没状況（東から）
第316号土坑配石確認状況（南から）
第387号土坑完掘状況（東から）
第1号ピット群東部完掘状況（東から）
第1号ピット群西部完掘状況（西から）
PL15　第322号土坑－1
縄文・弥生時代遺構外出土遺物－1～6
第104号竪穴住居跡－1・2
PL16　第104号竪穴住居跡－4～8
第107号竪穴住居跡－1・2
PL17　第107号竪穴住居跡－3，第110号竪穴住居跡－1，第113号竪穴住居跡－1～3
第114号竪穴住居跡－1，第115号竪穴住居跡－1・2・4
PL18　第115号竪穴住居跡－5～7，古墳時代遺構外出土遺物1・2，5～7，第101号竪穴住居跡－1
PL19　第101号竪穴住居跡－2～6，第102号竪穴住居跡－1・2
PL20　第102号竪穴住居跡－3，第103号竪穴住居跡－1～3・5・6・8，第105号竪穴住居跡－1・2
PL21　第105号竪穴住居跡－3～7，第106号竪穴住居跡－1，第108号竪穴住居跡－2～4
PL22　第108号竪穴住居跡－3・5～8，第109号竪穴住居跡－1～4
PL23　第109号竪穴住居跡－5～11
PL24　第109号竪穴住居跡－12・14・16，第112号竪穴住居跡－4，第354号土坑－1，第361号土坑－1，第377号土坑－1，奈良・平安時代遺構外出土遺物2・4
PL25　奈良・平安時代遺構外出土遺物－5・6，第1号方形竪穴遺構－1，中世遺構外遺物－1～5，第3号墓壙－1～4
PL26　第3号墓壙5～12・人骨，第4号墓壙1～12
PL27　第4号墓壙－人骨，第5号墓壙1～9・人骨，第6号墓壙1～4・6～9
PL28　第6号墓壙－5，第316号土坑－1，第357号土坑－1・2，近世遺構外出土遺物1・2

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は，市道改良事業に伴う事前調査である。

なお，本発掘調査に先行して，北原遺跡では平成25年度に道の駅整備事業に伴う発掘調査が行われており，古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡93軒等が確認された経緯がある。この調査では遺跡の限界は掴めておらず，北原遺跡が更なる広がりを見せることは確実視されていた。この調査成果は「茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第18集　北原遺跡Ⅰ　道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」にまとめられている。

平成26年５月19日，常陸大宮市長　三次　真一郎から常陸大宮市教育委員会に，市道改良事業予定地内における埋蔵文化財の所在の有無について照会が提出された。市道改良は，前述の道の駅整備事業に伴うものであり，必然的に開発予定地は，前回の発掘調査区域に隣接し，周知の埋蔵文化財包蔵地北原遺跡内であった。

同年６月11日，市教育委員会生涯学習課　後藤　俊一が試掘調査を実施したところ，想定に違わず，古代の竪穴住居跡，時期不明の土坑，溝跡等が確認された。これに加え，市道改良という事業の性格から，工事の遂行には記録保存のための発掘調査が必要と考えられた。

この結果を受けて，平成27年３月６日に茨城県教育委員会と協議を行ったところ，同年３月11日，茨城県教育委員会から，市教育委員会案のとおり発掘調査を実施すべき旨回答を受けた。

同年４月３日，常陸大宮市長　三次　真一郎は，関東文化財振興会株式会社に発掘調査を委託した。同日，常陸大宮市・常陸大宮市教育委員会・関東文化財振興会株式会社は常陸大宮市北原遺跡埋蔵文化財に関する協定書を締結して，同年５月18日から８月24日まで本発掘調査を実施したものである。（中林）

第２節　調査の経過

発掘調査は，平成27年５月18日から同年8月24日までの約３ヵ月にわたって実施した。調査にあたっては対象地が３ヶ所に分散しており，便宜的にそれぞれ第１・第２・第３調査区と呼称した。第１調査区と第２調査区は，５月18日から表土除去作業を開始し，併せて調査区周囲における杭打ちやネット張り等の安全対策を行った。同25日に人力による遺構検出作業を開始し，古代と中世を中心とする遺構の分布を確認した。６月26日にラジコンヘリによる空撮を行い，７月5日に第１調査区において現地説明会を実施した。現地説明会には50名の見学者がみられた。その後補足的な調査を行い，８月３日に埋め戻しが完了した。

第３調査区については，7月6日から表土除去作業を開始した。第３調査区内には農作物未収穫の畑にかかる部分があったため，収穫の終わった畑から順次調査を進めていった。７月11日に人力による遺構検出作業を開始し，古代を中心とする遺構の分布を確認した。８月20日に調査が終了し，同24日に埋め戻しが完了した。

整理作業は平成27年８月１日より平成28年３月20日までの約８ヵ月にわたって実施した。初めに出土遺物の洗浄・注記・接合，遺構図面や撮影画像の整理等を行った。その後，遺物の実測やトレース，遺物写真の撮影，報告書の原稿執筆，図版作成などの作業を経て，報告書・図面・遺物・台帳類を常陸大宮市教育委員会に返還し，整理作業の全工程が終了した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

北原遺跡は，茨城県常陸大宮市岩崎字北原744番地ほかに所在する。

常陸大宮市は県の北西部に位置し，北は大子町，東は常陸太田市，南は那珂市・城里町，西は栃木県那珂川町・那須烏山市・茂木市と接している。

市内の地形は，市域北部に尺丈山（511m）を最高峰とする八溝山地系の鷲子山塊が連なり，その南方に標高200m前後の瓜連丘陵が延びている。市域南部は標高15 ～ 30mの沖積地となっており，全体として北高南低の様相を呈する。

市内を流れる主要河川は，市の東を南流する久慈川と市の西を南東に流れる那珂川がある。この両水系には河岸段丘が発達し，下流には若干の低地も認められる。また，市の中央部には緒川・玉川が南流する。このうち本遺跡との関わりが深い久慈川は，古くからふるさとの人々に深い愛着の念を持たれており，７～８世紀にかけて編まれた『万葉集』には，「久慈川は幸（さけ）くあり待て潮船（しおぶね）に真楫繁貫（まかぢしじぬき）吾（わ）は帰り来（こ）む」という防人歌が詠われている 。

北原遺跡は，久慈川右岸にある標高35m程の低位段丘面縁辺部に立地する。JR常陸大宮駅から北に約5.6kmの旧大宮町域に位置し，国道118号線が遺跡の中を南北に縦貫する。遺跡の西側には段丘崖があり，段丘崖の先は標高50 ～ 70mほどの中位段丘面となっている。遺跡の北側には久慈川が流れ，川はこの地点で大きくカーブし，付近の農村をぐるりと囲むように蛇行した後南へ流れる。川の沿岸には，旧石器時代から近世に至る多くの遺跡が集中的に分布しており，生活に適した豊かな土地であったことがうかがえる。

第１図　茨城県における北原遺跡の位置

第２図　調査対象地の位置

第２節　歴史的環境

ここでは常陸大宮市域のうち，主に本遺跡の周辺に当たる久慈川右岸の台地上について記述する。

旧石器時代

北原遺跡周辺における人々の営みの痕跡は旧石器時代まで遡る。本地点から約1.6㎞南西に位置する梶巾遺跡（012）は，久慈川右岸の中位段丘面上にあり，昭和50年の発掘調査において関東ローム層より石器製作跡が検出された。出土した石器群は主に珪質頁岩製とガラス質黒色安山岩製で，槍先形尖頭器，石核，剥片など約2,000点が確認されている。また，本地点から約４㎞北方に位置する山方遺跡は，昭和39年に茨城県内初の旧石器である珪質頁岩製の石核２点が発見されている。

縄文時代

久慈川流域に立地する縄文時代の遺跡は，坪井上遺跡，梶巾遺跡，諏訪台遺跡などが知られている。本地点から約8.5㎞南方に位置する坪井上遺跡は，平成５年度と平成８年度の調査で縄文時代中期の住居跡や袋状土坑が多数確認されており，遺跡内からは表面採集のものを含めると８点もの翡翠製大珠が発見されている。また，平成８年度の調査で検出された第182号土坑からは，茨城・千葉・栃木を中心に分布する「阿玉台式土器」と，新潟県域を中心に分布する「馬高式土器」が土坑底面において共伴して出土しており，「阿玉台式と馬高式の平行関係を直接的に示す稀有の事例」と捉えられている〔鈴木1999・2001〕。

本地点から約2.8㎞南西にある諏訪台遺跡（028）は平成２年度に発掘調査が行われ，中期前半の袋状土坑13基，竪穴住居跡1軒が検出されている。そのほか，本遺跡の東に近接する後原遺跡（003）では踏査により中期の土器片が，本遺跡内でも平成25年度の調査で中期から後期にかけての土器片や打製石斧が出土しており，当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代

弥生時代の遺跡は，泉坂下遺跡，梶巾遺跡，坪井上遺跡などが知られている。本地点から約8.6㎞南方の泉坂下遺跡は，久慈川右岸の低位段丘面上にあり，平成18年１月～２月に実施された学術調査で弥生時代中期の再葬墓７基，土坑墓３基が検出された。再葬墓からは，国内最大の人面付壺形土器が出土している。

古墳時代

当該期の集落跡としては，梶巾遺跡（012）で前・中期の竪穴建物跡４軒が検出されている。また，市内の久慈川流域には多くの古墳が存在し，富士山古墳群，糖塚古墳群，一騎山古墳群，岩崎古墳群，鷹巣古墳群などが知られている。本地点から約8.9㎞南方に位置する富士山古墳群は，前期古墳の富士山４号墳，中期古墳の五所皇神社裏古墳（富士山５号墳）などがある。このうち富士山４号墳は，墳長37.8mを測る前方後方墳で，県内における出現期古墳の一つとされ，久慈川中流域の首長墓である可能性が高いと考えられている。本地点のから約２㎞南西に位置する糖塚古墳群（016）は，中期の大型前方後円墳である小祝糖塚古墳があり，一部削平されているが墳長は88mと推定されている。本地点から約8.4㎞南方に位置する一騎山古墳群は後期の古墳群で，前方後円墳である一騎山４号墳からは，人物・動物等の形象埴輪，円筒埴輪，朝顔形埴輪など，

豊富な埴輪の出土が知られている。そのほか後期の古墳群として，本地点から約700m北東の岩崎古墳群（005）には前方後円墳２基を含む６基の古墳が，約2.5km南方の鷹巣古墳群（026）には４基の古墳が確認されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は，上ノ宿遺跡，鷹巣原遺跡，鷹巣瓦窯跡，上坪遺跡などが知られている。本地点から約5.5km南方に位置する上ノ宿遺跡は，久慈川右岸の標高55mほどの中位段丘面上にあり，平成18年度・20年度・24年度の3度の調査で，合計126軒もの竪穴住居跡が確認され，この地域の拠点的集落跡であったと考えられている。検出された住居跡からは風字硯・耳皿や，「真家」と墨書された土師器皿など，特殊な遺物が出土している。「真家」と墨書された土師器皿は，本遺跡においても，平成25年度に調査された第14号住居跡から出土しており，「郷家」あるいは中心的役割を担う首長層の居住区である「家一区」（ヤケ）を示す可能性が指摘されている〔宮田2014〕。一方，本地点から約3.5km南西に位置する鷹巣原遺跡（034）は，標高61m前後の中位段丘面に立地し，昭和56年度と61年度の調査で，８世紀中葉から10世紀初頭に至る竪穴住居跡38軒，掘立柱建物跡2棟，柱穴列を伴う溝状遺構1条が確認されている。遺物は土師器，須恵器，鉄滓などのほか，カマド構築材として転用された瓦が多数出土している。なお，この瓦は鷹巣原遺跡の西側斜面に所在する鷹巣瓦窯跡群（038）で焼かれたものであることが確認されている。これらの発掘調査の成果から，市内の久慈川流域における８世紀から10世紀にかけての集落の全体像が明らかになってきている。

江戸時代後期に編纂された『新編 常陸国誌』では，当遺跡が立地する岩崎地内は当時「久慈郡・八部郷」の南端で，上ノ宿遺跡が所在する宇留野と，鷹巣原遺跡，鷹巣瓦窯跡が所在する横瀬［鷹巣］は「久慈郡・真野郷」であったとしている。また，久慈郡の郡衙跡・寺院跡については，現在多くの研究者が常陸太田市大里の「長者屋敷遺跡」とする見解を示している。この長者屋敷遺跡で出土した瓦は，常陸大宮市の鷹巣原遺跡で出土した瓦と，制作方法・胎土・焼成などの特徴が同じものが含まれており，鷹巣瓦窯跡で生産された瓦は，久慈川・山田川の水運を利用して久慈郡の郡衙・郡寺へ供給されたものと考えられている。

中世

中世については城館跡が多数確認されており，旧山方町域の山方城跡，竜ケ谷城跡，旧大宮町域の部垂城跡，宇留野城跡，前小屋城跡などがある。いずれも常陸国に広く権威を張った佐竹氏との関連が深い城跡で，交通の要衝である地に築城されている。本地点から約4.5km北方に位置する山方城跡は15世紀に築城された平山城で，土塁や空堀が現存し，昭和61年度の発掘調査では墨書が施された石，銭貨，灰釉陶器，カワラケなどが出土している。

近世

近世の常陸大宮市域は水戸藩の支配下に入る。水戸藩三大江堰の一つである岩崎江堰は，17世紀に本地点の北方に開削され，堰元である岩崎村から南へ延びる長大な水路は，久慈川右岸における利水事業の礎を築いた。当該期の遺跡としては，岩花塚群（004），弁慶松塚群（009）などの塚群が知られている。また，本地点の西側には水戸と奥州棚倉をむすぶ南郷道が南北に伸びており，近世においても交通の要衝であったことが窺える。（高野）

第３図　遺跡の位置と周辺の遺跡（茨城県遺跡地図平成13年版より作成）

表１　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代・時期							番号	遺跡名	種別	時代・時期						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
001	北原遺跡	集落跡				○	○			025	後田B遺跡	集落跡		○					
002	岩花遺跡	集落跡					○			026	鷹巣古墳群	古墳群				○			
003	後原遺跡	集落跡		○			○			027	上坪遺跡	集落跡	○	○			○		
004	岩花塚群	塚群							○	028	諏訪台遺跡	集落跡		○					
005	岩崎古墳群	古墳群				○				029	諏訪下遺跡	集落跡		○					
006	下地後遺跡	集落跡					○			030	鷹巣戸内遺跡	集落跡	○				○		
007	東平遺跡	集落跡		○			○			031	大阪平A遺跡	集落跡					○		
008	下坪遺跡	集落跡		○			○			032	鷹巣原B遺跡	集落跡					○	○	
009	弁慶松塚群	塚群							○	033	河井台遺跡	集落跡					○		
010	馬場先遺跡	集落跡		○		○	○			034	鷹巣原遺跡	集落跡		○			○		
011	宿東遺跡	集落跡			○	○	○			035	大阪平B遺跡	集落跡					○		
012	梶巾遺跡	集落跡	○	○	○		○			036	犬追遺跡	集落跡							
013	弁慶松遺跡	集落跡		○			○			037	田子内遺跡	集落跡					○		
014	原坪遺跡	集落跡					○			038	鷹巣瓦窯跡群	瓦窯跡					○		
015	京塚遺跡	集落跡			○		○			039	姥賀遺跡	集落跡		○			○		
016	糖塚古墳群	古墳群				○				040	姥賀東遺跡	集落跡				○	○		
017	中丸遺跡	集落跡		○			○			041	高渡遺跡	集落跡		○			○		
018	糖塚遺跡	集落跡			○		○			042	雷神山横穴群	横穴群				○			
019	向山遺跡	集落跡		○			○			043	富士権現古墳群	古墳群				○			
020	西沢遺跡	集落跡		○			○			044	岩欠横穴墓群	横穴群				○			
021	台坪遺跡	集落跡					○			045	富士山遺跡	集落跡		○					
022	経塚	塚						○		046	八田向原遺跡	集落跡						○	
023	十三塚	塚						○		047	三藏遺跡	集落跡		○			○		
024	後田A遺跡	集落跡					○												

参考文献

伊東重敏　1983 『常陸鷹巣遺跡（第1 次調査）』 大宮町教育委員会　鷹巣遺跡発掘調査会

井上義安他　1985 『茨城県梶巾遺跡- 大賀小学校校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
大宮町教育委員会　梶巾遺跡発掘調査会

井上義安　1987 『常陸鷹巣遺跡- 第2 次発掘調査報告-』 大宮町教育委員会　鷹巣遺跡発掘調査会

井上義安他　1987 『茨城県梶巾遺跡- 第２次発掘調査報告書-』 大宮町教育委員会　梶巾遺跡発掘調査会

井上義安他　1991 『諏訪台遺跡』 諏訪台遺跡発掘調査会

大宮町史編さん委員会　1977 『大宮町史』 大宮町

小川和博他　2009 『上ノ宿遺跡- 第2 次調査Ⅰ・Ⅱ -』 常陸大宮市教育委員会

小川和博他　2013 『上ノ宿遺跡Ⅲ - 診療所・調剤薬局造成に伴う埋蔵文化財発掘調査-』
茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第13 集　常陸大宮市教育委員会

金砂郷村史編さん委員会　1989 『金砂郷村史』 金砂郷村

瓦吹堅　1998 「茨城県の大珠」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会

後藤俊一　2013 『鷹巣戸内遺跡- 市道1418 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-』
茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第12 集　常陸大宮市教育委員会

常陽藝文編集部　1992 『常陸国風土記』　（財）常陽藝文センター

鈴木素行　1999 「越の旅人　望郷編　- 坪井上遺跡B 地区第182 号土坑の土器について-」
『茨城県考古学協会誌』第11 号　茨城県考古学協会

鈴木素行　2001 「坪井上遺跡の伝言- 久慈川下流域における縄文時代中期中葉の土器群-」
『婆良岐考古』第23 号　婆良岐考古同人会

千種重樹　1999 『坪井上遺跡- 大宮ショッピングセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
大宮町教育委員会　坪井上遺跡発掘調査会

中山信名修・栗田寛補（宮崎報恩会版） 1969 『新編常陸国誌』 常陸書房

宮田和男他　2014 『北原遺跡Ⅰ - 道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』
茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第18 集　常陸大宮市教育委員会

第３章　調査の成果

第１節　調査の概要

北原遺跡は久慈川右岸の標高35mの低位段丘面縁辺部に立地している。平成25年度に実施された第１次調査では，総面積7,433㎡が調査され，７世紀後半から10世紀の間に拠点的集落が営まれていたことが実証されている。

今回の第２次調査では，総面積1,196㎡の調査を行い，縄文時代の土坑１基，古墳時代の竪穴住居跡６軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡９軒，土坑３基，中世の掘立柱建物跡２棟，方形竪穴遺構12基，近世の墓壙６基，土坑３基，その他時期不明の溝跡１条，ピット列１条，土坑59基，ピット270基が検出された。

また，遺物は遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に20箱出土しており，土器類（縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，緑釉陶器，青磁，土師質土器，陶器，磁器）や石器・石製品（鏃・尖頭器・砥石・支脚），金属製品（鎌・刀子・鏃・閂・火打ち金・釘・煙管・仏像・銭貨）などが出土している。

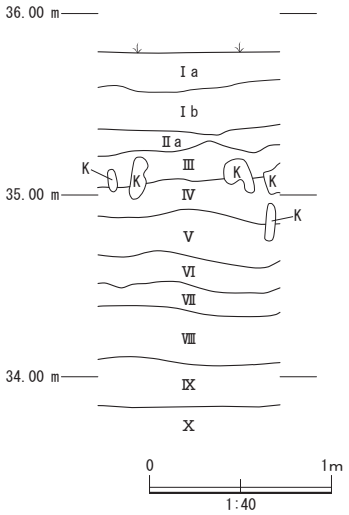
第２節　基本層序

本調査では基本層序観察のため，第１調査区北部（Y'6j9グリッド）にテストピットを設定し，基本土層の堆積状況の観察を行った（第４図）。また第３調査区のN1・O1・P1グリッド付近の地山は，現況とは異なり谷状に落ち込む地形となっており，掘削深度は安全が確保できる現地表下約1.1mまでにとどめ，調査区壁面で埋没谷の土層堆積状況を確認した（第５図）。なお，この埋没谷の範囲は，耕作土と地山の間に堆積する腐食土層（Ⅱa層）を確認面としたが，今回の調査で，この面から遺構は検出されていない。

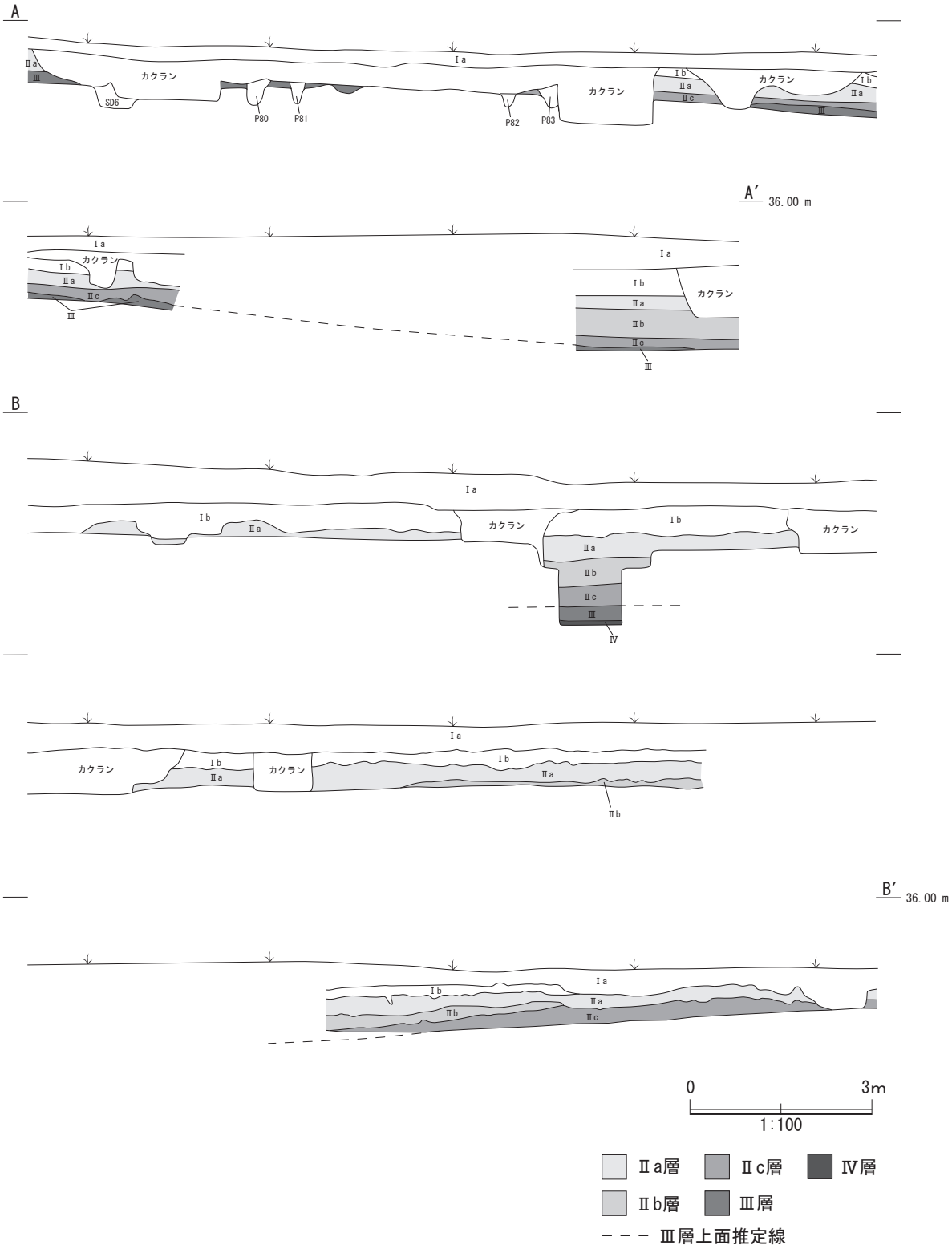
層序はⅠ～Ⅹ層まで認められた。Ⅰ層は２つに細分できる（Ⅰa・Ⅰb）。上層（Ⅰa）は現耕作土層，下層（Ⅰb）は旧耕作土層である。Ⅱ層は黒褐色を呈する腐食土層で，３つに細分できる（Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc）。Ⅱb層・Ⅱc層は，第３調査区のみで確認された。Ⅲ層は今市・七本桜軽石層で，遺構確認面である。今市軽石層が主体で，七本桜軽石層は部分的に確認された。Ⅳ層は軟質ローム層，Ⅴ層は硬質ローム層である。Ⅵ層以下は流水による堆積層で，Ⅵ～Ⅸ層は色調・含有物の差により分層した。Ⅹ層は10～30㎝大の亜円礫・亜角礫が堆積する礫層である。これらの流水層は旧久慈川あるいは久慈川支流の河床材料の堆積層の可能性がある。

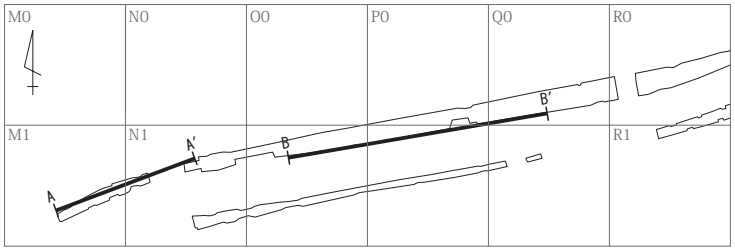
基本層序土層解説

Ⅰa	10YR3/1	黒 褐 色：耕作土
Ⅰb	10YR3/4	暗 褐 色：旧耕作土
Ⅱa	10YR2/2	黒 褐 色：小石少量，締まり弱い
Ⅱb	10YR3/1	黒 褐 色：ローム粒子微量，粘性あり，やや締まりあり
Ⅱc	10YR3/3	黒 褐 色：ローム粒子微量，今市・七本桜軽石粒微量，締まりあり
Ⅲ	5YR7/8	橙　　色：粒子は比較的粗い，締まりあり（今市・七本桜軽石層）
Ⅳ	10YR6/6	明黄褐色：白色粒子微量（軟質ローム層）
Ⅴ	10YR6/3	にぶい黄褐色：白色粒子微量，締まり堅緻（硬質ローム層）
Ⅵ	10YR6/2	灰黄褐色：白色粒子微量，赤褐色粒子微量，締まり堅緻
Ⅶ	10YR5/2	灰黄褐色：白色粒子微量，赤褐色粒子少量，小石少量，締まり堅緻
Ⅷ	10YR4/3	にぶい黄褐色：白色粒子微量，シルトブロック少量，小石少量，締まり堅緻
Ⅸ	10YR5/4	にぶい黄褐色：白色粒子微量，シルトブロック少量，礫少量，締まり堅緻
Ⅹ	礫層	

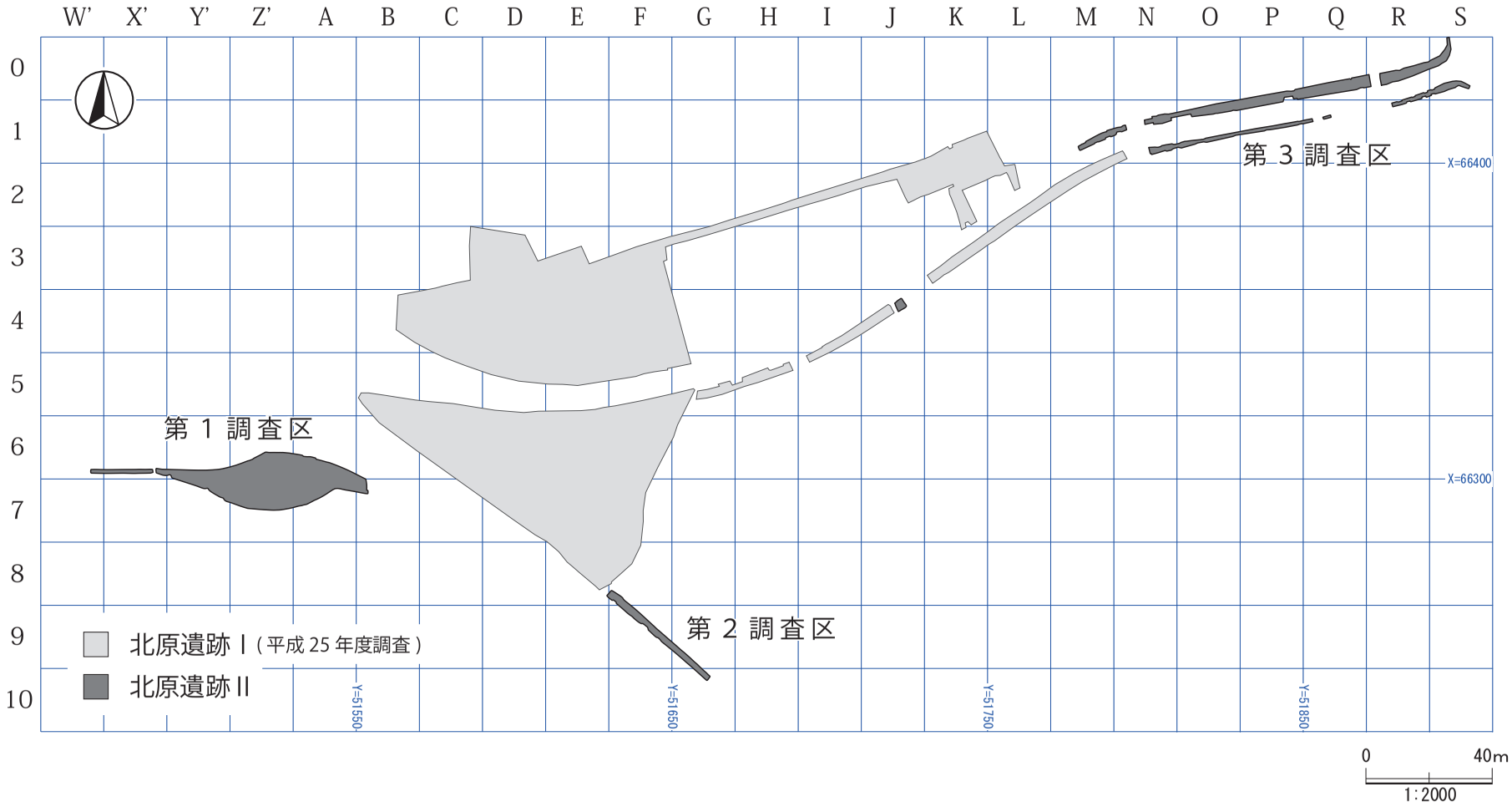


第４図　基本土層図

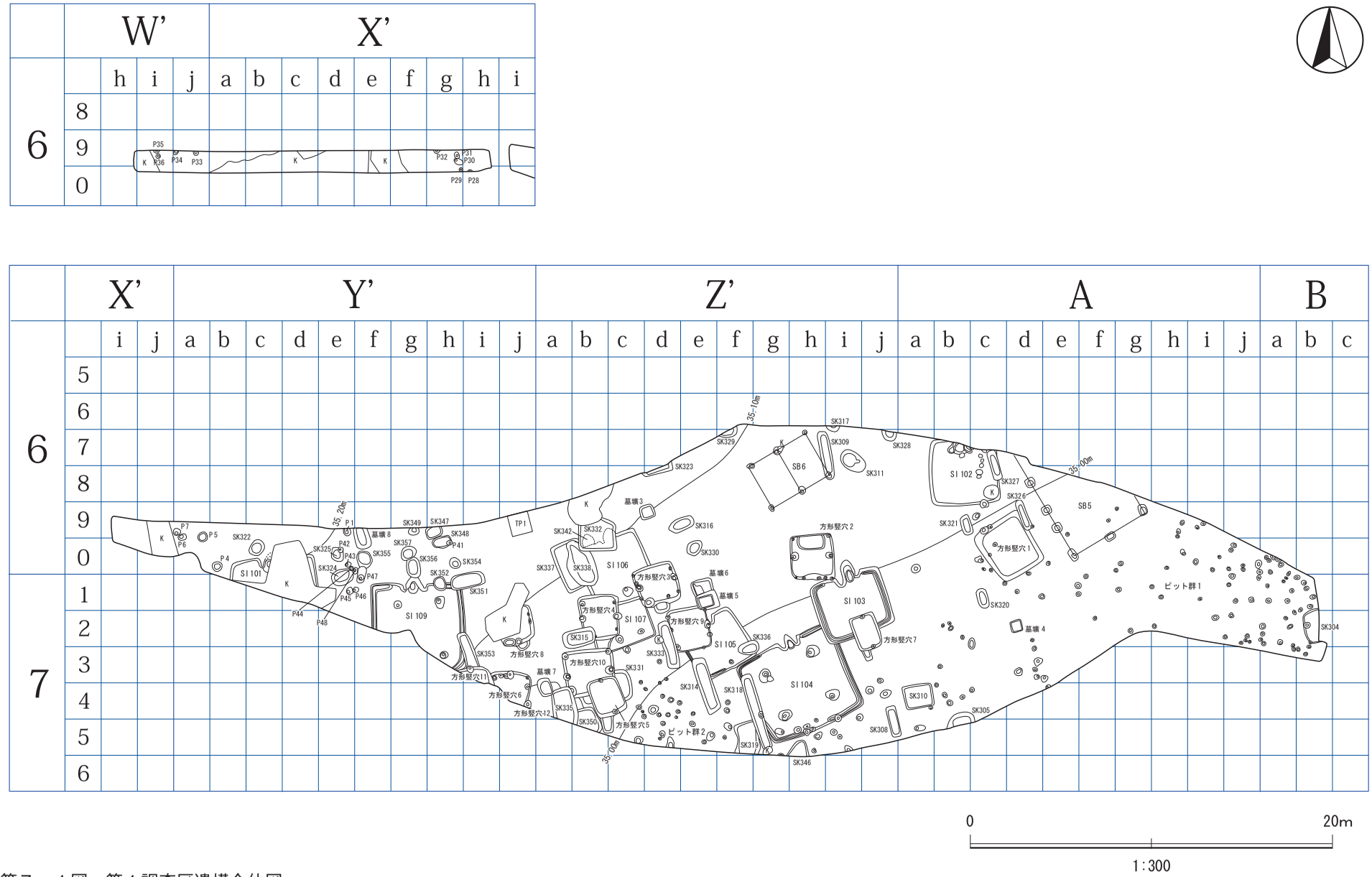




第５図　第3調査区壁面土層断面図

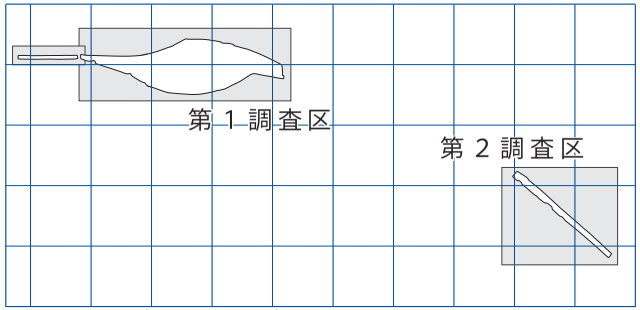


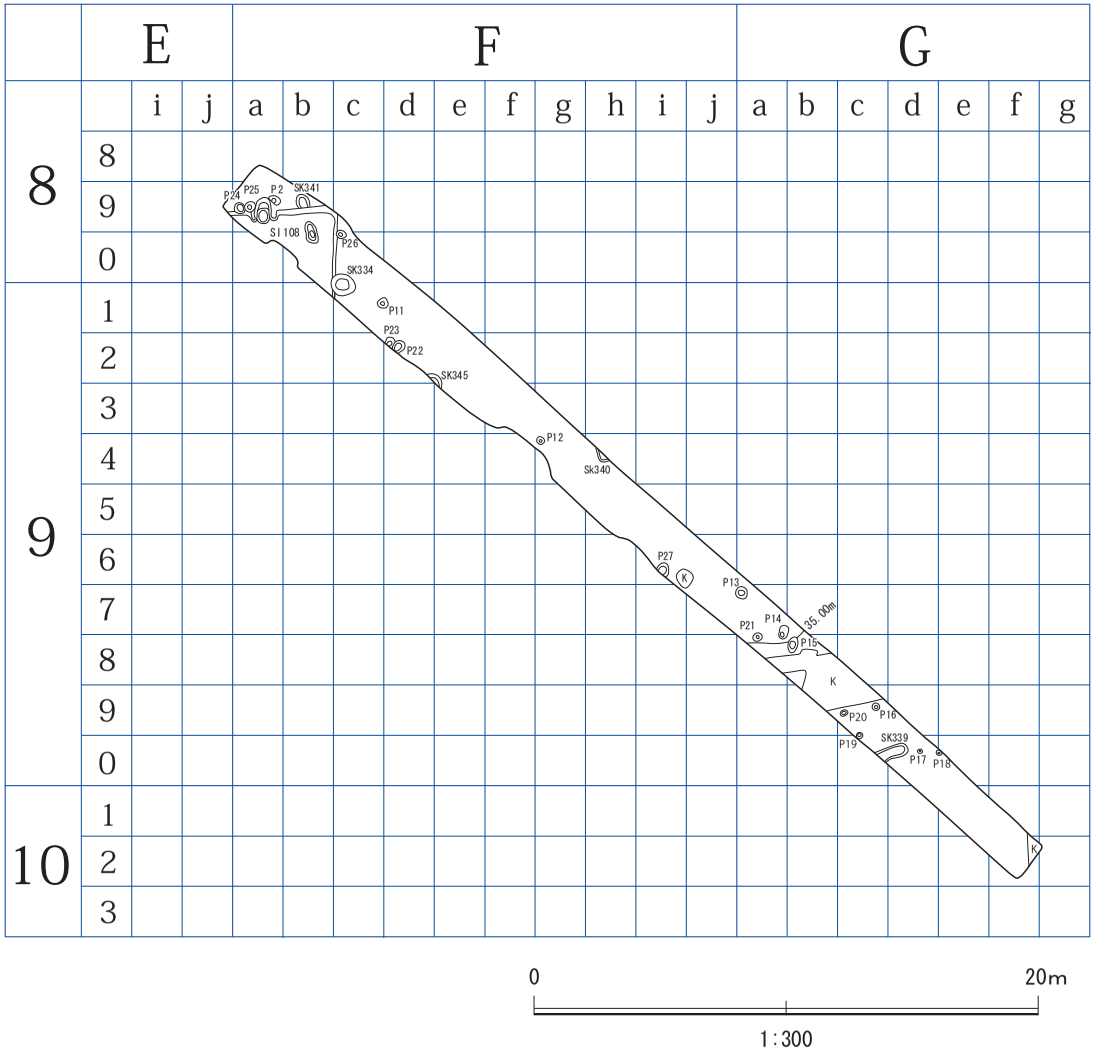
第６図　調査区配置図及び大グリッド配置図



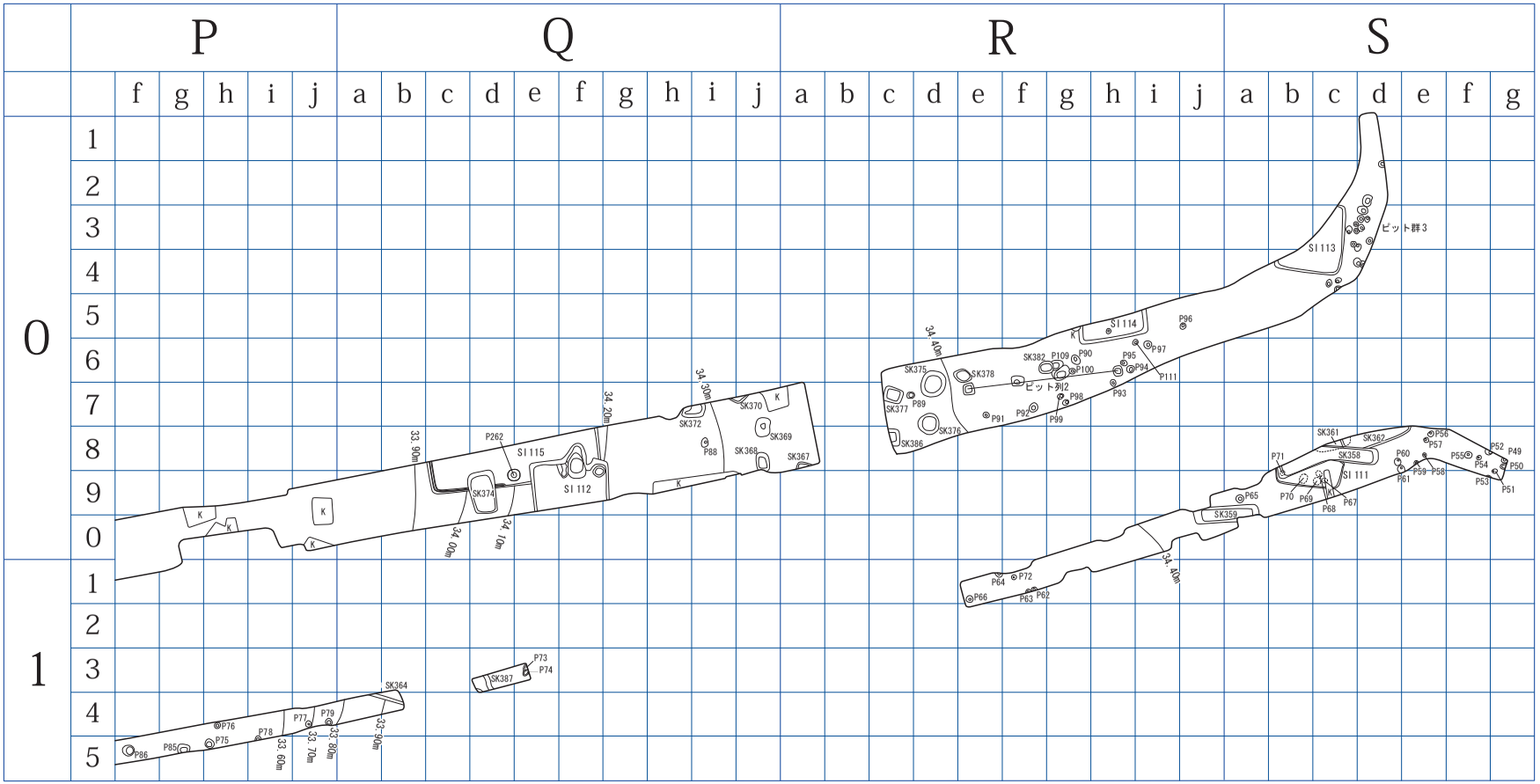
第７－１図　第１調査区遺構全体図

第１・２調査区略図

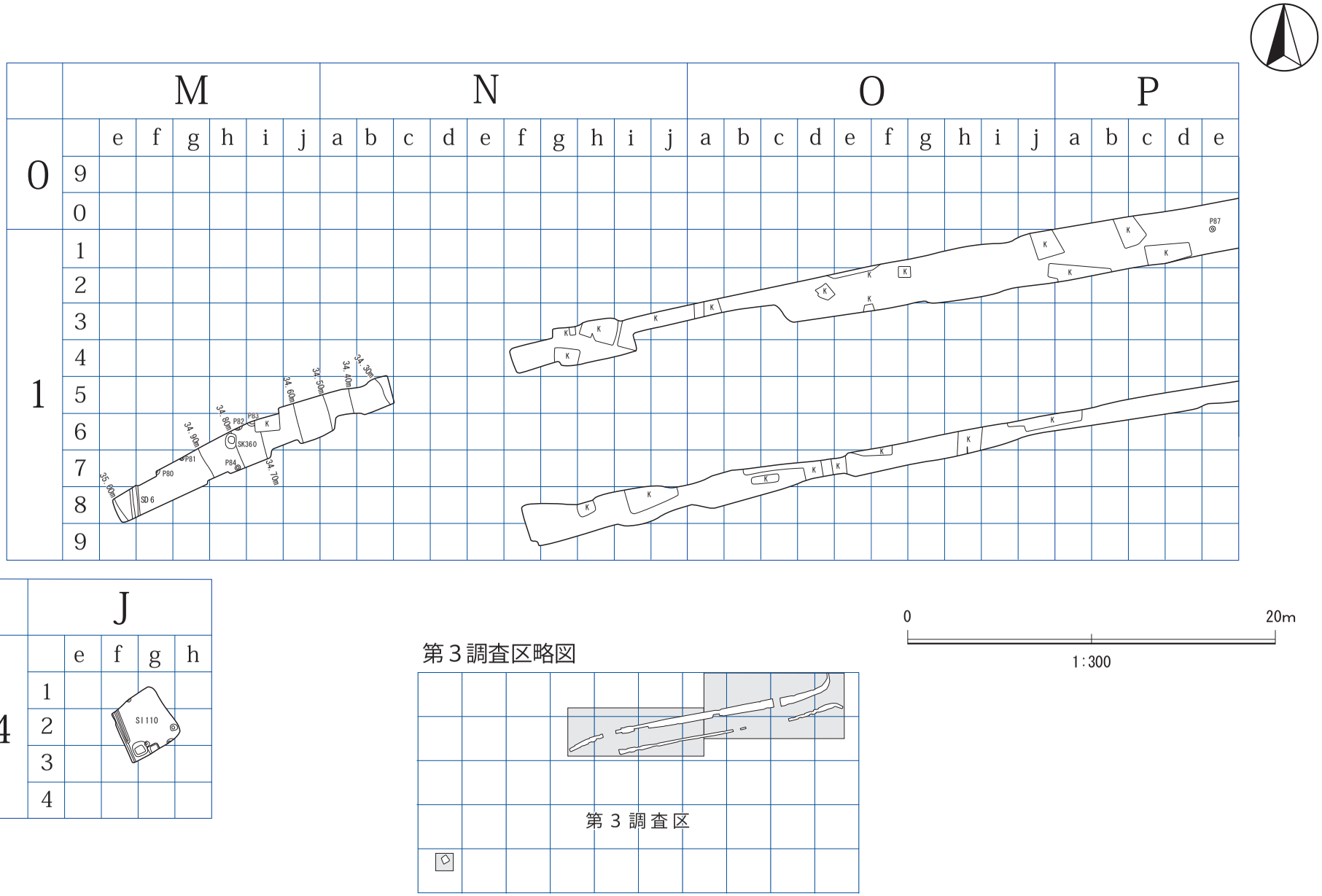




第７－２図　第２調査区遺構全体図



第７－３図　第３調査区遺構全体図（１）



第７－４図　第３調査区遺構全体図（２）

第３節　遺構と遺物

１　縄文・弥生時代

（１）土坑

第322号土坑（第８図，表２）

位置　第１調査区Y'6c0グリッド，標高35.27m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.91m，短軸0.74mの楕円形を呈し，深さ32cmほど掘り込まれる。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

土層　レンズ状の堆積状況を示しているが，覆土に焼土粒子・炭化物を含むことや，遺物の接合関係などから人為堆積と考えられる。

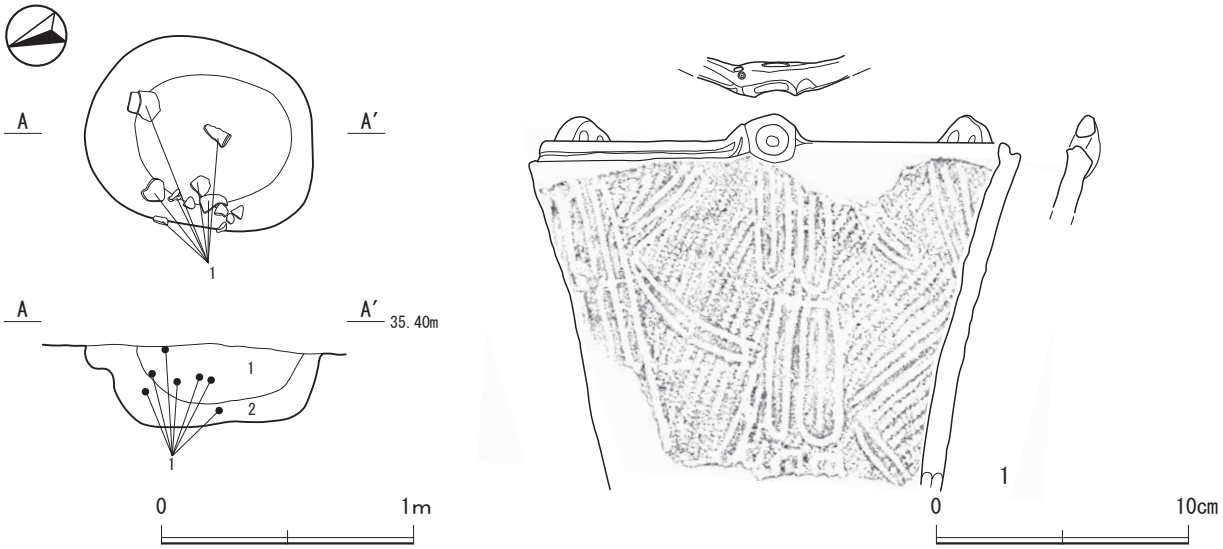
土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：焼土粒子微量，炭化物微量，粘性あり，やや締まりあり

2　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物微量，粘性あり，やや締まりあり

遺物出土状況　縄文土器片15点，軽石１点が出土した。全て覆土中から出土しており，接合関係にある破片も破片もあることから，投棄されたものと考えられる。

所見　本土坑は，出土遺物から縄文時代後期前葉のものと考えられる。



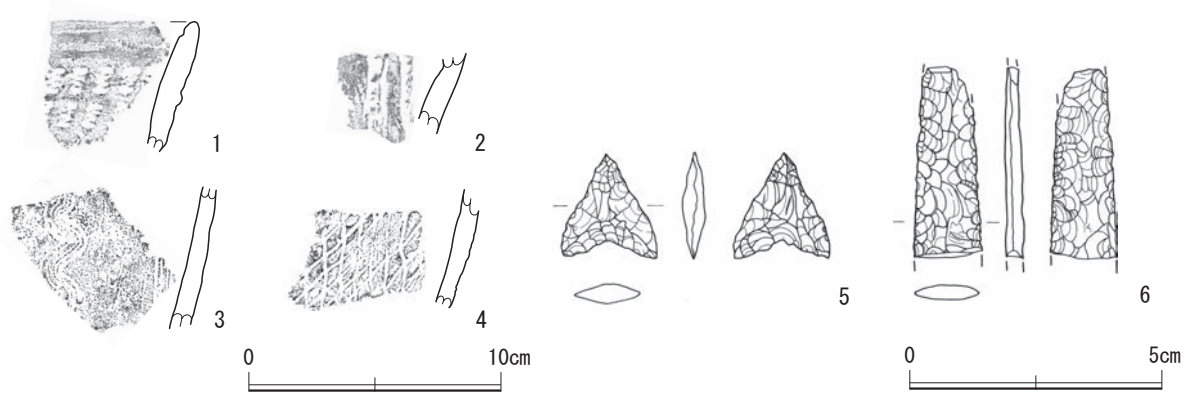
第８図　第322号土坑・出土遺物実測図

表２　第322号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	18.1	(14.8)	－	石英，長石，白色粒子	浅黄色	口唇部に沈線，口縁部は直線的に立ち上がり突起が3ヶ所配される，胴部は地文に単節LR縄文を施文した上に沈線文を描く	1・2層	45% 後期・堀之内Ⅰ式 PL15

（2）遺構外出土遺物

ここでは，縄文・弥生時代以外の遺構覆土から出土した縄文・弥生時代の遺物をまとめて掲載する（第９図，表３）。



第９図　縄文・弥生時代遺構外出土遺物実測図

表３　縄文・弥生時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	石英，長石，白色粒子，赤色粒子	にぶい黄褐色	口縁部に櫛状工具による押圧，口唇部は丸味をもち，内面に1条の沈線がめぐる	SI106覆土中混入	5% 前期中葉 PL15
2	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	石英，白色粒子	にぶい橙色	胴部に縦位の隆帯を垂下，押引文が隆帯の両側に沿う	SI103覆土中混入	5% 中期中葉 PL15
3	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	石英，小礫	にぶい橙色	胴部に6本単位の櫛歯状工具を用いた蛇行する条線文の垂下	方形竪穴1覆土中混入	5% 中期後葉 PL15
4	弥生土器	壺	－	(4.7)	－	石英，白色粒子	にぶい黄褐色	胴部に網目状の撚糸文	SI105覆土中混入	5% 後期・十王台式 PL15

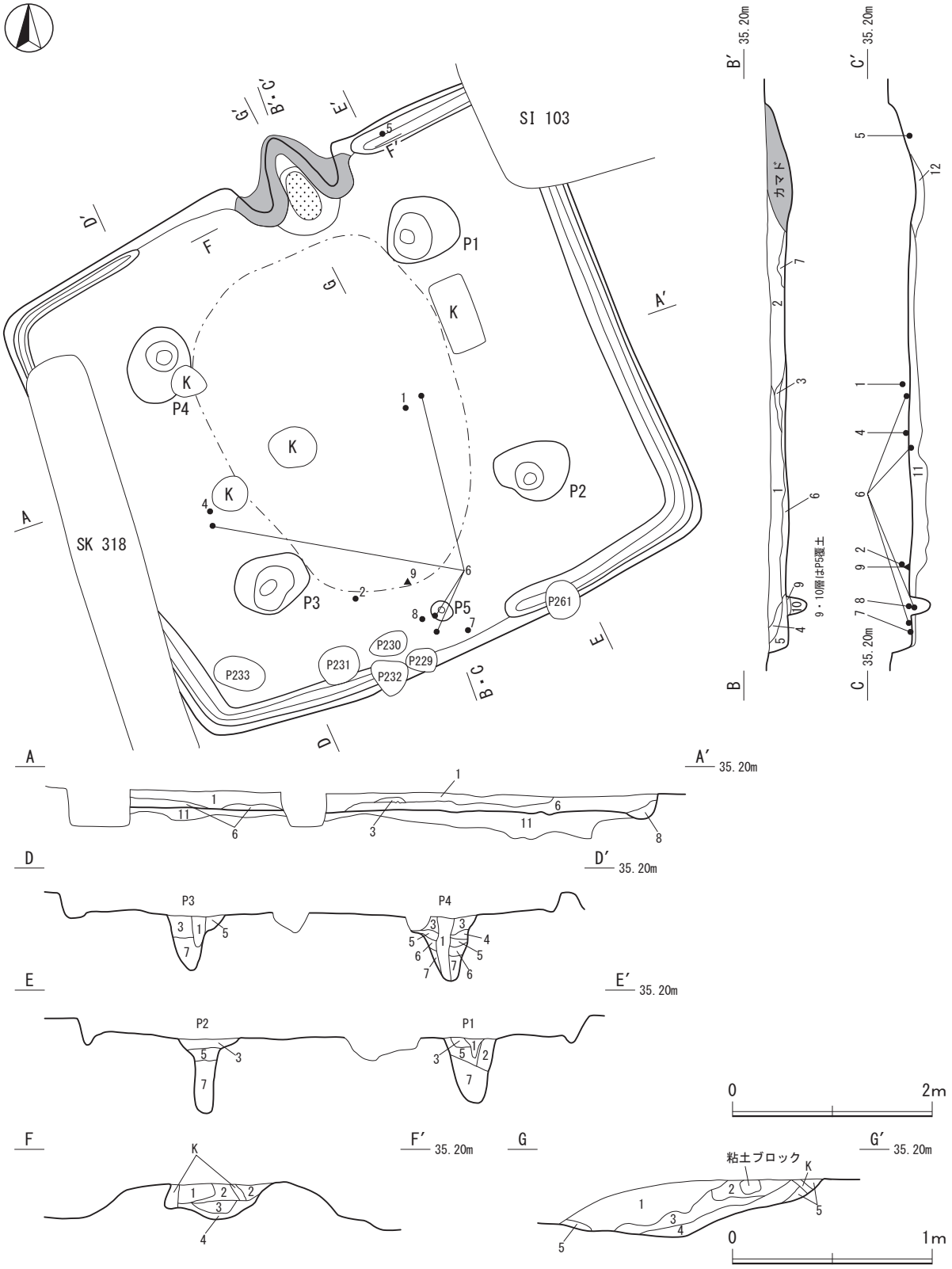
番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	特徴	出土位置	備考
5	石鏃	2.0	1.9	0.5	1.0	玉髄	無茎鏃，両面を押圧剥離で整形，両面全面調整	SK313覆土中混入	PL15
6	尖頭器	(3.7)	1.3	0.35	(2.0)	珪質頁岩	両面を押圧剥離で整形，両端部欠損	SI104覆土中混入	PL15

2　古墳時代

（1）竪穴住居跡

第104号竪穴住居跡（第10・11図，表４）

位置　第１調査区Z'7h3グリッド，標高34.96m地点に位置する。



第10図　第104号竪穴住居跡実測図

規模と形状　長軸5.70m，短軸5.25mの方形を呈し，主軸方向はN－24°－Wである。壁高は確認面から最大高20cmを測り，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　北東コーナー部を第103号住居跡に，西部を第318号土坑に，南部を第２号ピット群に掘り込まれている。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量，浅黄色パミス少量
3　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，砂質粘土ブロック多量，浅黄色パミス微量，赤色スコリア少量
4　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量
5　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物微量，浅黄色パミス微量
7　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，浅黄色パミス微量
8　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量（壁溝覆土第１層）
9　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量（P5覆土第１層）
10　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量（P5覆土第２層）
11　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，砂質粘土ブロック微量（貼床構築土）
12　10YR3/3　暗 褐 色：炭化物微量，砂質粘土ブロック少量（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

壁溝　南部中央を除き，ほぼ全周する。幅11～26cmで巡り，断面は主にU字形である。

壁溝土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量（住居跡覆土第8層）

竈　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは102cmである。天井部は崩落しており，砂質粘土ブロックを含む第２・３層が相当する。また第２層内の焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。袖部の基部の最大幅は約58cmで，袖部の基礎は地山を削り出し，その周囲に砂質粘土で構築されている。火床部は床面から９cmほど低くなっている。なお，煙道は壁外へ28cmほど削り込んで造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，砂質粘土ブロック少量
3　10YR5/3　にぶい黄褐色：ロームブロック少量，焼土ブロック微量，砂質粘土ブロック中量
4　5YR4/3　にぶい赤褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量
5　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック微量

柱穴　５ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ４は主柱穴でＰ５は出入口ピットと考えられる。Ｐ１：78×64cm，深さ63cm，Ｐ２：75×60cm，深さ74cm，Ｐ３：76×59cm，深さ54cm，Ｐ４：66×72cm，深さ64cm，Ｐ５：20×21cm，深さ19cmである。

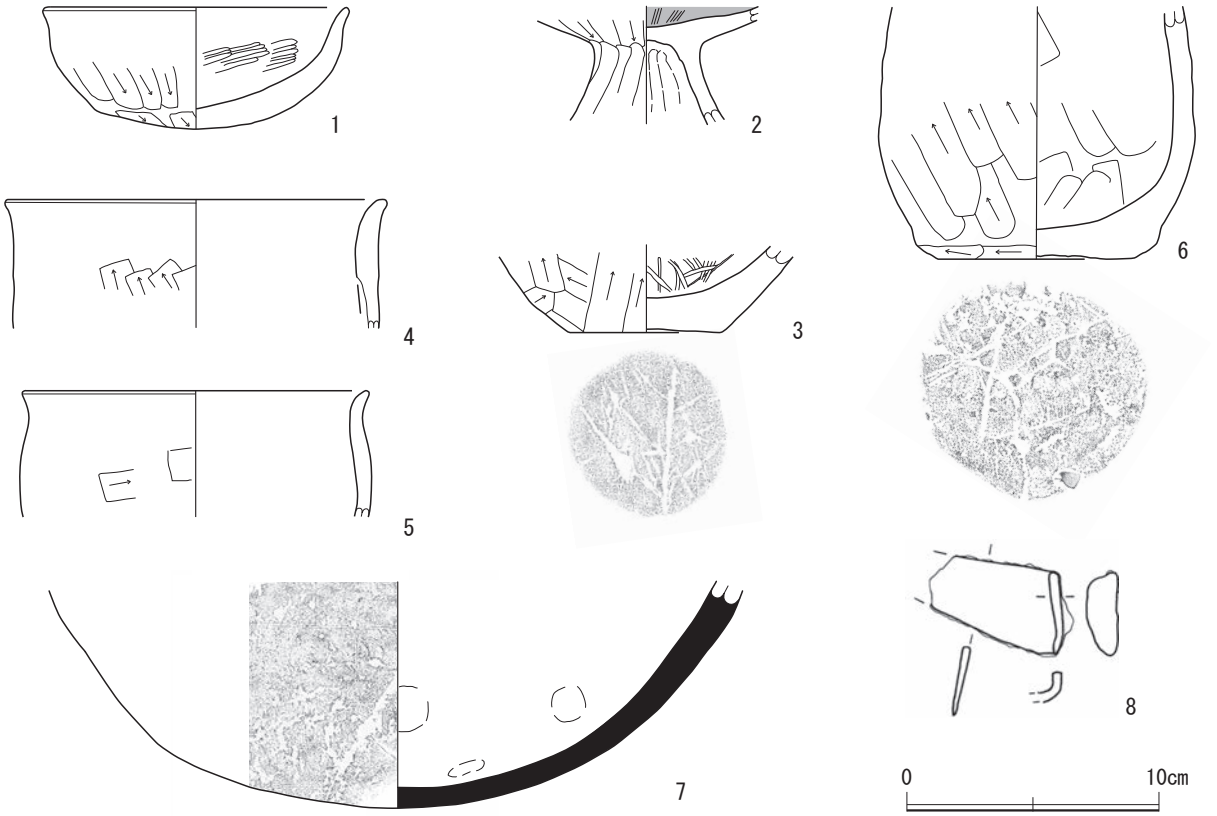
P1～4土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，炭化物少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
2　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子中量
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量
4　10YR6/6　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子少量
5　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，炭化物少量，浅黄色パミス微量，赤色スコリア微量
6　10YR6/6　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，締まり弱い
7　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，浅黄色パミス微量，赤色スコリア微量

P5土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量（住居跡覆土第9層）
2　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量（住居跡覆土第10層）

遺物出土状況　縄文土器片２点，弥生土器片１点，土師器片51点（坏類10，高坏１，甕類40），須恵器片４点（坏類２，甕類１，壺類１），土師質土器片２点（小皿２），石器１点（尖頭器１），金属製品１点（鎌１），炭化材１点が出土した。図化した遺物の出土位置は，床直あるいは床に近い高さにあり，出入口付近に集中する傾向がある。なお，６の土師器甕底部から虫体圧痕が２ヶ所確認され，同定の結果，いずれも節足動物のオビヤスデ属の圧痕であることが分かった。



第11図　第104号竪穴住居跡出土遺物実測図

表４　第104号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	〔12.0〕	4.8	－	石英，長石，白色粒子，赤色粒子，小礫	黒褐色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り後ナデ，内面ヘラミガキ	6層	50% PL15
2	土師器	高坏	－	(4.7)	－	石英，長石，赤色粒子	にぶい橙色	内面黒色処理，坏部外面ヘラ削り，内面ヘラミガキ，脚部外面縦位のヘラミガキ，脚部内面指ナデ	1層	20% PL15
3	土師器	甕	－	(3.5)	6.0	石英，長石，白雲母，赤色粒子	にぶい橙色	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラミガキ，底部木葉痕	床面	5% PL16
4	土師器	甕	〔14.9〕	(5.1)	－	石英，長石，白雲母，白色粒子	にぶい赤褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面剥離	床面	5% PL16
5	土師器	甕	〔13.6〕	(5.0)	－	石英，長石	暗褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ	壁溝覆土中	5% PL16
6	土師器	甕	－	(10.0)	7.8	石英，長石，小礫	にぶい赤褐色	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部木葉痕・虫体圧痕2ヶ所	床面，P5覆土中	30% PL16
7	須恵器	甕	－	(9.0)	－	石英，長石，白雲母	灰黄色	外面縦・横方向のヘラナデ，外面スス付着，内面指頭圧痕	床面	15% PL16

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
8	鉄製品(鎌)	(5.3)	3.4	0.4	(22.7)	鉄	断面長三角形。基部は12mm程折り曲げられている。	床面	PL16

所見　図化した遺物は，住居廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。時期は出土遺物から判断して，６世紀代と考えられる。また，床面から出土した土師器甕の虫体圧痕同定の結果から，付近にオビヤスデ属が生息する森林，または植木の多い場所が存在していた可能性が指摘されている。

第107号竪穴住居跡（第12・13図，表５）

位置　第１調査区Z'7c2グリッド，標高35.05m地点に位置する。

規模と形状　住居跡北部と西部が壊されているため明確ではないが，調査できた範囲は長軸（2.77）m，短軸（2.34）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。南辺を基準とすると，主軸方向はN－21°－Wを示す。壁高は確認面から最大高24cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部を第106号住居跡に，北東部を第３号方形竪穴遺構に，西部を第４号方形竪穴遺構に，南西部を第10号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

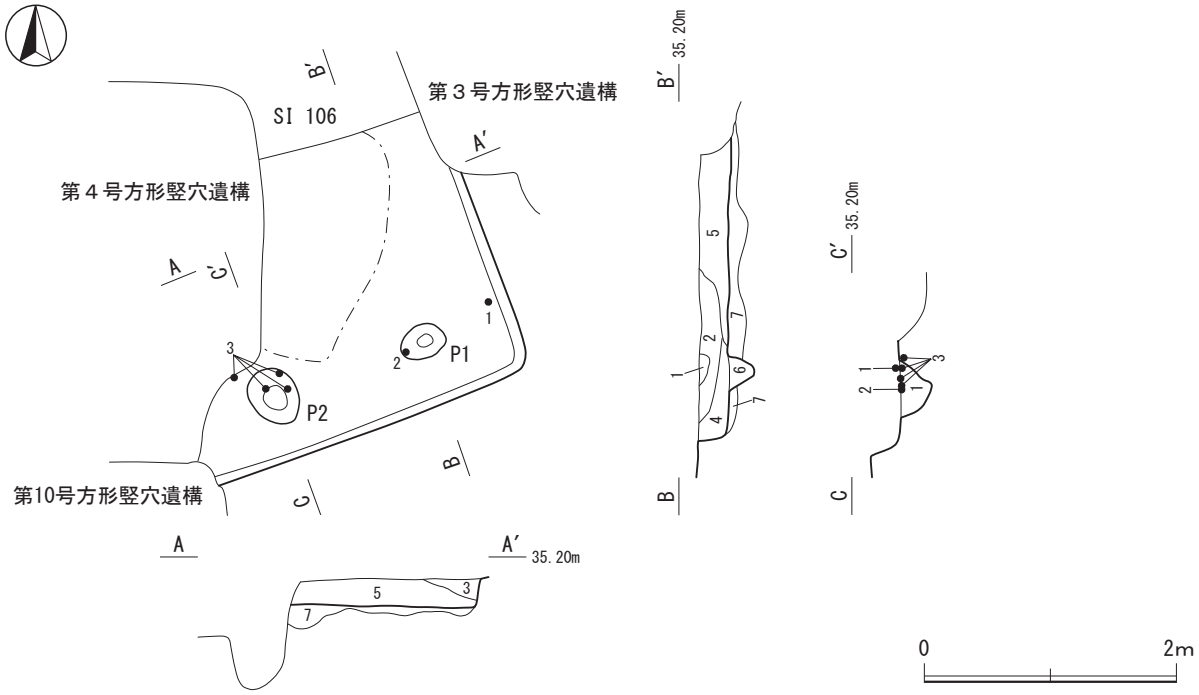
土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　10YR6/6　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，浅黄色パミス微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，砂質粘土ブロック微量
4　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子中量，浅黄色パミス少量，やや締まりあり
5　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量
6　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量（Ｐ１覆土第１層）
7　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，締まり強い（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

壁溝　検出されていない。

竈　床面に竈構築材である砂質粘土ブロックが飛散していることから，竈は付設されていたと推測できるが，調査範囲内では検出されていない。



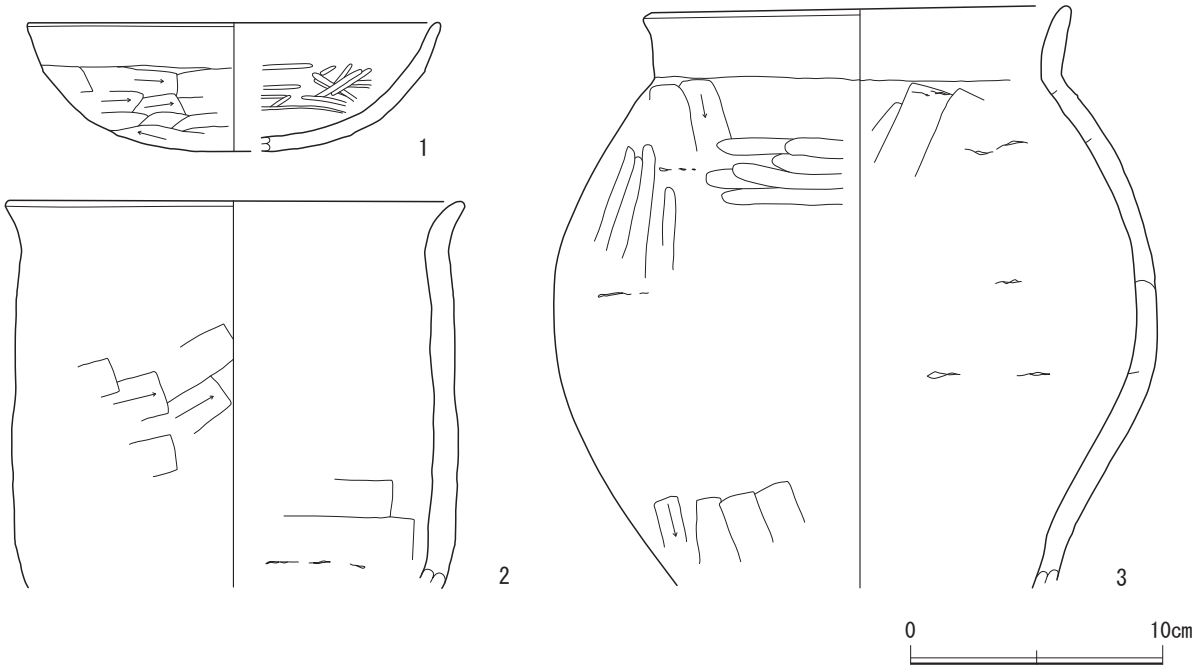
第12図　第107号竪穴住居跡実測図

柱穴　２ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性がある。Ｐ１：37×26cm，深さ20cm，Ｐ２：38×47cm，深さ25cmである。

P1土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量（住居跡覆土第6層）
P2土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化物少量，粘土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片23点（坏類３，甕類21）が出土した。１の土師器坏は東壁際の床面から少し浮いた位置で，２の土師器甕はＰ１の覆土中より正位の状態で出土している。

所見　本跡は北部と西部が後世の遺構に壊されているため，遺存しているところが少なかったが，床面及び柱穴から良好な状態で遺物が出土している。また，近接する第104号住居跡と主軸方向が近似しており，時期は第104号住居跡と同じ６世紀代と考えられる。



第13図　第107号竪穴住居跡出土遺物実測図

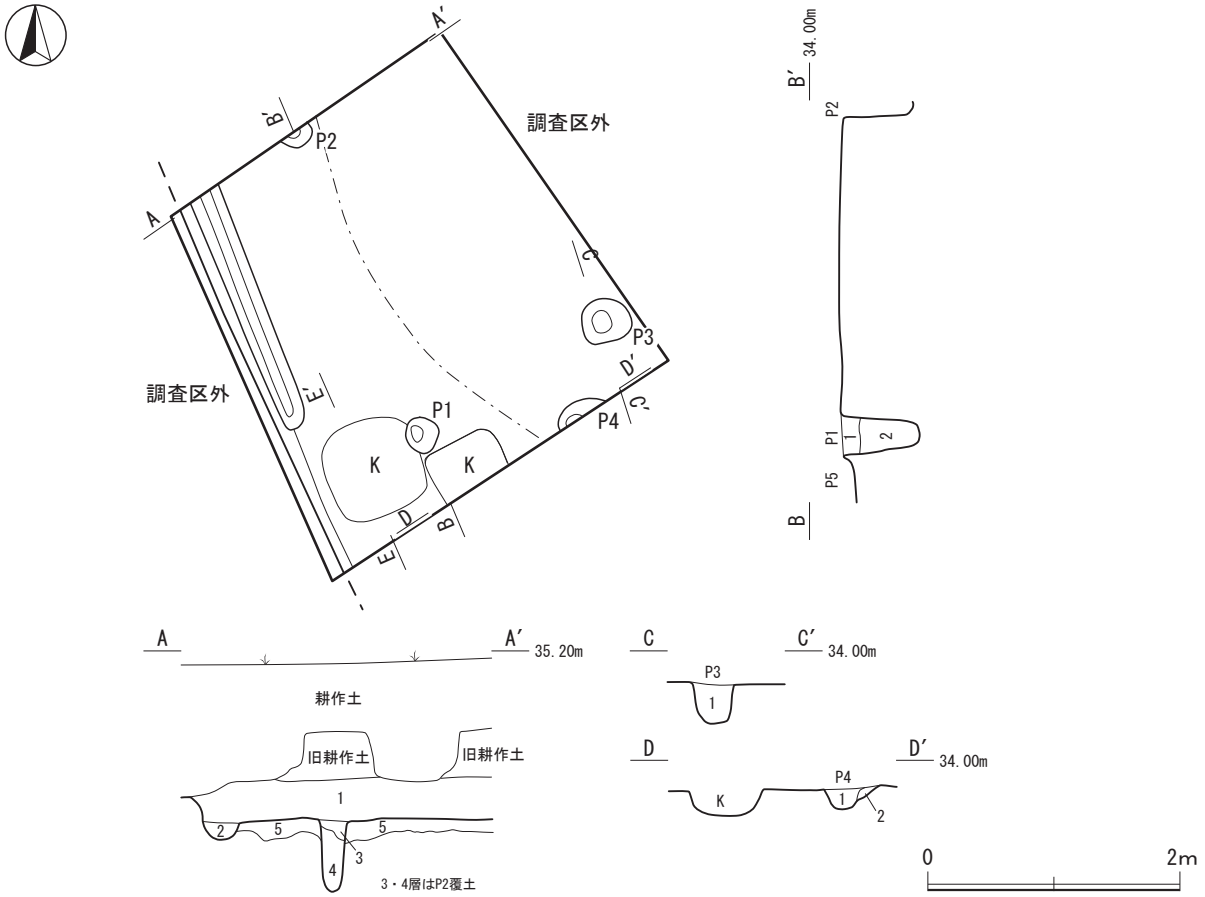
表５　第107号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	(16.2)	5.1	－	石英，長石，白色粒子，赤色粒子	にぶい黄橙色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラミガキ	4層	20% PL16
2	土師器	甕	(17.8)	(15.3)	－	石英，長石，小礫	暗褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，体部内面ヘラナデ，輪積痕	P1覆土中	15%
3	土師器	甕	(16.6)	(23.3)	－	石英，長石，金雲母	黄褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後上位ヘラミガキ，体部内面ヘラナデ，輪積痕	床面，P2覆土中	30% PL17

第110号竪穴住居跡（第14・15図，表6）

位置　第３調査区J4g2グリッド，標高34.10m地点に位置する。

規模と形状　大半が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（3.19）m，短軸（3.00）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。また，確認された壁や柱穴の配置を基準とすると，主軸方向はN－21°－Wを示す。壁高は確認面から最大高22cmを測り，外傾して立ち上がる。



第14図　第110号竪穴住居跡実測図

重複関係　大半が調査区外にあるため不明であるが，調査範囲内では単独で位置する。

土層　自然堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物微量，浅黄色パミス微量，赤色スコリア微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，浅黄色パミス少量（壁溝覆土第１層）
3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量（P2覆土第１層）
4　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量（P2覆土第２層）
5　10YR7/6　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，浅黄色パミス中量，赤色スコリア中量，締まり強い（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックがP3付近の床面直上で散見された。

壁溝　西壁際で一部確認でき，断面はU字形状である。

壁溝土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，浅黄色パミス少量（住居跡覆土第2層）

竈　床面に竈構築材が散見することから，調査区外に付設されていると推測される。

柱穴　６ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性が高い。Ｐ１：30×36cm，深さ62cm，Ｐ２：28×（13）cm，深さ57cm，Ｐ３：39×35cm，深さ31cm，Ｐ４：43×（17）cm，深さ16cmである。

P1・P2土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量（住居跡覆土第３層）
2　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量（住居跡覆土第４層）

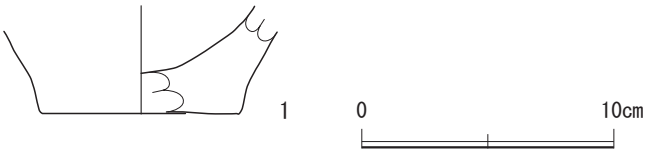
P3土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量，浅黄色パミス微量，締まり弱い

P4土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，浅黄色パミス微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，浅黄色パミス中量，赤色スコリア少量

遺物出土状況　土師器片８点（坏類２，甕類６）が出土した。遺物はすべて埋土中から出土した破片で，住居廃絶後の埋め戻しの段階で混入したものと考えられる。

所見　大半が調査区外へと延びている。また，本跡は遺構掘削時に床面を把握できず掘りすぎてしまう結果となってしまった。出土した遺物は細片８点に留まり，明確に時期を判断するには至らなかったが，遺構の規模・主軸方向・構造の特徴などから，古墳時代後期の住居跡と推測される。



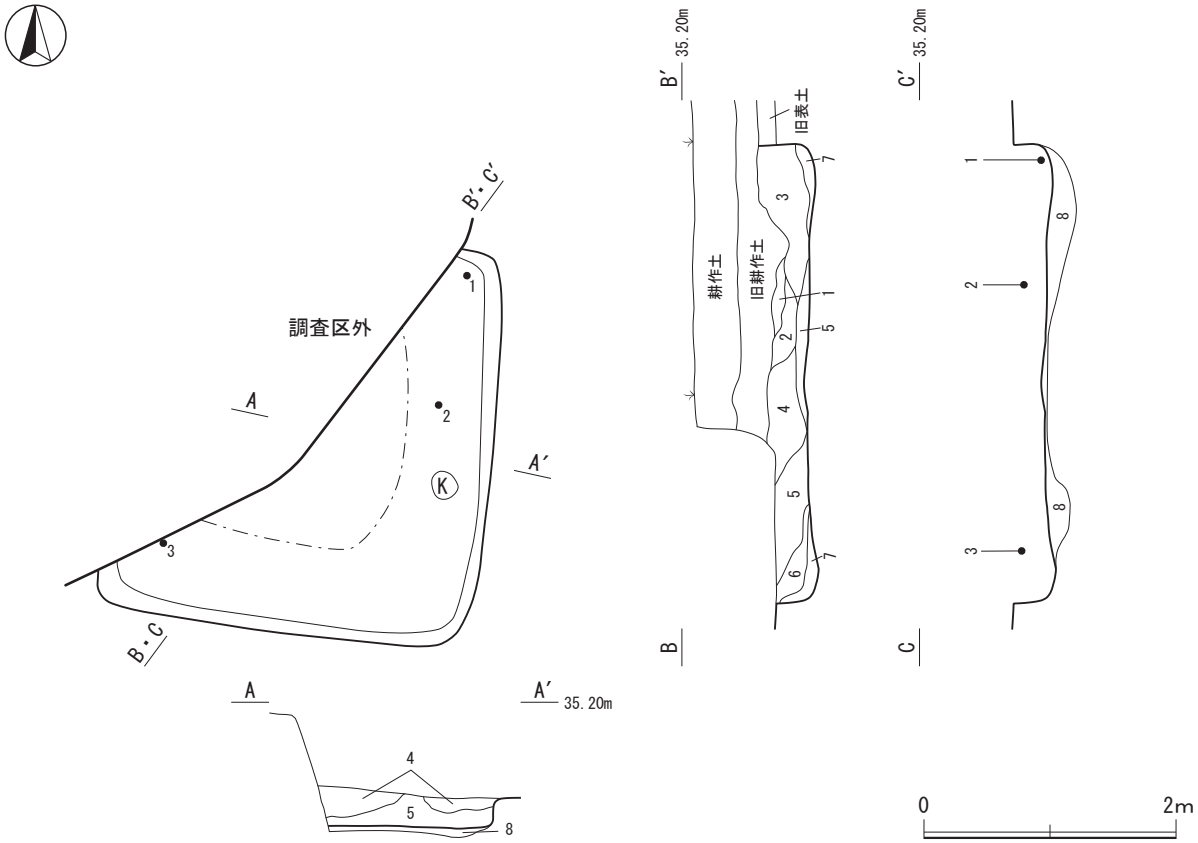
第15図　第110号竪穴住居跡出土遺物実測図

表６　第110号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	－	(4.3)	〔7.8〕	石英，長石，白色粒子	にぶい橙色	内外面ヘラナデ	1層	5% PL17

第113号竪穴住居跡（第16・17図，表７）

位置　第３調査区S0c3グリッド，標高34.43m地点に位置する。



第16図　第113号竪穴住居跡実測図

規模と形状　本跡中央部～北西部が調査区外にあるが，長軸3.18m，短軸（3.00）mの方形を呈していると推測される。また，南辺を基準とすると，主軸方向はN－５°－Ｅを示す。壁高は確認面から最大高30cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　調査範囲内では単独で位置する。

土層　不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，浅黄色パミス微量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子微量，浅黄色パミス微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子中量，浅黄色パミス少量
4　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，浅黄色パミス少量，締まり弱い
5　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，浅黄色パミス少量
6　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子中量，浅黄色パミス少量
7　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子多量，浅黄色パミス少量
8　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，浅黄色パミス微量，締まり強い（貼床構築土）

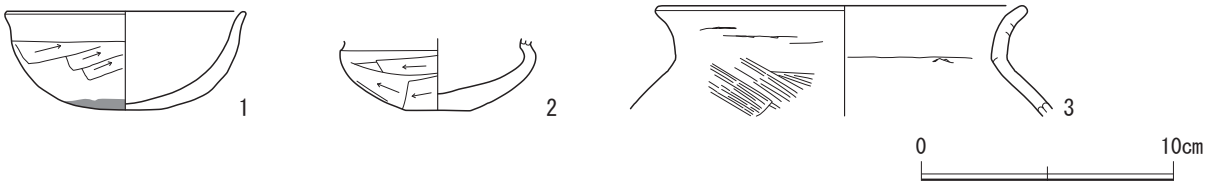
床　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

壁溝　検出されていない。

柱穴　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　土師器片182点（坏類14，鉢２，甕類166），須恵器片４点（坏類４）が出土した。１の土師器坏は北東部の壁際から，２の土師器坏は東部から，３の土師器甕は南西部から，いずれも床面より高い位置から出土している。

所見　出土遺物の多くは５世紀代の産物であるが床面直上から出土した遺物は少なく，また磨滅しているものや接合しない遺物が多く，投棄された，あるいは埋土に混入したものと考えられる。



第17図　第113号竪穴住居跡出土遺物実測図

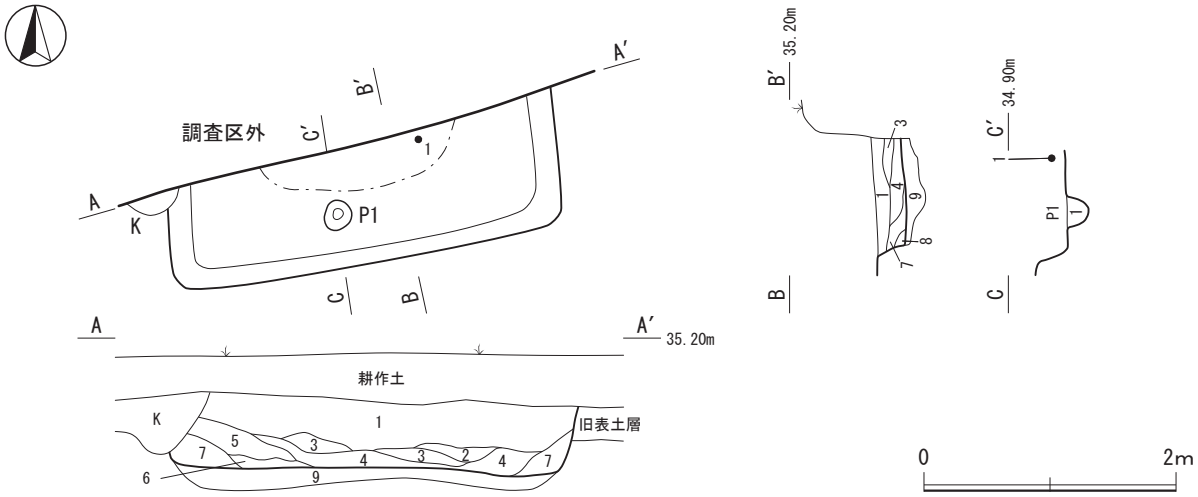
表７　第113号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	9.4	3.9	－	石英，長石，金雲母	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り後ナデ，内面斜位に強めの指ナデ，底部外面スス付着	7層	95% PL17
2	土師器	坏	－	(2.8)	2.5	石英，長石，白色粒子，小礫	にぶい黄褐色	体部～底部外面手持ちヘラ削り後ナデ，内面ナデ	5層	20% PL17
3	土師器	甕	〔14.3〕	(4.1)	－	石英，長石，小礫	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ハケ目，輪積痕	2層	5% PL17

第114号竪穴住居跡（第18・19図，表８）

位置　第３調査区R0h5グリッド，標高34.40m地点に位置する。

規模と形状　本跡北半分が調査区外に延びていると推測される。調査できた範囲は長軸（0.96）m，短軸3.14mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。また，南辺を基準とすると，主軸方向はN－８°－Wを示す。壁高は確認面から最大高21cmを測り，外傾して立ち上がる。



第18図　第114号竪穴住居跡実測図

重複関係　調査範囲内では単独で位置する。

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，浅黄色パミス微量，粘性弱い，締まり弱い
2　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，浅黄色パミス微量
3　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子中量，焼土ブロック少量，焼土粒子中量，粘性弱い，締まり弱い
4　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック微量，浅黄色パミス微量
5　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，浅黄色パミス少量，締まり弱い
6　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，浅黄色パミス少量
7　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子多量，浅黄色パミス少量
8　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量
9　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，浅黄色パミス微量，締まり強い（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化している。

壁溝　検出されていない。

竈　床面に竈構築材が散見することから，調査区外に付設されていると推測される。

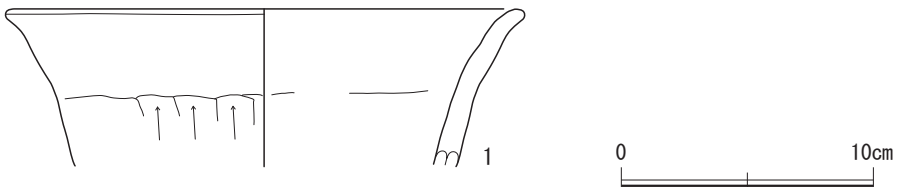
柱穴　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：23×24㎝，深さ17㎝である。

P1土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，浅黄色パミス少量

遺物出土状況　土師器片25点（坏・高台付坏類２，甕類22，甑1），須恵器片４点（甕類４）が出土した。出土した遺物はいずれも細片で，床面より高い位置から出土している。

所見　大半が調査区外へと延びており，十分に情報を得ることができなかったが，床面に竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されたことや，硬化した面が広がっていることなどから住居跡と判断した。なお，明確に時期を特定するには至らなかったが，覆土中より出土した土器片から，古墳時代後期の住居跡と推測される。



第19図　第114号竪穴住居跡出土遺物実測図

表８　第114号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甑	〔20.0〕	(6.2)	－	石英，長石，赤色粒子	にぶい赤褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り	3層	5% PL17

第115号竪穴住居跡（第20・21図，表９）

位置　第３調査区Q0e8グリッド，標高34.11m地点に位置する。

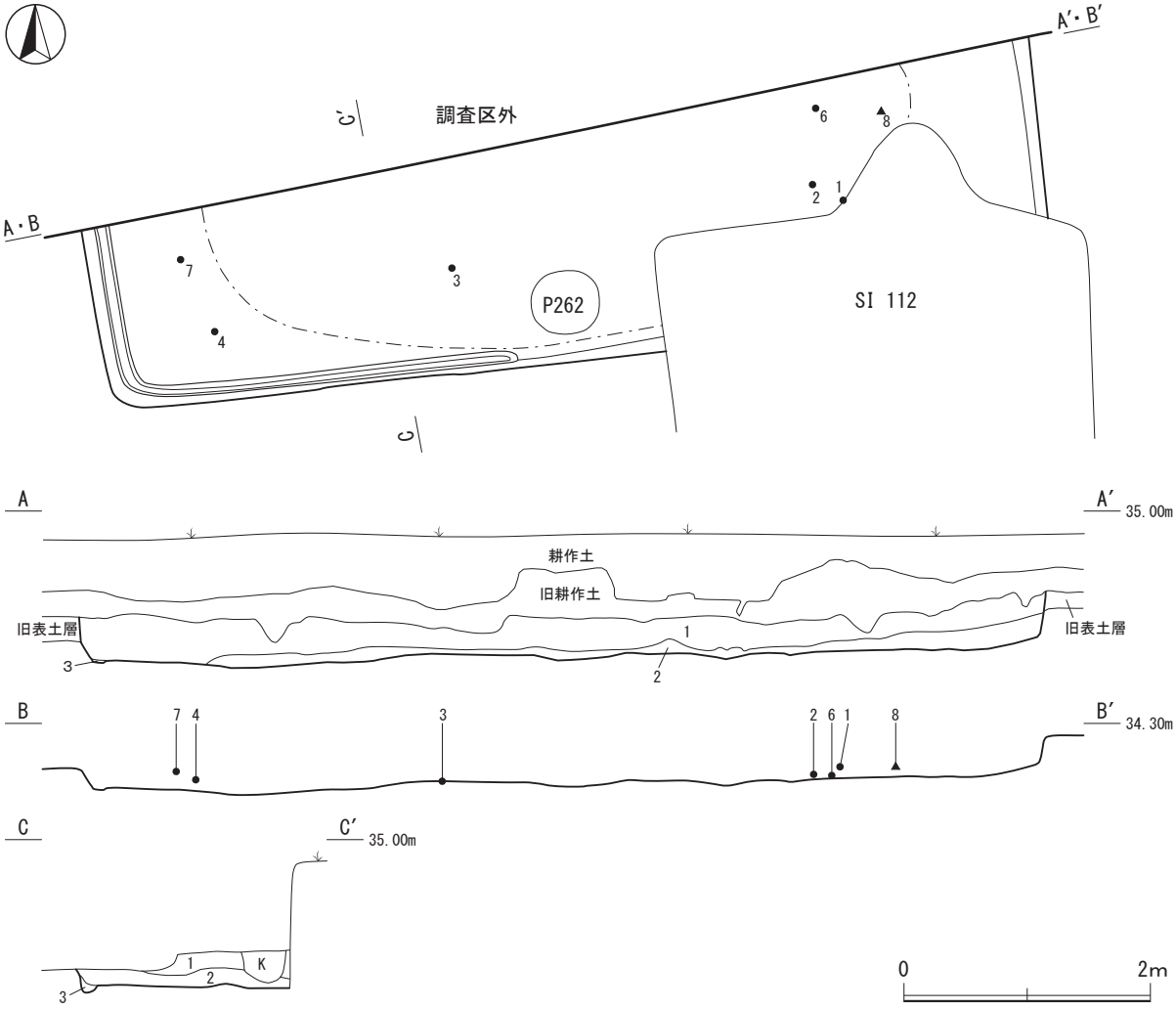
規模と形状　大半が調査区外にあると推測される。調査できた範囲は長軸（1.91）m，短軸7.81mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。また，南辺を基準とすると，主軸方向はN－８°－Wを示す。壁高は確認面から最大高28cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　南部を第374号土坑･第262号ピットに，南東部を第112号住居跡に掘り込まれている。

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子中量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，やや締まりあり
3　10YR4/6　褐　　色：ロームブロック中量，炭化物少量，締まり弱い（壁溝覆土第１層）



第20図　第115号竪穴住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　遺存部では西壁際と南壁際の一部において幅９～12cmで巡っている。断面は逆台形状である。

壁溝土層解説

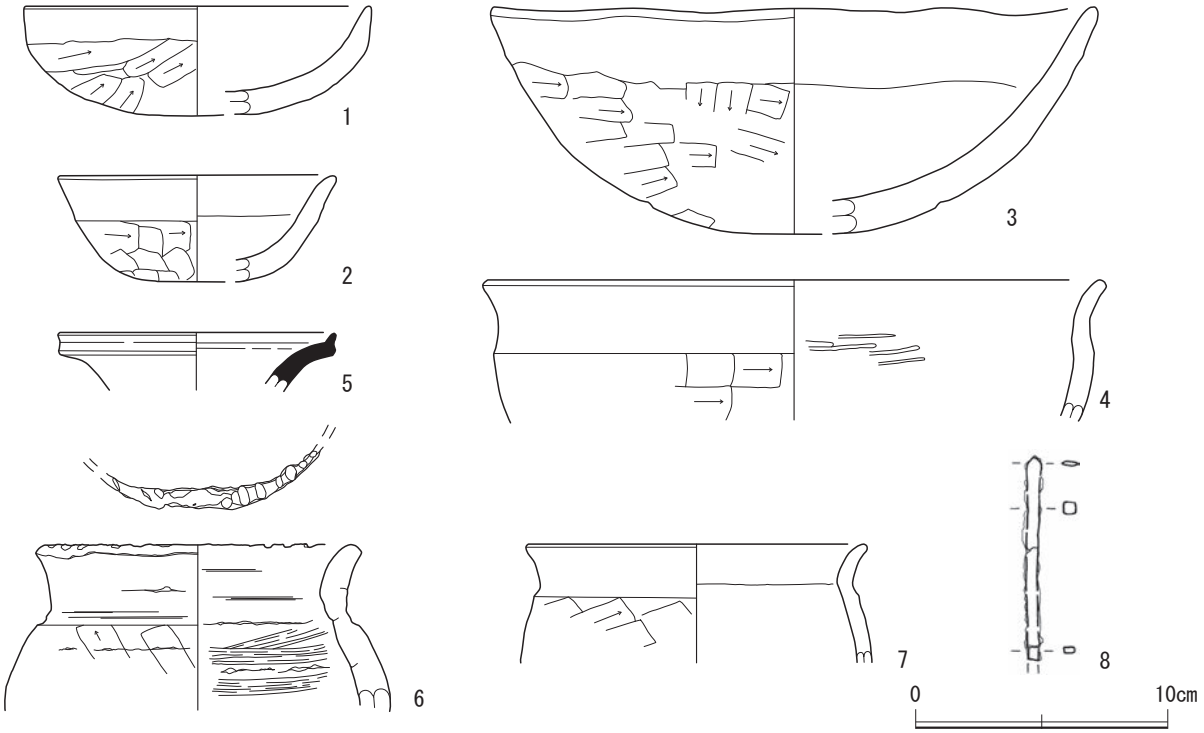
1　10YR4/6　褐　　色：ロームブロック中量，炭化物少量，締まり弱い（住居跡覆土第３層）

竈　床面に竈構築材が散見することから，調査区外に付設されていると推測される。

柱穴　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　縄文土器片２点，土師器片104点（坏類16，鉢２，甕類86），須恵器片６点（坏類２，壺１，蓋３），金属製品２点（鏃１，釘１）が出土した。

所見　本跡の大半が調査区外に延びており，確認できたところが少なかったが，一辺が７mを超えており，比較的大型の住居跡である。時期は，出土遺物や遺構の形態などから，６世紀後半から７世紀代と考えられる。



第21図　第115号竪穴住居跡出土遺物実測図

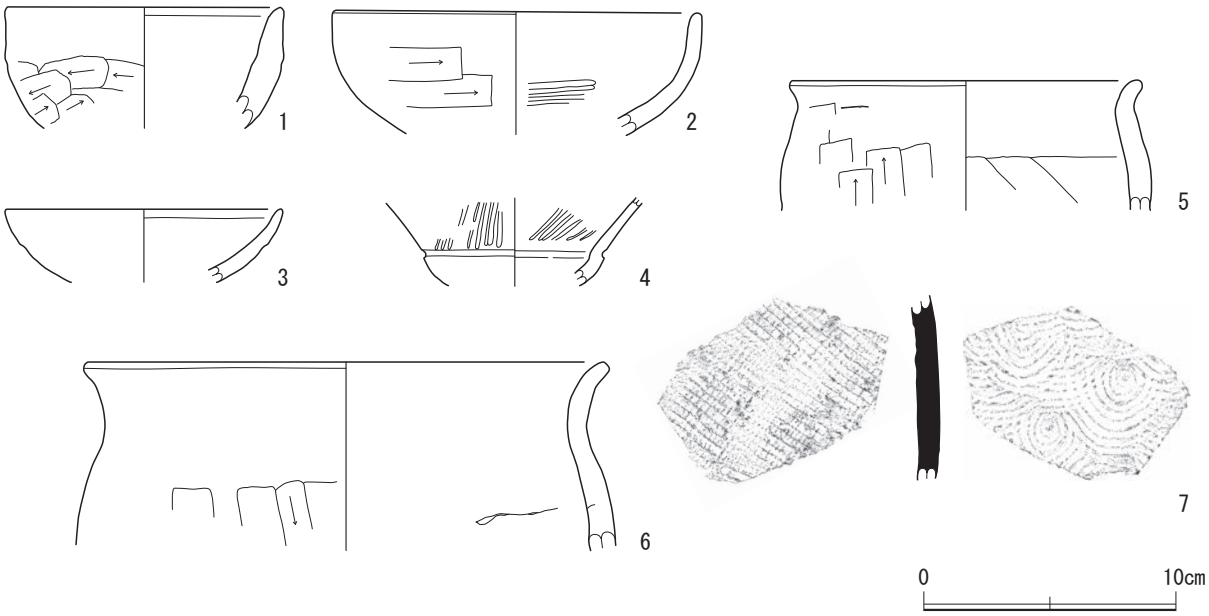
表９　第115号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	〔13.6〕	(4.3)	－	石英，長石，白色粒子，赤色粒子	にぶい黄橙色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り	1層	30% PL17
2	土師器	坏	〔10.8〕	(4.2)	－	石英，長石，白色粒子	暗褐色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面手持ちヘラ削り後ナデ	床面	10% PL17
3	土師器	鉢	〔23.8〕	(9.0)	－	石英，長石，赤色粒子	橙色	口縁部内外面横ナデ，体部～底部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	15%
4	土師器	鉢	〔24.3〕	(6.6)	－	石英，金雲母，赤色粒子，白色粒子	にぶい黄橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面横位のヘラミガキ	1層	5% PL17
5	須恵器	長頸壺	〔11.0〕	(2.3)	－	石英，小礫	灰色	内外面ロクロナデ	覆土中	5% PL18
6	土師器	甕	〔12.0〕	(6.6)	－	石英，長石，金雲母，小礫	明赤褐色	口唇部棒状工具の圧痕，口縁部内外面横ナデ，頸部に段，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ハケメ痕を有するヘラナデ，輪積痕	床面	5% PL18
7	土師器	甕	〔13.3〕	(4.7)	－	石英，長石，小礫	にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り	1層	5% PL18

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
8	鉄製品 (鉄鏃)	(7.95)	0.46	0.45	(22.7)	鉄	長頸柳葉鏃，鏃身部の端面は両丸造，ナデ関	2層	

（2）遺構外出土遺物

ここでは，古墳時代以外の遺構覆土から出土した古墳時代の遺物について，主なものをまとめて掲載する（第22図，表10）。



第22図　古墳時代遺構外出土遺物実測図

表10　古墳時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	〔10.8〕	(4.8)	－	長石，金雲母，白色粒子，黒色粒子	にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面手持ちヘラ削り，内面ナデ	SI102覆土中混入	5% PL18
2	土師器	坏	〔14.3〕	(4.9)	－	長石，白色粒子	灰褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面手持ちヘラ削り，内面ヘラミガキ	SI106覆土中混入	10% PL18
3	土師器	坏	〔10.9〕	(2.9)	－	長石，石英，白色粒子	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ，摩耗が激しいが外面ヘラ削り痕跡をわずかに残す	SI108覆土中混入	5%
4	土師器	坩	－	(3.5)	－	石英，長石，金雲母	にぶい黄橙色	口縁部内外面ヘラミガキ，体部内面ナデ，表面磨耗	SI103覆土中混入	5%
5	土師器	甕	〔13.7〕	(5.1)	－	長石，白雲母，赤色粒子，小礫	にぶい橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	SI108覆土中混入	5% PL18
6	土師器	甕	〔20.4〕	(7.5)	－	石英，長石，白色粒子，針状鉱物	にぶい黄橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，輪積痕	SI106覆土中混入	5% PL18
7	須恵器	甕	－	(7.2)	－	白色粒子，小礫	灰黄橙色	外面格子目タタキ，内面同心円当て具痕	SI108覆土中混入	5% PL18

3　奈良・平安時代

（1）竪穴住居跡

第101号竪穴住居跡（第23・24図，表11）

位置　第１調査区Y'6c0グリッド，標高35.21m地点に位置する。

規模と形状　本跡南半分が調査区外にあり，東部の大半は後世の攪乱により壊されているため明確ではないが，調査できた範囲は長軸（1.72）m，短軸4.80mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－５°－Wである。壁高は確認面から最大高32cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

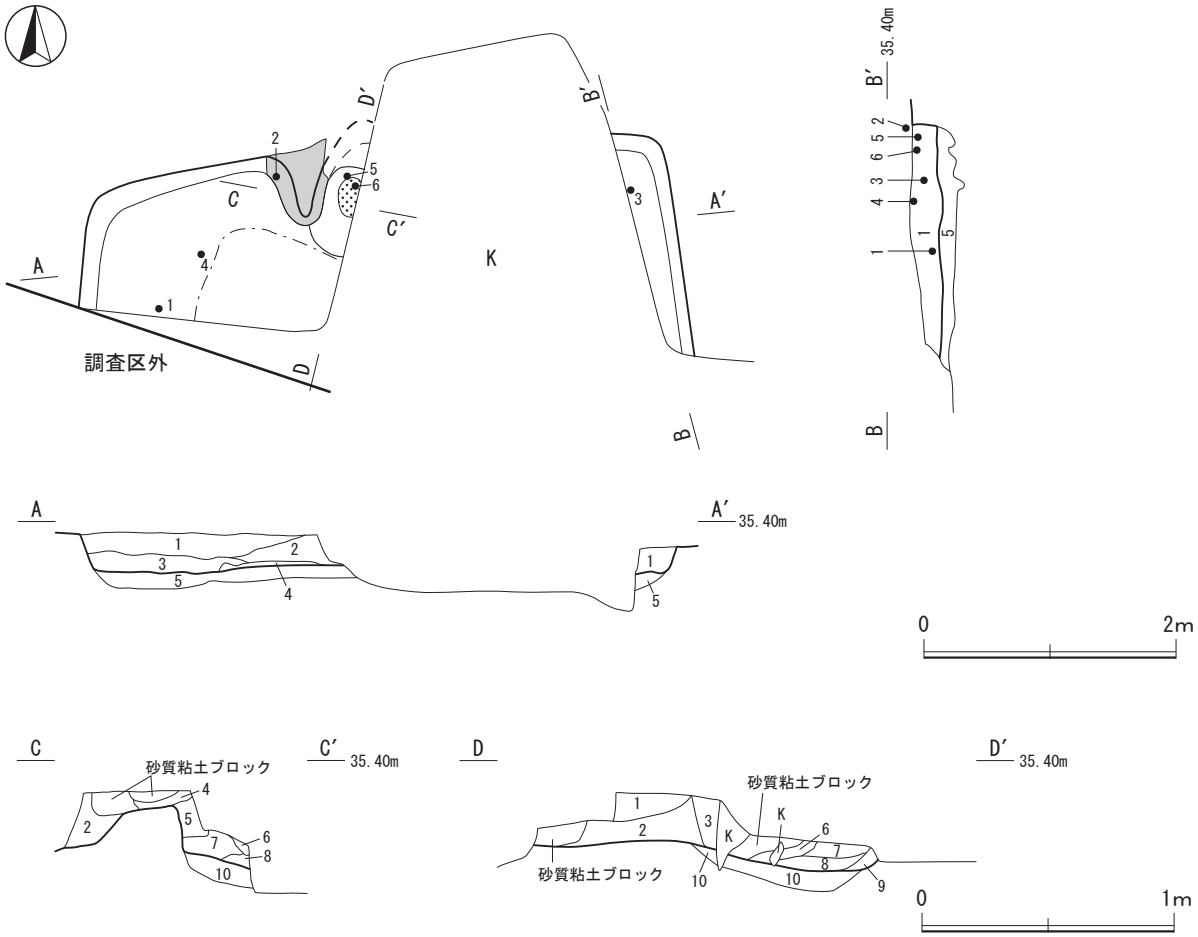
土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量
3　10YR4/2　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック小量
4　5YR6/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック多量
5　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，砂質粘土ブロック小量（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　調査範囲内では検出されていない。



第23図　第101号竪穴住居跡実測図

竈　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，東半分と煙道部が攪乱により壊されている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第３・４層が崩落土と考えられる。火床部は床面から11cmほど低くなっており，火を受けて赤変硬化している。

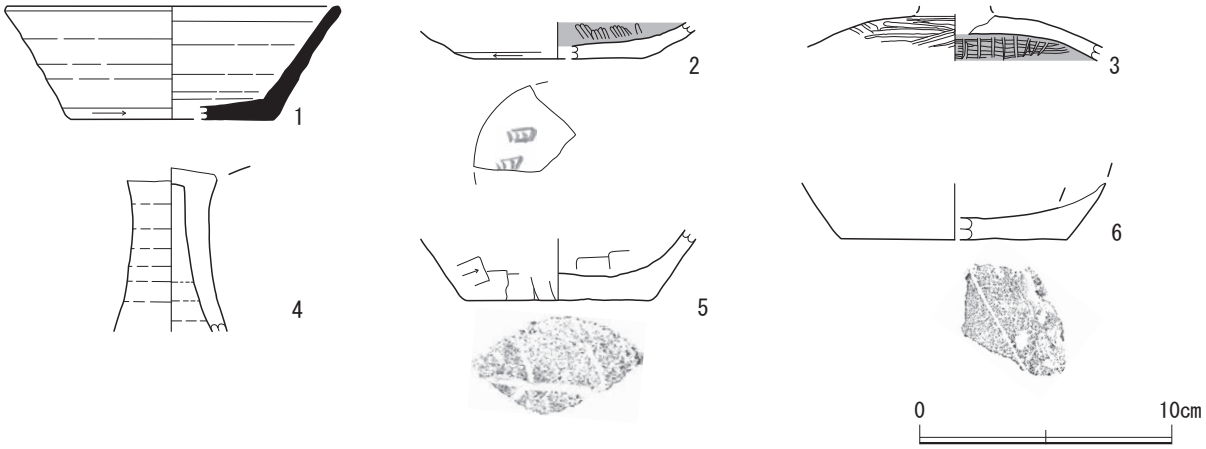
竈土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量
3　5YR4/1　褐 灰 色：焼土粒子微量，砂質粘土ブロック多量
4　5YR4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，砂質粘土ブロック中量
5　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，砂質粘土ブロック微量，浅黄色パミス微量
6　10YR3/1　黒 褐 色：焼土ブロック中量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
7　10YR4/4　褐　　色：焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量
8　5YR4/6　赤 褐 色：焼土粒子多量，炭化物微量
9　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化物中量
10　10YR4/6　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量

柱穴　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　土師器片15点（皿１，高坏１，蓋１，甕類12），須恵器片１点（坏･高台付坏類１）が出土した。２の墨書土器（四□）は竈袖部付近から出土している。

所見　南部が調査区外に延びており，東部の大半が攪乱によって壊されているため，十分に情報を得ることができなかったが，出土遺物から判断して，本跡の時期は９世紀中葉と考えられる。なお，底部外面に「四□」と墨書された土師器坏が出土しており，注目される。



第24図　第101号竪穴住居跡出土遺物実測図

表11　第101号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	〔13.0〕	4.5	〔8.0〕	石英，長石，針状鉱物，小礫	黄灰色	内外面ロクロナデ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り	3層	25% PL18
2	土師器	皿	－	(1.4)	〔6.6〕	長石，白色粒子	にぶい黄橙色	底部外面墨書，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ，内面黒色処理･ヘラミガキ	竈袖部	墨書「四□」 10% PL19
3	土師器	蓋	－	(1.8)	－	石英，長石，針状鉱物	にぶい黄橙色	天井部外面ヘラ削り後ヘラミガキ，内面黒色処理･ヘラミガキ，つまみ欠損	1層	10% PL19
4	土師器	高坏	－	(6.5)	－	長石，針状鉱物，赤色粒子	にぶい橙色	内外面ロクロナデ	1層	10% PL19
5	土師器	甕	－	(2.8)	〔7.2〕	石英，長石，白雲母，白色粒子	にぶい橙色	底部木葉痕，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈7層	5% PL19
6	土師器	甕	－	(2.2)	〔8.9〕	石英，長石，白雲母，赤色粒子	にぶい橙色	底部木葉痕，体部外面ナデ	竈7層	5% PL19

第102号竪穴住居跡（第25・26図，表12）

位置　第１調査区A6b7グリッド，標高35.07m地点に位置する。

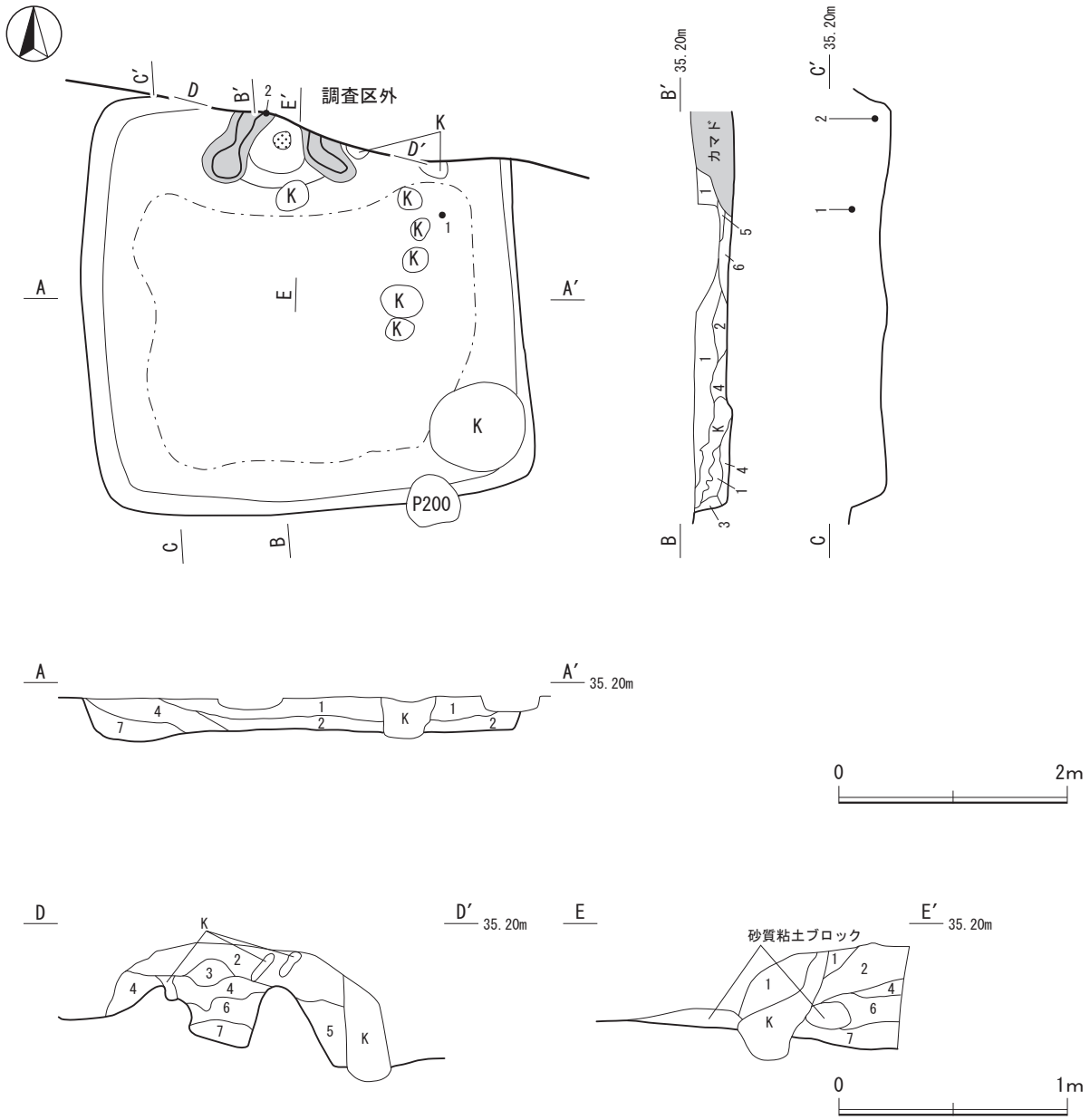
規模と形状　長軸3.84m，短軸3.69mの方形を呈し，主軸方向はN－３°－Wである。壁高は確認面から最大高35cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　東部を第327号土坑に，南部を第200号ピットに掘り込まれている。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化物微量，浅黄色パミス微量
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，浅黄色パミス微量
3　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，浅黄色パミス微量
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量，浅黄色パミス微量
5　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子中量，砂質粘土ブロック多量
6　10YR6/4　にぶい黄橙色：ロームブロック多量，砂質粘土ブロック少量，粘性強い，締まり強い
7　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量，浅黄色パミス微量



第25図　第102号竪穴住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　調査範囲内では検出されていない。

竈　北壁の中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，煙道は調査区外に延びている。袖部の基部の最大幅は約39cmで，西側の袖には土師器の甕が補強材として使われている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１・３層が崩落土と考えられる。火床部は床面から６cmほど低くなっており，赤変していたが，はっきりとした硬化は認められなかった。

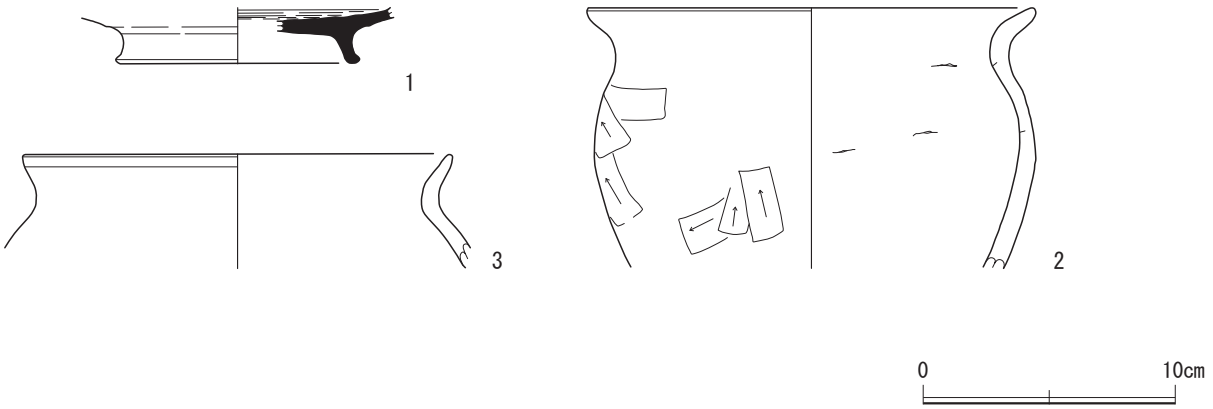
竈土層解説

1　5YR4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック中量，黄色パミス微量，締まり強い
2　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，締まり強い
3　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック少量，黄色パミス微量
4　5YR4/2　灰 褐 色：焼土粒子微量，砂質粘土ブロック少量，砂質粘土ブロック多量
5　5YR4/2　灰 褐 色：焼土粒子中量，砂質粘土ブロック多量，やや締まりあり
6　10YR3/3　暗 褐 色：焼土ブ粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック多量
7　10YR3/1　黒 褐 色：焼土粒子微量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量

柱穴　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　土師器片97点（坏・高台付坏類28，甕類69），須恵器片９点（坏・高台付坏類３，甕類６）が出土した。２の土師器甕は竈袖部から横位で出土している。

所見　本跡の竈の西袖部からは，土師器甕が補強材として使用されたままの状態で出土しており，竈構築時の様子をうかがい知ることができる。また，本跡南部の床面直上からは，河原石がまとまって数点出土しているが，性格等は不明である。時期は遺物から判断して８世紀中葉から９世紀前葉と推測される。



第26図　第102号竪穴住居跡出土遺物実測図

表12　第102号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	－	(2.2)	〔9.4〕	針状鉱物，白色粒子，小礫	灰色	内外面ロクロナデ，底部切り離し後高台貼り付け	1層	5% PL19
2	土師器	甕	〔19.6〕	(10.3)	－	石英，長石，白雲母，白色粒子	にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ，輪積痕	竈袖部	15% PL19
3	土師器	甕	〔16.7〕	(4.5)	－	石英，長石，白雲母，白色粒子	にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ	北東部覆土中	5% PL20

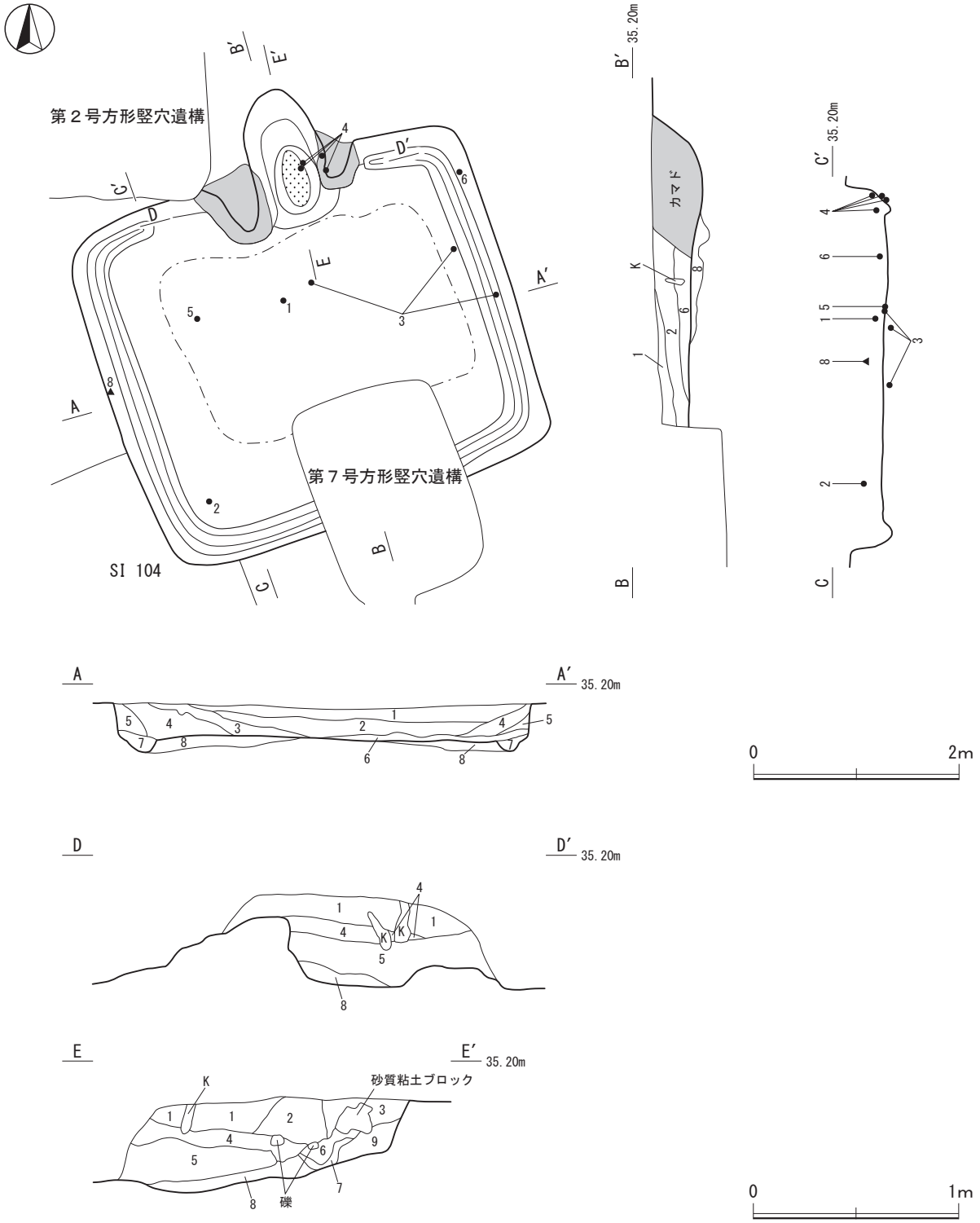
第103号竪穴住居跡（第27・28図，表13）

位置　第１調査区Z'7i1グリッド，標高34.97m地点に位置する。

規模と形状　長軸4.08m，短軸3.54mの方形を呈し，主軸方向はN－18°－Wである。壁高は確認面から最大高37cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　北部を第２号方形竪穴遺構に，南部を第７号方形竪穴遺構に掘り込まれ，南西部で第104号住居跡を掘り込んでいる。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。



第27図　第103号竪穴住居跡実測図

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量，浅黄色パミス微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物少量，浅黄色パミス少量
3　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，浅黄色パミス少量
4　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子微量，浅黄色パミス微量
5　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量，浅黄色パミス微量
6　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
7　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子中量，焼土粒子微量（壁溝覆土第１層）
8　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　ほぼ全周し，幅14 ～ 27cmで巡る。断面はU字形状である。

壁溝土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック微量，ローム粒子中量，焼土粒子微量（住居跡覆土第７層）

竈　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは135cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを多く含む第２・３層が崩落土と考えられる。袖部の基部の最大幅は約60cmである。火床部は床面から７cmほど低くなっており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ68cmほど削り込んで造られ，火床部から煙道へは急角度で立ち上がる。

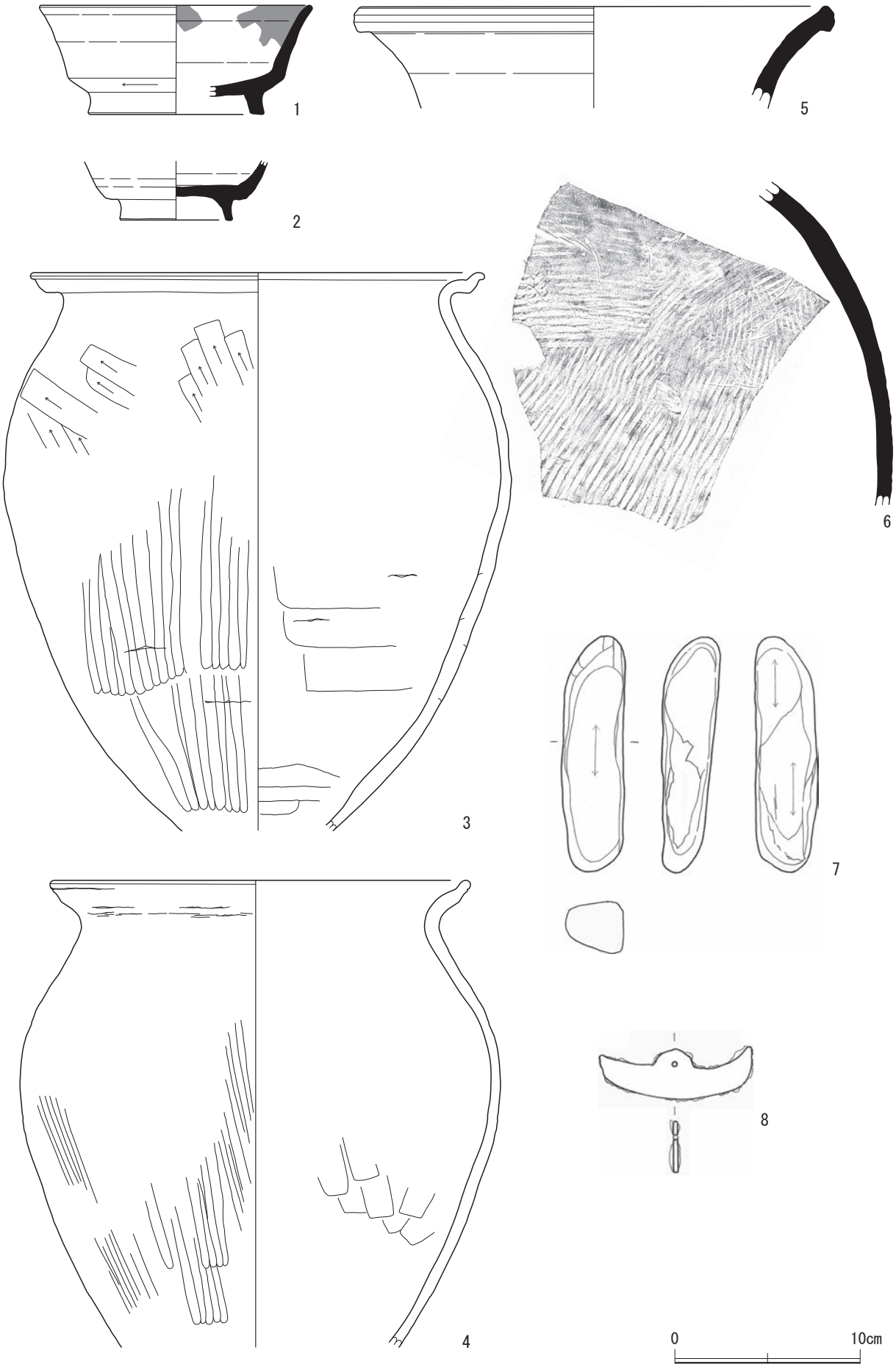
竈土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量，浅黄色パミス微量
2　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック中量，浅黄色パミス微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量，砂質粘土ブロック中量，浅黄色パミス微量
4　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック中量，炭化物少量
5　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量
6　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量
7　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
8　5YR3/4　暗赤褐色：焼土粒子多量，炭化物微量
9　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量

柱穴　床面からは，主柱穴，出入口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢１），土師器片164点（坏・高台付坏類２，坩１，甕類161），須恵器片74点（坏･高台付坏類37，甕類37），石器２点（剥片２），石製品１点（砥石１），金属製品１点（火打金１）が出土した。４の土師器甕は竈火床面及び覆土下層から散乱した状態で，８の火打金は西壁際でそれぞれ出土している。

所見　遺物の出土状況や土層の堆積状況から，住居廃絶後まもない時期に遺物が投棄され，その後人為的に埋め戻された様子が窺える。時期は，出土遺物から９世紀前葉と考えられる。



第28図　第103号竪穴住居跡出土遺物実測図

表13　第103号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	〔14.6〕	5.9	〔9.3〕	長石，白色粒子，小礫	灰色	内外面ロクロナデ，外面下端回転ヘラ削り後ナデ，底部切り離し後高台貼り付け，内面スス付着	6層	20% PL20
2	須恵器	高台付坏	－	(3.2)	〔6.0〕	長石，白色粒子，赤色粒子，小礫	灰色	内外面ロクロナデ，底部切り離し後高台貼り付け	4層	25% PL20
3	土師器	甕	24.2	(30.4)	－	石英，長石，白雲母，小礫	黄褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面上位ヘラ削り・中位以下縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ，輪積痕	床面，壁溝覆土中	50% PL20
4	土師器	甕	〔22.2〕	(25.3)	－	石英，長石，白雲母	明黄褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面上位ナデ・中位以下縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ	竈覆土中	30%
5	須恵器	甕	〔25.0〕	(5.5)	－	長石，白雲母，白色粒子	灰色	外面ロクロナデ，内面剥離	床面	10% PL20
6	須恵器	甕	－	(17.4)	－	石英，長石，白色粒子，小礫	灰色	体部外面上位横位の平行タタキ・中位斜位の平行タタキ	5層	10% PL20

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	出土位置	備考
7	石製品(砥石)	12.8	3.2	2.8	210	頁岩	砥面2面その他は自然面	北東部覆土中	

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
8	鉄製品(火打金)	8.0	2.7	0.35	199	鉄	頂部に小孔、厚さはほぼ均一	5層	PL20

第105号竪穴住居跡（第29・30図，表14）

位置　第１調査区Z'7f2グリッド，標高35.00m地点に位置する。

規模と形状　長軸3.41m，短軸3.20mの方形を呈し，主軸方向はN－31°－Wである。壁高は確認面から最大高24cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北西部を第９号方形竪穴遺構に，南東部を第336号土坑に，南西部を第314号土坑に掘り込まれている。

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
2　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い
3　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量
4　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
5　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物少量（壁溝覆土第１層）
6　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量（Ｐ１覆土第１層）
7　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化物微量（Ｐ１覆土第２層）
8　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，浅黄色パミス微量（貼床構築土）

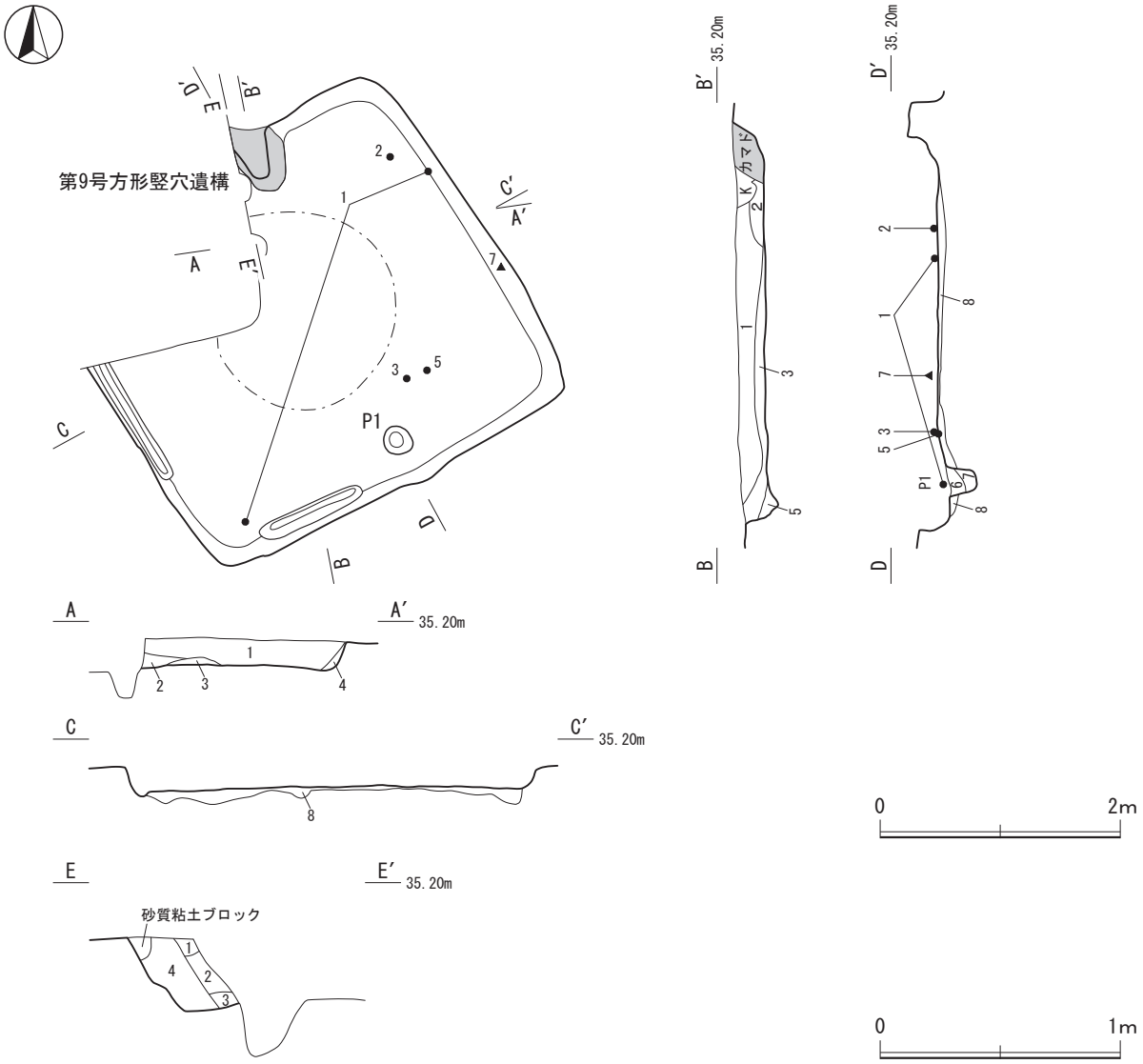
床　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

壁溝　西壁際と南壁際の一部で確認され，幅11～16cmで巡る。断面は皿状である。

壁溝土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック少量，炭化物少量（住居跡覆土第５層）

竈　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，第９号方形竪穴遺構に壊されており，東袖部と火床部の焼土が確認されただけである。また，袖部の遺存状状態は悪く，内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。



第29図　第105号竪穴住居跡実測図

竈土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量
2　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック多量
3　5YR4/3　にぶい赤褐色：焼土粒子多量，砂質粘土ブロック中量
4　5YR4/1　褐 灰 色：ロームブロック少量，砂質粘土ブロック多量

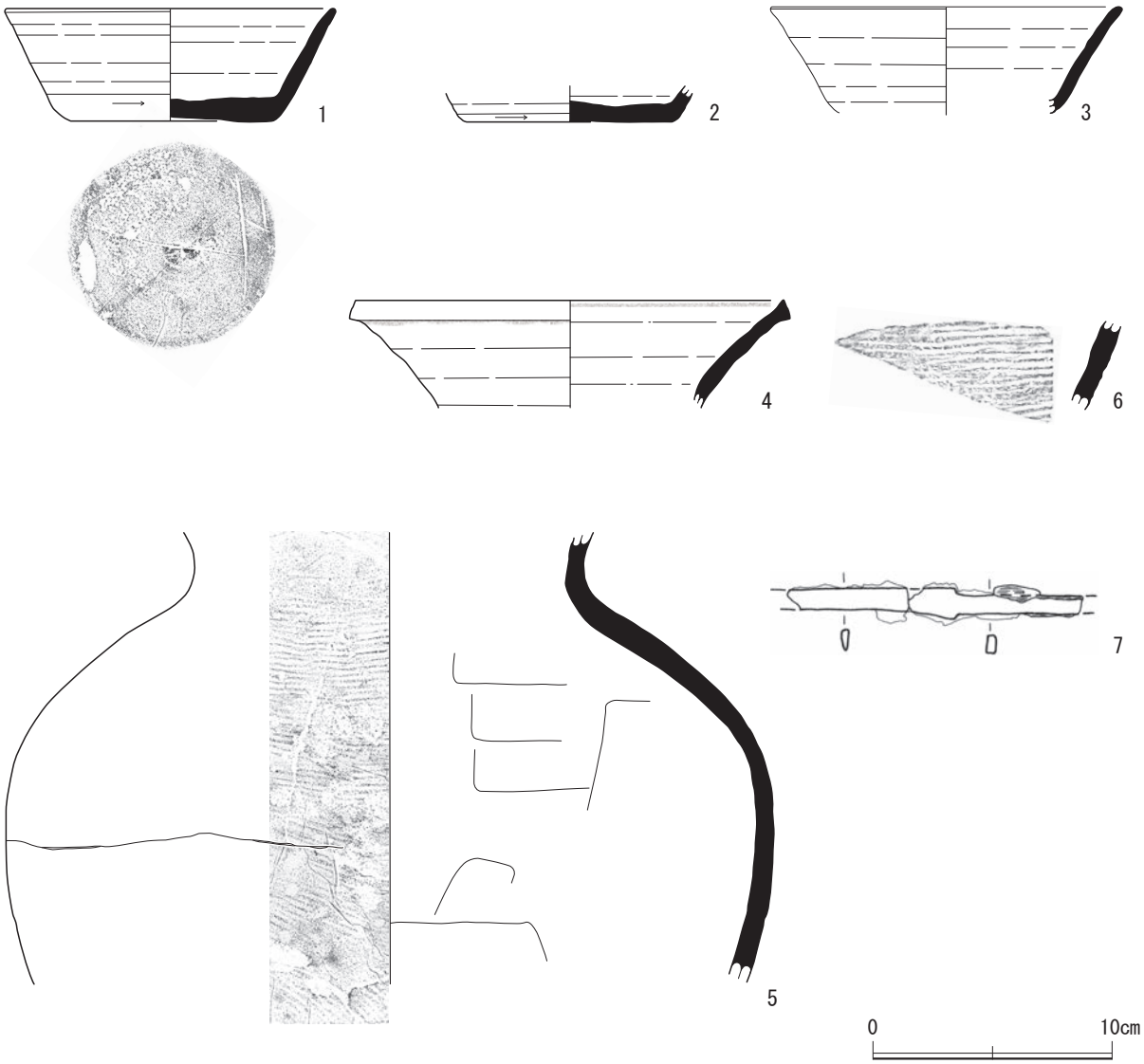
柱穴　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：22×25cm，深さ22cmである。

P1土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量（住居跡覆土第6層）
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化物微量（住居跡覆土第7層）

遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片57点（坏･高台付坏類６，甕類51），須恵器片27点（坏･高台付坏類18，壺１，甕類８），金属製品１点（刀子１）が出土した。

所見　図化した遺物はいずれも床面あるいは床面に近いレベルで出土したものであり，住居廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。これらの遺物からみて，時期は８世紀後葉と考えられる。



第30図　第105号竪穴住居跡出土遺物実測図

表14　第105号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	〔13.6〕	4.7	8.4	長石，針状鉱物，白色粒子，小礫	にぶい黄橙色	内外面ロクロナデ，体部外面下端ヘラ削り後ナデ，底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	40% PL20
2	須恵器	坏	－	(1.5)	8.6	長石，針状鉱物，白色粒子	灰色	内外面ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後ナデ	1層	15% PL20
3	須恵器	坏	〔14.5〕	(4.4)	－	長石，白色粒子	灰色	内外面ロクロナデ	3層	10% PL21
4	須恵器	壺	〔17.8〕	(4.5)	－	石英，黒色粒子	黄灰色	内外面ロクロナデ，口縁部内外面自然釉	北東部覆土中	5% PL21
5	須恵器	甕	－	(19.1)	－	石英，長石，金雲母，白色粒子	にぶい黄橙色	頸部外面ロクロナデ，体部外面横位の平行タタキ，内面ヘラナデ，輪積痕	床面，3層	15% PL21
6	須恵器	甕	－	(3.7)	－	石英，長石，白色粒子	にぶい橙色	体部外面横位の平行タタキ，内面指頭圧痕	覆土中	5% PL21

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
7	鉄製品(刀子)	(12.3)	1.3	0.35	(12.3)	鉄	刃部切先と茎尻を欠く，関は両関，茎は断面長方形で木質遺存	4層	PL21

第106号竪穴住居跡（第31・32図，表15）

位置　第１調査区Z'6c0グリッド，標高35.07m地点に位置する。

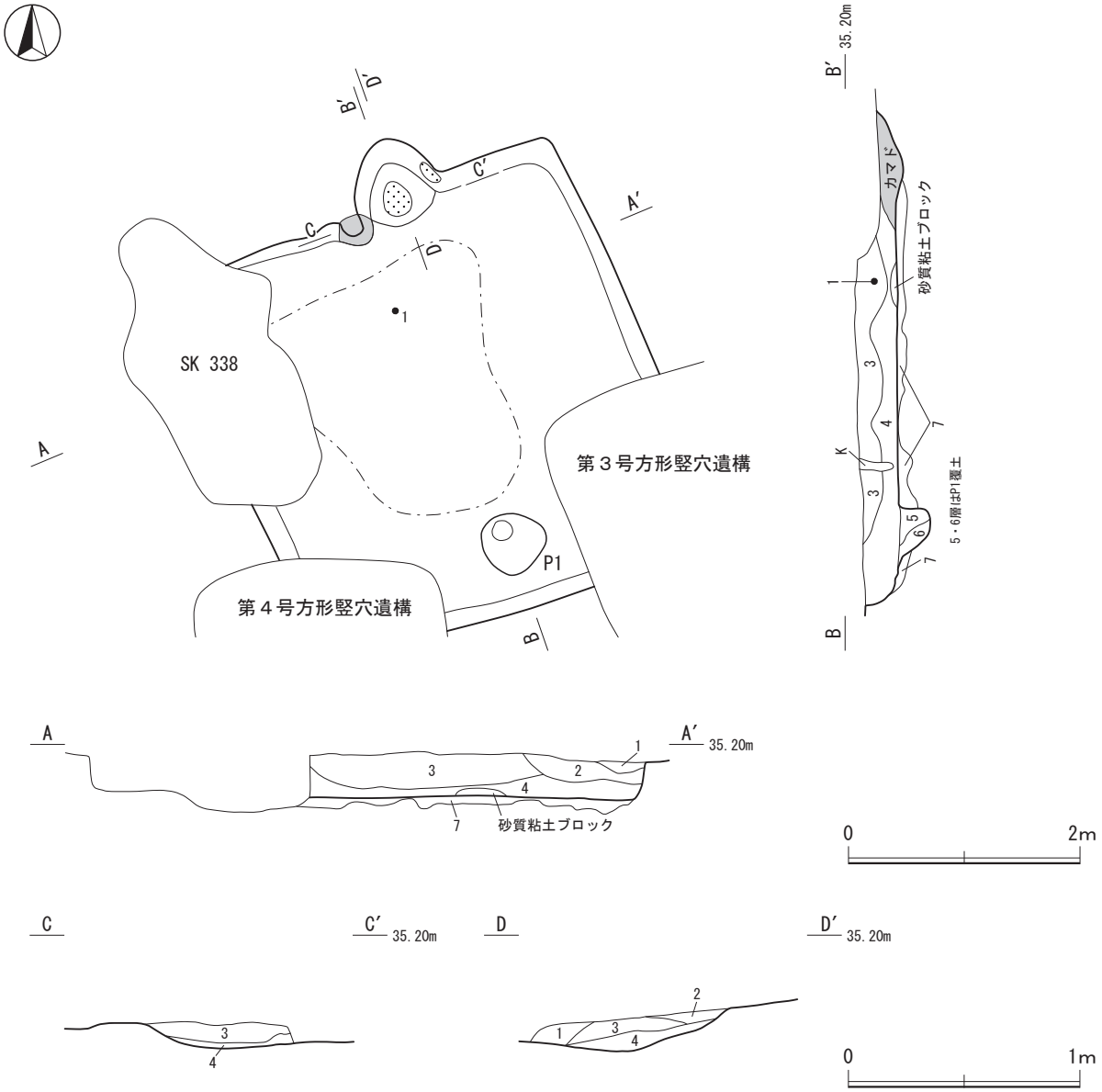
規模と形状　長軸3.82m，短軸3.69mの方形を呈し，主軸方向はN－20°－Wである。壁高は確認面から最大高33cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部を第332号土坑に，北西部を第338号土坑に，南西部を第４号方形竪穴遺構に，南東部を第３号方形竪穴遺構に掘り込まれ，北部で第342号土坑を，南部で第107号住居跡を掘り込んでいる。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量
3　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
4　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量
5　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，締まり弱い（Ｐ１覆土第１層）
6　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量（Ｐ１覆土第２層）
7　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，締まり強い（貼床構築土）



第31図　第106号竪穴住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　検出されていない。

竈　北壁中央部やや東寄りにあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは77cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第２層が崩落土と考えられる。また，袖部の基部の最大幅は約32cmで，内壁の一部が被熱により赤く硬化している。火床部は床面から６cmほど低くなっており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ45cmほど削り出して造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック少量
3　5YR4/6　赤 褐 色：焼土粒子多量，砂質粘土ブロック中量
4　5YR3/3　暗赤褐色：焼土粒子中量

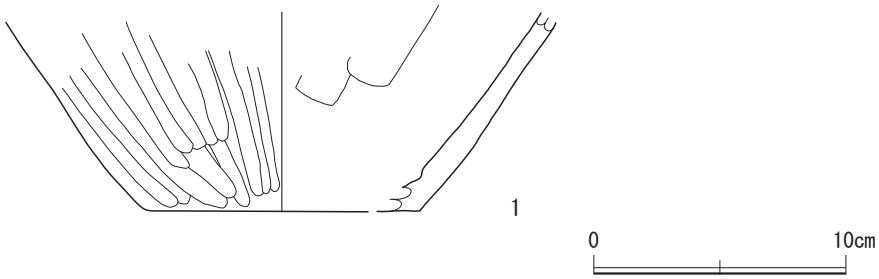
柱穴　１ヶ所確認され，出入口ピットと考えられる。Ｐ１：56×54cm，深さ26cmである。

P1土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，締まり弱い（住居跡覆土第5層）
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量（住居跡覆土第6層）

遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片55点（坏･高台付坏類３，甕類52），須恵器片４点（坏･高台付坏類３，甕類１）が出土した。

所見　本跡は後世の遺構により各所が壊され調査が難航した。遺物はすべて細片で，時期を特定できないものが多いが，出土遺物と遺構の形態から８世紀から９世紀代と推測される。



第32図　第106号竪穴住居跡出土遺物実測図

表15　第106号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	－	(7.9)	〔11.0〕	石英，長石，白雲母，小礫	褐色	体部外面縦位のヘラミガキ，体部内面ヘラナデ	3層	5% PL21

第108号竪穴住居跡（第33・34図，表16）

位置　第２調査区F8b0グリッド，標高35.02m地点に位置する。

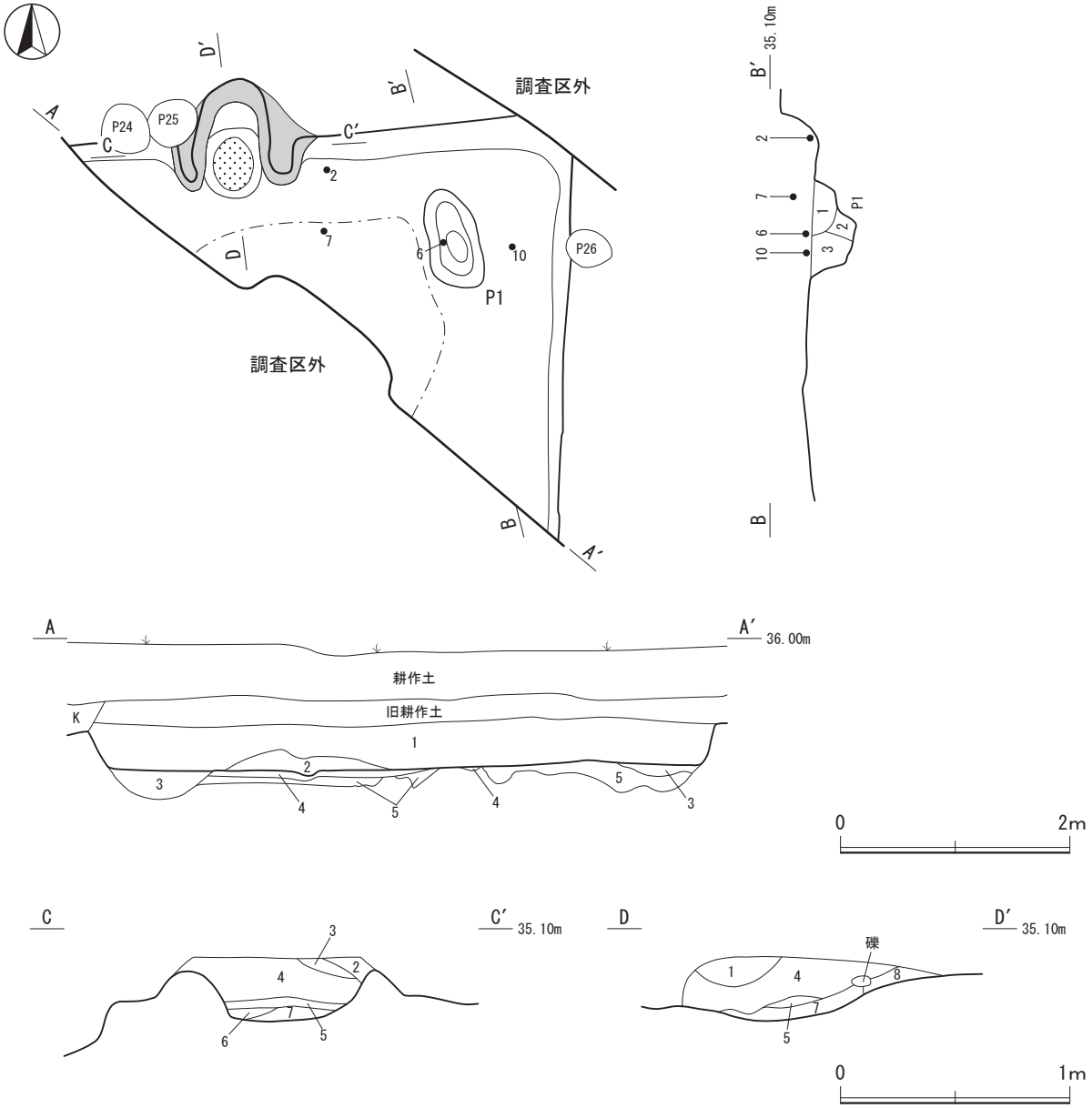
規模と形状　大半が調査区外にあると推測される。調査できた範囲は長軸（3.42）m，短軸（4.14）mで，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－０°である。壁高は確認面から最大高32cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部を第24・25号ピットに，東部を第334号土坑・第26号ピットに掘り込まれ，北部で第341号土坑を掘り込んでいる。

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量
2　5YR4/2　灰 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量，粘性弱い
3　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量，締まり弱い（貼床構築土）
4　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，浅黄色パミス少量，締まり強い（貼床構築土）
5　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，やや締まりあり（貼床構築土）



第33図　第108号竪穴住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　検出されていない。

竈　北壁にあり，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道までは103cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第１・４層が崩落土と考えられる。また，袖部の基部の最大幅は約40cmである。火床部は床面から５cmほど低くなっており，赤変していたが，はっきりとした硬化は認められなかった。なお，煙道は壁外へ52cmほど削り込んで造られ，火床部から煙道へは緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量，浅黄色パミス少量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック微量，浅黄色パミス少量
4　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量，浅黄色パミス微量
5　5YR3/3　暗赤褐色：焼土粒子多量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量
6　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量
7　10YR3/1　黒 褐 色：焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
8　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量，締まり弱い

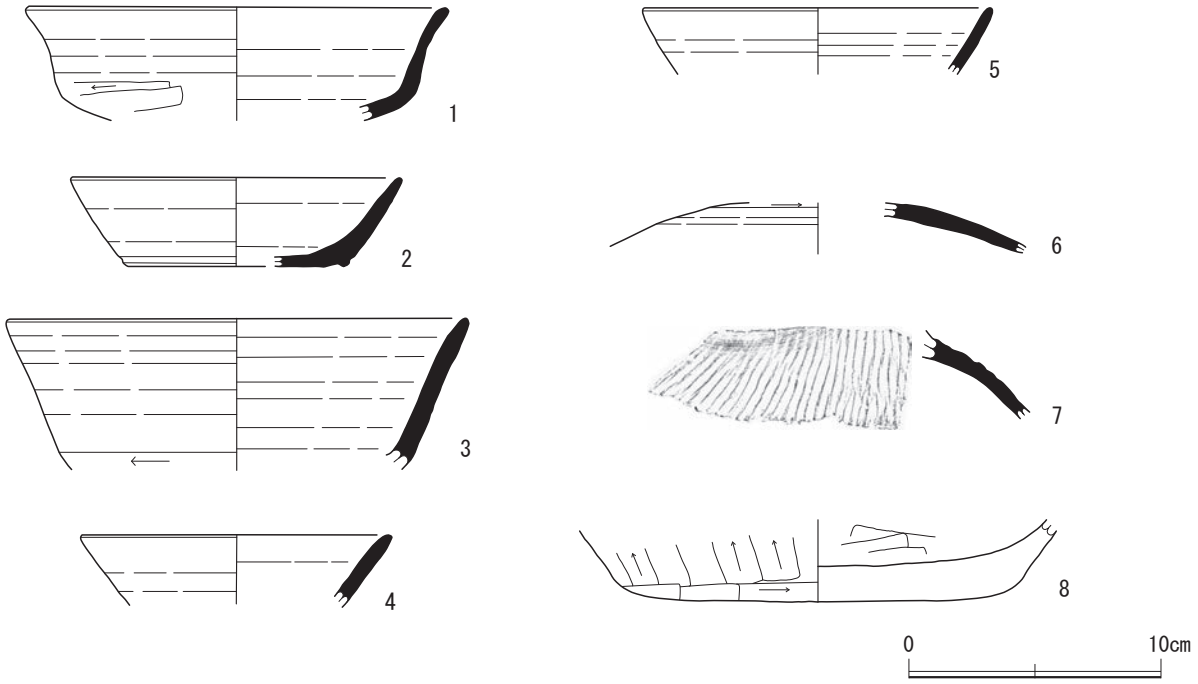
柱穴　１ヶ所確認され，主柱穴の可能性が高い。Ｐ１：45×87cm，深さ37cmである。

P1土層解説

1　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，砂質粘土ブロック少量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片381点（坏・高台付坏類16，甕類365），須恵器片26点（坏・高台付坏類12，蓋６，甕類８）が出土した。

所見　遺物は全域に渡り確認されているが，床面直上から出土した遺物は少なく，摩耗しているものや接合しない遺物が多い。これらは住居廃絶後に投棄された，あるいは埋土に混入したものと考えられる。時期は，本跡に伴う遺物が少なく明確ではないが，８世紀前半から９世紀代と推測される。



第34図　第108号竪穴住居跡出土遺物実測図

表16　第108号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	〔16.4〕	(4.5)	－	石英，長石，白雲母	灰白色	内外面ロクロナデ，外面下端手持ちヘラ削り後ナデ	南東部1層	20%
2	須恵器	高台付坏	〔13.0〕	3.5	〔8.5〕	長石，白色粒子	灰黄褐色	内外面ロクロナデ，底部切り離し後高台削り出し	2層	20% PL21
3	須恵器	坏	〔18.0〕	(6.0)	－	石英，長石，黒色粒子	褐灰色	内外面ロクロナデ，外面下端回転ヘラケズリ	東部覆土中	10% PL21
4	須恵器	坏	〔12.2〕	(2.8)	－	長石，針状鉱物，白色粒子	灰色	内外面ロクロナデ	東部覆土中	5% PL21
5	須恵器	坏	〔13.7〕	(2.6)	－	針状鉱物，白色粒子	灰黄色	内外面ロクロナデ	東部覆土中	5% PL22
6	須恵器	蓋	－	(3.0)	－	石英，長石，白色粒子，小礫	灰黄色	内外面ロクロナデ，天井部外面回転ヘラ削り	1層	5% PL22
8	須恵器	甕	－	(3.5)	－	長石，白雲母	黒褐色	体部外面斜位の平行タタキ，内面丁寧なナデ	竈覆土中	5% PL22
9	土師器	甕	－	(3.3)	〔15.0〕	石英，長石，白雲母，小礫	にぶい黄橙色	体部～底部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	5% PL22

第109号竪穴住居跡（第35～37図，表17）

位置　第１調査区Y'7f1グリッド，標高35.13m地点に位置する。

規模と形状　南部が調査区外に延びているが，長軸（4.88）m，短軸5.16mで，方形を呈していると推測される。主軸方向はN－１°－Wである。壁高は確認面から最大高40cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　北東部を第351・352号土坑に，北部の竈煙道付近を第356号土坑に，南東部を第353号土坑に掘り込まれる。

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量，浅黄色パミス少量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
3　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，締まり弱い
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，砂質粘土ブロック中量
5　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物少量，粘性弱い，やや締まりあり
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック少量
7　10YR4/8　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，炭化物少量
8　10YR4/4　褐　　色：焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量，締まり弱い（壁溝覆土第１層）
9　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，炭化物中量，締まり強い（貼床構築土）
10　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量（貼床構築土）

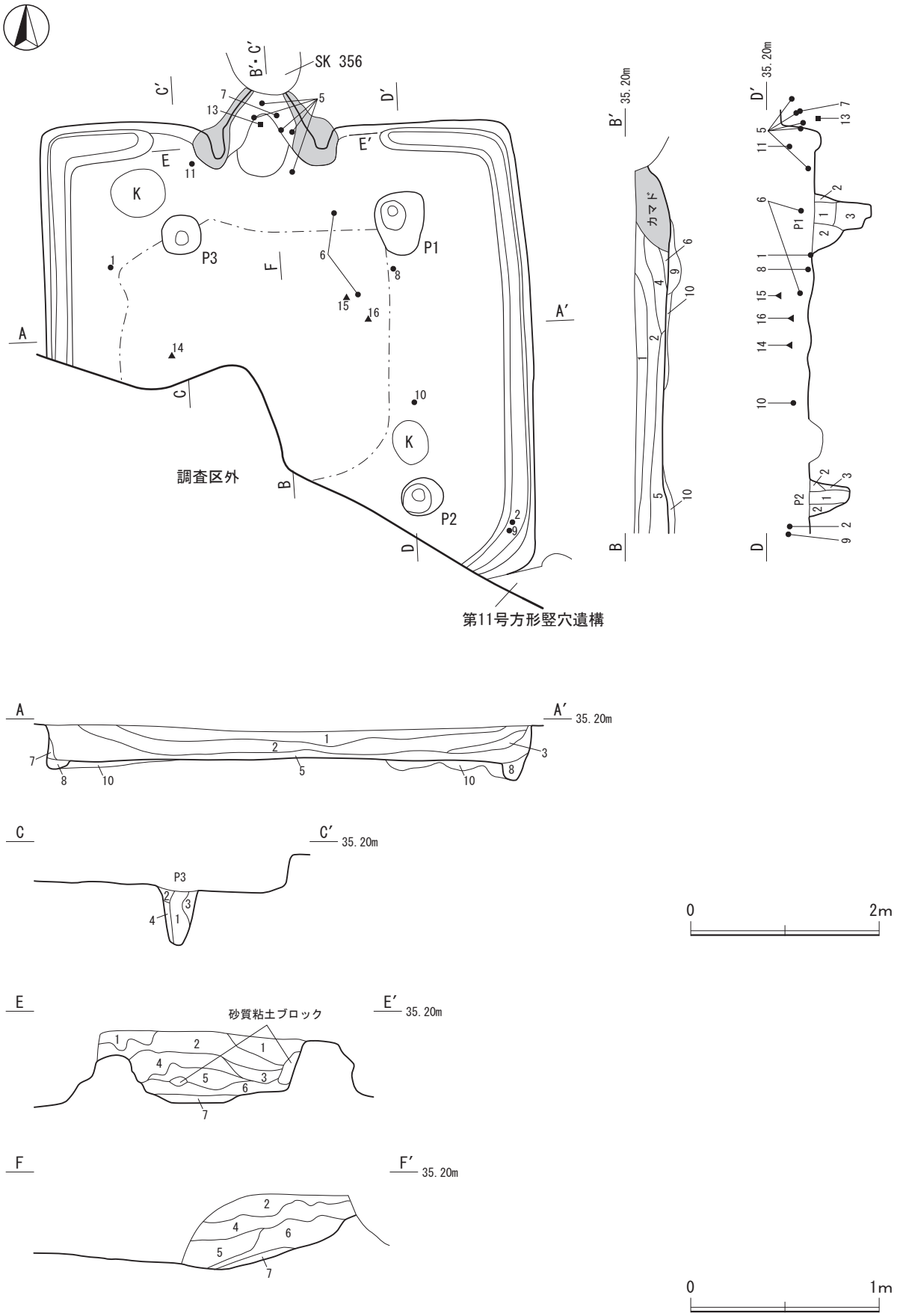
床　ほぼ平坦で，住居中央部がよく踏み固められている。

壁溝　ほぼ全周し，幅16～34cmで巡り，断面は逆台形状である。

壁溝土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：焼土粒子微量，炭化物微量，砂質粘土ブロック微量，締まり弱い（住居跡覆土第８層）

竈　北壁中央部にあり，砂質粘土で構築されているが，煙道は第356号土坑に壊されている。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，砂質粘土ブロックを含む第４層が崩落土と考えられる。また，袖部の基部の最大幅は約48cmである。火床部は床面から２cmほど低くなっており，赤変硬化している。



第35図　第109号竪穴住居跡実測図

竈土層解説

1　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，浅黄色パミス少量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量
3　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，浅黄色パミス微量
4　5YR4/2　灰 褐 色：砂質粘土ブロック多量，浅黄色パミス少量，粘性弱い，やや締まりあり
5　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，浅黄色パミス少量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土ブロック中量，炭化物少量，締まり強い
7　5YR3/2　暗赤褐色：焼土粒子多量，炭化物少量

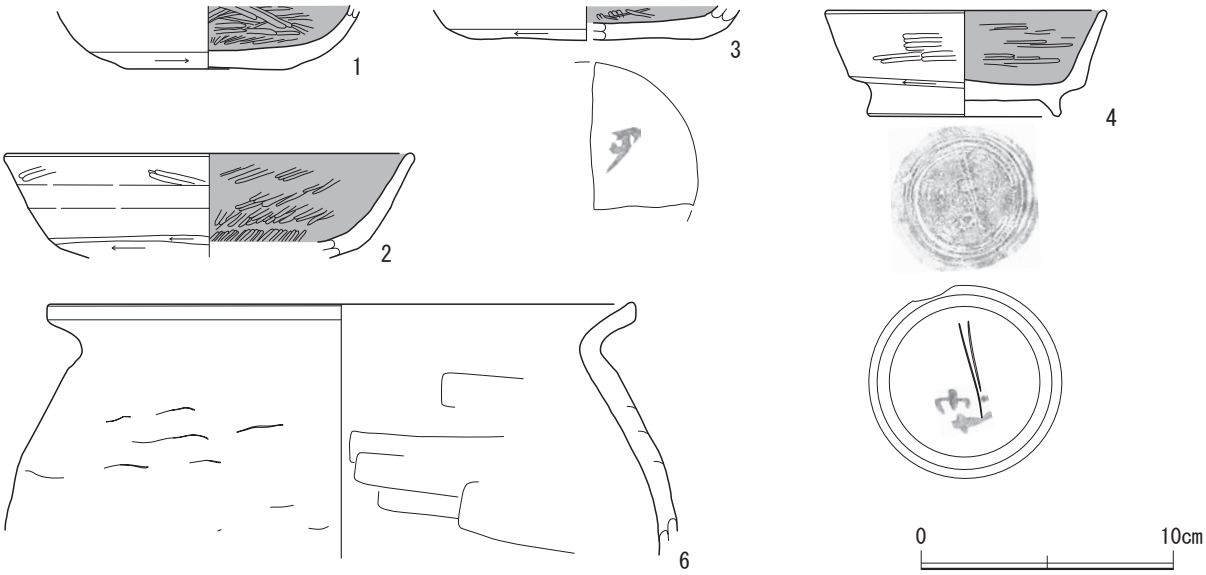
柱穴　３ヶ所確認され，Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１：53×67cm，深さ60cm，Ｐ２：44×40cm，深さ42cm，Ｐ３：41×42cm，深さ58cmである。

P1 ～ P3土層解説

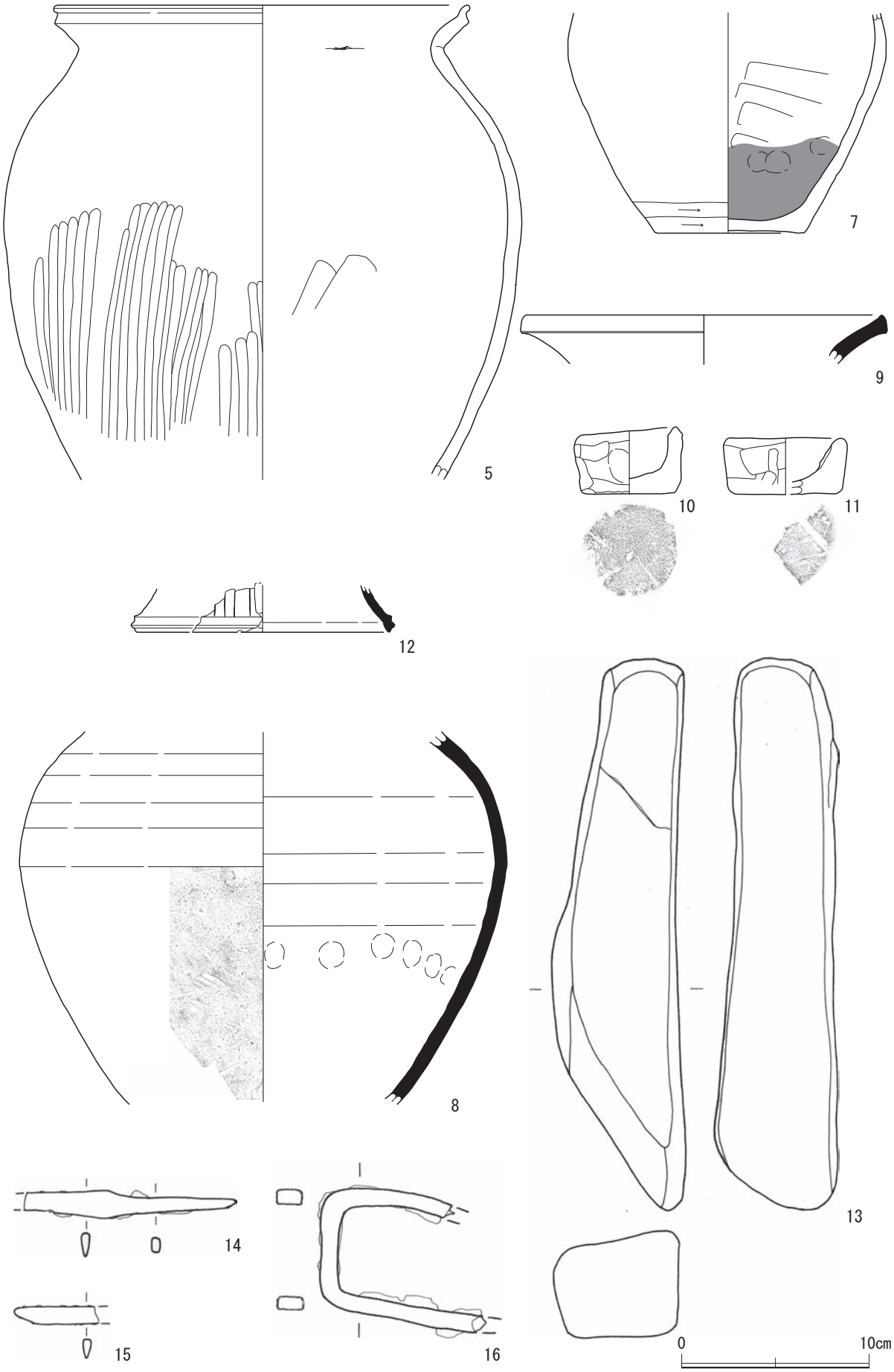
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，炭化物少量，締まり弱い（柱抜き取り痕）
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子多量
4　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片300点（坏・高台付坏類43，手捏土器２，甕類255），須恵器片15点（蓋６，円面硯１，甕類８），石器１（剥片１），石製品１点（支脚１），金属製品４点（刀子２，閂１，不明鉄製品１）が出土した。３・４は墨書土器だが，いずれも判読不明である。５の土師器甕は竈内につぶれた状態で，13の石製支脚は竈火床面に下半分が埋まった状態でそれぞれ出土している。

所見　時期は出土遺物から９世紀前半と考えられる。一辺が５ｍを超え，当遺跡で確認された平安時代の住居跡の中では大型の住居跡に属しており，主柱穴には柱痕が明瞭に確認された。また，本跡からは墨書土器，手捏土器，円面硯，鉄製閂などの注目される遺物が出土しているが，これらは投棄された，あるいは埋土中に混入したものと推測される。



第36図　第109号竪穴住居跡出土遺物実測図（１）



第37図　第109号竪穴住居跡出土遺物実測図（２）

表17　第109号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	－	(2.5)	6.3	長石，白雲母，赤色粒子	にぶい橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後丁寧なナデ	床面	30% PL22
2	土師器	坏	〔16.0〕	(4.1)	－	長石，針状鉱物，白雲母，小礫	にぶい橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り	2層	20% PL22
3	土師器	坏	－	(1.3)	〔8.8〕	長石，白雲母，角閃石，小礫	橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り，底部外面墨書・スス付着	北東部覆土中	墨書「□」 20% PL22
4	土師器	高台付坏	〔11.0〕	4.2	7.3	長石，白雲母，赤色粒子	にぶい橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面ヘラミガキ，底部切り離し後高台貼り付け，底部外面ヘラ切り離し	5層	墨書「□」 ヘラ記号「二」 60%，PL22
5	土師器	甕	〔22.0〕	(22.5)	－	石英，長石，金雲母	にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面上位ナデ・中位以下縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ，輪積痕	床面，竈火床面・煙道部	30% PL23
6	土師器	甕	〔23.0〕	(10.0)	－	石英，長石，金雲母，小礫	にぶい黄橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面ナデ，体部内面ヘラナデ，輪積痕	2層	10% PL23
7	土師器	甕	－	(11.6)	7.9	石英，長石，角閃石，白色粒子，小礫	橙色	体部～底部外面丁寧なナデ，内面ヘラナデ，体部～底部内面炭化物付着	竈火床面	30% PL23
8	須恵器	甕	－	(19.9)	－	石英，長石，白雲母，白色粒子	灰色	体部外面斜位の平行タタキ後回転カキ目，体部内面ナデ・指頭圧痕	5層	15% PL23
9	須恵器	甕	〔19.0〕	(2.5)	－	長石，白雲母	褐灰色	口縁部内外面ロクロナデ，外面一部剥離	2層	5% PL23
10	土師器	手捏土器	5.0	3.6	4.8	石英，長石，金雲母，赤色粒子	にぶい黄橙色	鉢形のミニチュア土器，内外面指ナデ・オサエ，底部外面木葉痕	2層	90% PL23
11	土師器	手捏土器	〔6.0〕	3.0	〔5.4〕	石英，長石，白色粒子	にぶい黄橙色	鉢形のミニチュア土器，外面指ナデ，内面粘土貼り付け後指ナデ，底部外面木葉痕	2層	30% PL23
12	須恵器	円面硯	－	(2.5)	〔13.3〕	石英，長石，白色粒子	褐灰色	脚部縦方向の沈線・透かし孔	南東部覆土中	5% PL24

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	出土位置	備考
13	石製品(支脚)	24.6	6.7	7.0	1672	安山岩	一部に被熱痕	竈火床面	

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
14	鉄製品(刀子)	(11.2)	1.55	0.5	(14.8)	鉄	刃部切先を欠く，関は両関であるが不明瞭，茎は断面長方形	2層	PL24
15	鉄製品(刀子)	(4.44)	0.93	0.4	(3.8)	鉄	刃部先端のみ，断面三角形	1層	
16	鉄製品(閂)	(6.1)	5.1	0.5	(28.5)	鉄	コの字状に折り曲げ，断面長方形，先端に向かいやや細くなる	2層	PL24

第111号竪穴住居跡（第38・39図，表18）

位置　第３調査区S0b9グリッド，標高34.42m地点に位置する。

規模と形状　北部が調査区外に延びているが，長軸3.01m，短軸（1.29）mで，方形もしくは長方形を呈していると推測される。主軸方向はN－96°－Eである。壁高は確認面から最大高40cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部を第358・361・362号土坑に掘り込まれる。

土層　層厚が薄く明確に捉えることは出来なかった。

土層解説

1　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量，浅黄色パミス少量，やや締まりあり
2　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子中量，浅黄色パミス微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，締まり強い（貼床構築土）

床　ほぼ平坦で，住居中央部がやや硬化するものの，全体的には柔らかい印象を受ける。

壁溝　検出されていない。

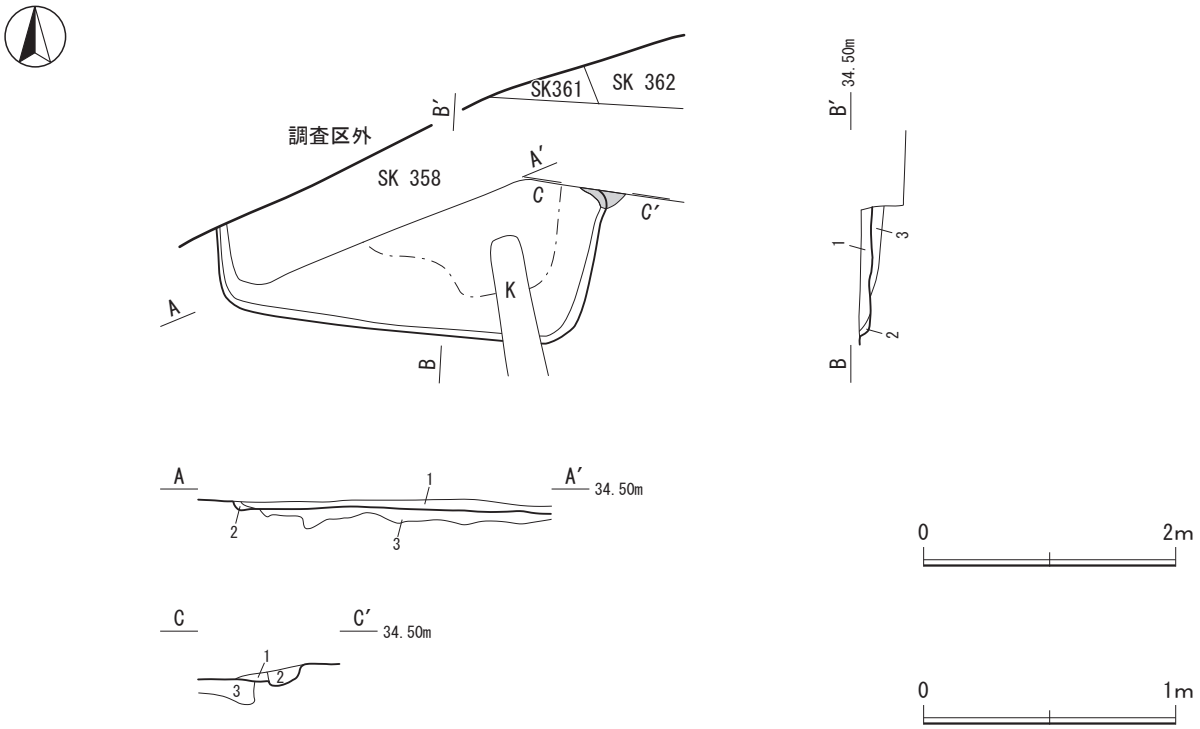
竈　東壁にあり，砂質粘土で構築されているが，第358号土坑に壊されており，袖部の一部が確認されただけである。なお，第358号土坑の覆土中には本跡の竈構築材と考えられる砂質粘土と焼土が散見された。

竈土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：焼土粒子微量，砂質粘土ブロック中量

2　10YR3/3　暗 褐 色：焼土粒子少量，砂質粘土ブロック多量，浅黄色パミス少量

3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，締まり強い

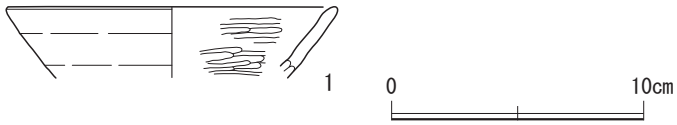


第38図　第111号竪穴住居跡実測図

柱穴　床面からは，主柱穴，出入り口ピットともに検出されていない。

遺物出土状況　土師器片15点（坏・高台付坏類12，甕類３）が出土した。なお，床面から出土した遺物はなく，すべて投棄あるいは覆土に混入した遺物である。

所見　一辺が３m程の小型の住居跡で，調査された範囲内に柱穴は確認されなかった。時期は，遺物の出土数が少なく，大半が細片であるため判然としないが，本遺跡では東側に竈をもつ住居跡は９世紀前葉から10世紀前葉に限定されるため，本跡もこの時期内であると推測される。



第39図　第111号竪穴住居跡出土遺物実測図

表18　第111号竪穴住居跡出土遺物観察表

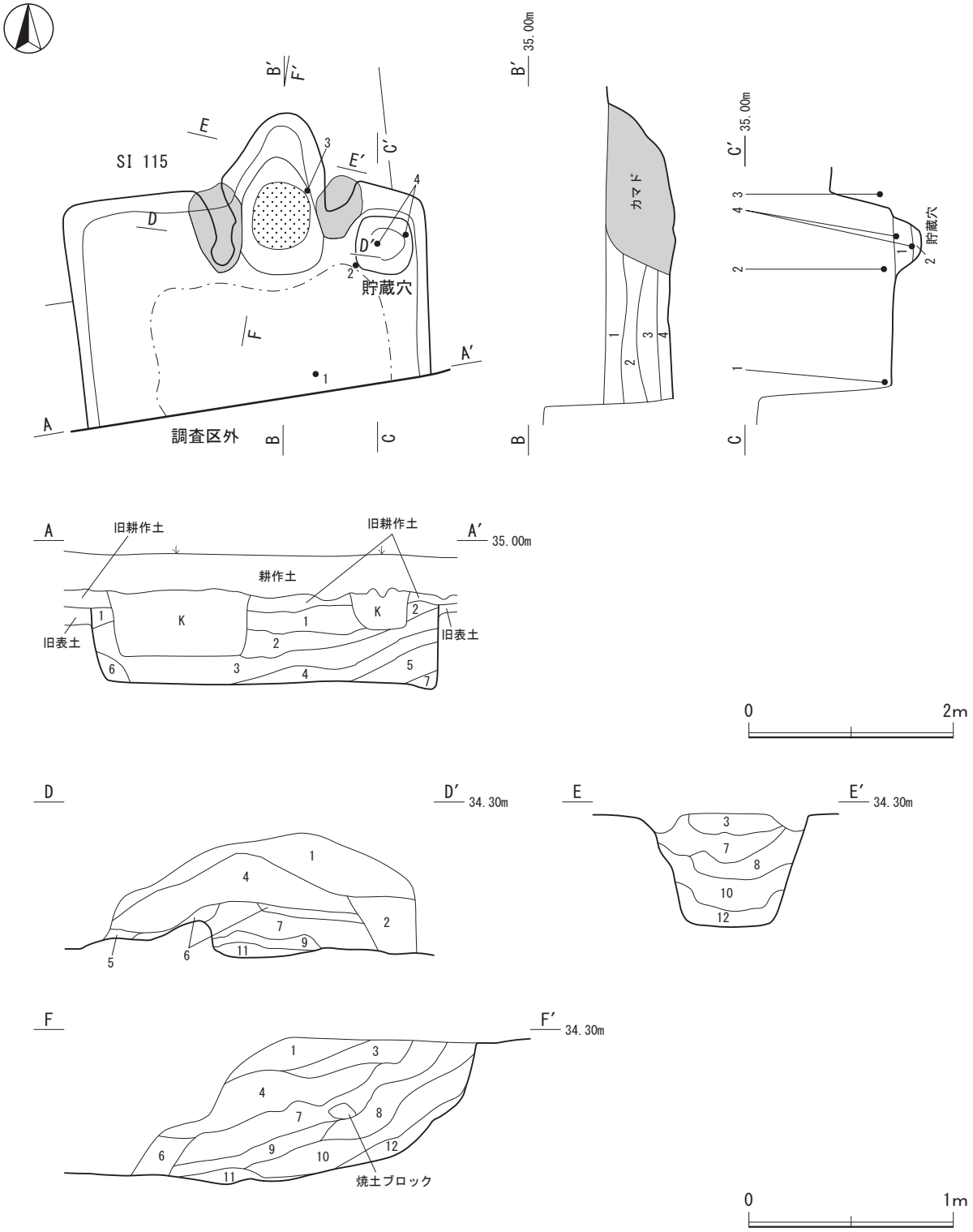
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	〔13.0〕	(2.8)	－	石英，長石，白色粒子	明赤褐色	外面ロクロナデ，内面ヘラミガキ	南東部覆土中	5%

第112号竪穴住居跡（第40・41図，表19）

位置　第３調査区Q0f9グリッド，標高34.18m地点に位置する。

規模と形状　南部が調査区外に延びているが，長軸（2.19）m，短軸3.54mで，方形もしくは長方形を基調とするプランが想定される。主軸方向はN－５°－Wである。壁高は確認面から最大高78cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　北部で第115号住居跡を掘り込んでいる。



第40図　第112号竪穴住居跡実測図

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，締まり弱い
2　10YR5/4　にぶい黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物微量
4　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化物中量
5　10YR3/1　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，黄色パミス少量，締まり弱い
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量
7　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，炭化物少量，締まり弱い

床　ほぼ平坦で，住居中央部が硬化している。

壁溝　検出されていない。

竈　北壁中央部やや東寄りにあり，粘質土にローム粒子を混ぜて構築されている。焚口部から煙道までは159㎝である。天井部は崩落しており，竈土層断面図中，第７層が崩落土と考えられる。また，袖部の基部の最大幅は約99㎝である。火床部は床面から３㎝ほど低くなっており，赤変硬化している。なお，煙道は壁外へ70㎝ほど削り込んで造られ，火床部から煙道へは一旦段をなして立ち上がる。

竈土層解説

1　10YR2/2　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物微量
3　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土ブロック微量
4　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量
5　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量
7　10YR6/8　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，粘性強い，締まり強い
8　5YR3/3　暗赤褐色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化物少量，締まり弱い
9　5YR3/4　暗赤褐色：ロームブロック微量，焼土粒子多量，炭化物微量
10　5YR4/6　赤 褐 色：焼土粒子多量，粘性弱い
11　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量
12　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量

柱穴　床面からは，主柱穴，出入り口ピットともに検出されていない。

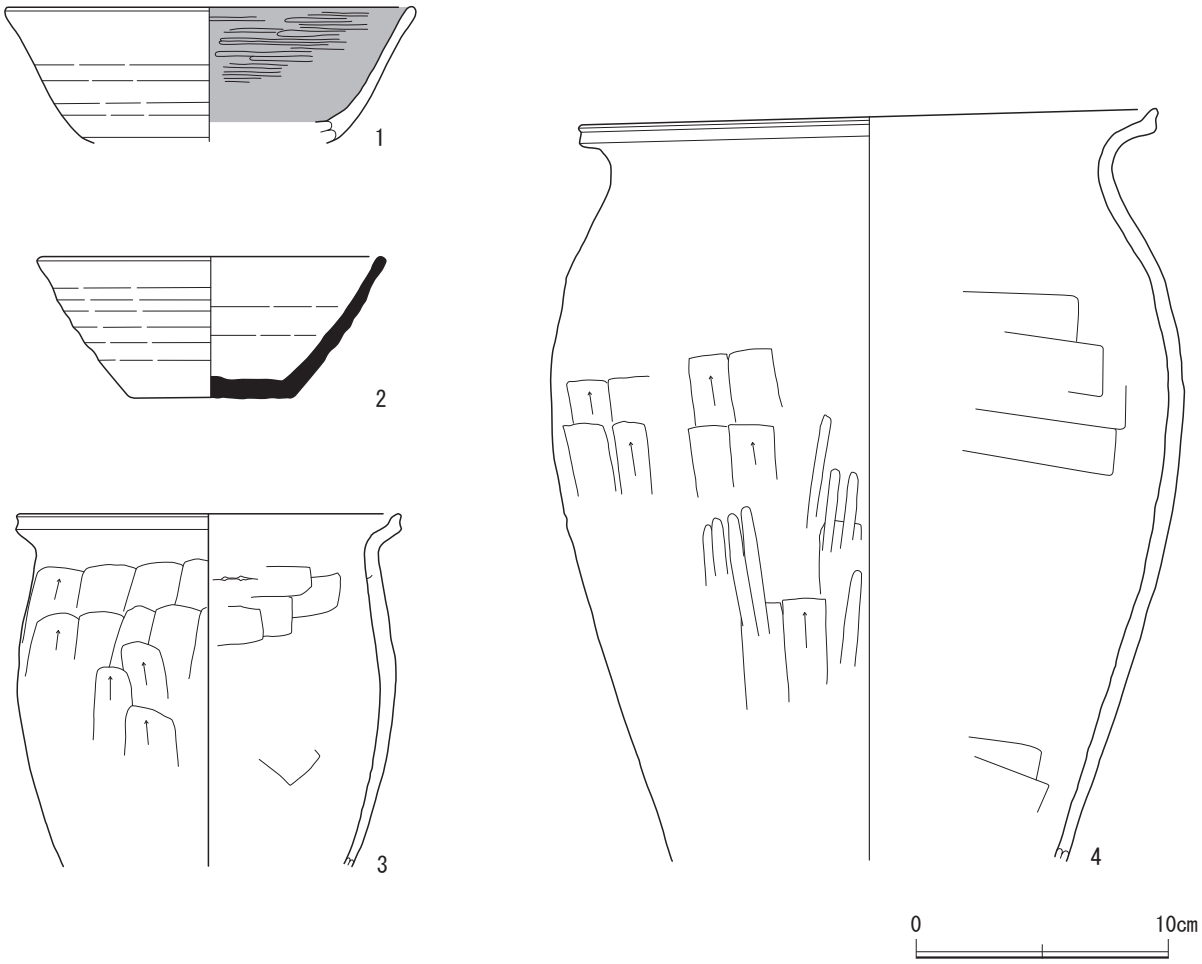
貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。平面形状は長径57㎝，短径55㎝ほどの方形を呈し，深さは27㎝である。底面は皿状で，外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　10YR2/3　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量

遺物出土状況　土師器片192点（坏･高台付坏類29，甕類163），須恵器片10点（坏･高台付坏類２，蓋２，甕類６）が出土した。３の甕は竈火床面から正位の状態で，４の甕は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。

所見　本跡は竈付近と貯蔵穴から良好な状態で遺物が出土している。時期は出土遺物から判断して，９世紀後葉と考えられる。



第41図　第112号竪穴住居跡出土遺物実測図

表19　第112号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	〔16.0〕	(5.4)	－	石英，長石，白雲母，赤色粒子	橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り	4層	20%
2	須恵器	坏	〔13.6〕	5.6	6.0	石英，長石，白色粒子，小礫	灰褐色	内外面ロクロナデ，底部回転ヘラ切り	4層	40%
3	土師器	甕	15.0	(14.0)	－	石英，長石，白雲母，小礫	橙色	口縁部内外面横ナデ，体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ，輪積痕	竈火床面	60%
4	土師器	甕	22.7	(29.8)	－	石英，長石，白雲母，小礫	黄褐色	口縁部内外面横ナデ，体部外面上位ナデ・中位以下ヘラ削り後縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ	貯蔵穴1層	70% PL24

（２）土坑

第354号土坑（第42・43図，表20）

位置　第１調査区Y'6h0グリッド，標高35.10m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.63m，短軸0.55mの円形を呈し，深さ46cmほど掘り込まれる。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，粘性あり
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片３点（坏・高台付坏類３）が覆土中から出土している。

所見　これら出土した土器には断面が摩耗しているものとないものが混在するため，埋土中に混入した土器のほか，埋戻し過程で投棄された土器も含まれている可能性がある。時期は遺物から10世紀前半と推測される。

第361号土坑（第42・43図，表21）

位置　第３調査区S0c8グリッド，標高34.43m地点に位置する。

規模と形状　北部が調査区外へ延びている。長軸1.72m，短軸（0.35）mの方形もしくは長方形を呈していると考えられ，深さ28cmほど掘り込まれる。底面は凸凹で，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　第358・362号土坑に掘り込まれる。

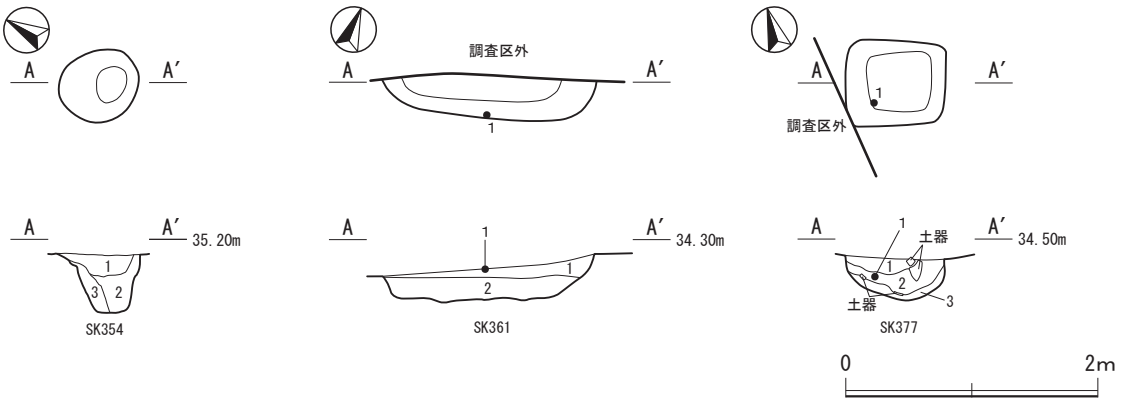
土層　ローム土や焼土のブロックが含まれており，人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土粒子少量，浅黄色パミス微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片４点(坏･高台付坏類３，高台付埦１)，須恵器片３点(坏･高台付坏類３)，金属製品１点（不明１）が覆土中から出土している。

所見　時期は，遺物が少なく断定できないが，９世紀前葉から中葉と考えられる。



第42図　第354・361・377号土坑実測図

第377号土坑（第42・43図，表22）

位置　第３調査区R0c7グリッド，標高34.38m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.79m，短軸0.69mの方形を呈し，深さ32cmほど掘り込まれる。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の，人為堆積である。

土層解説

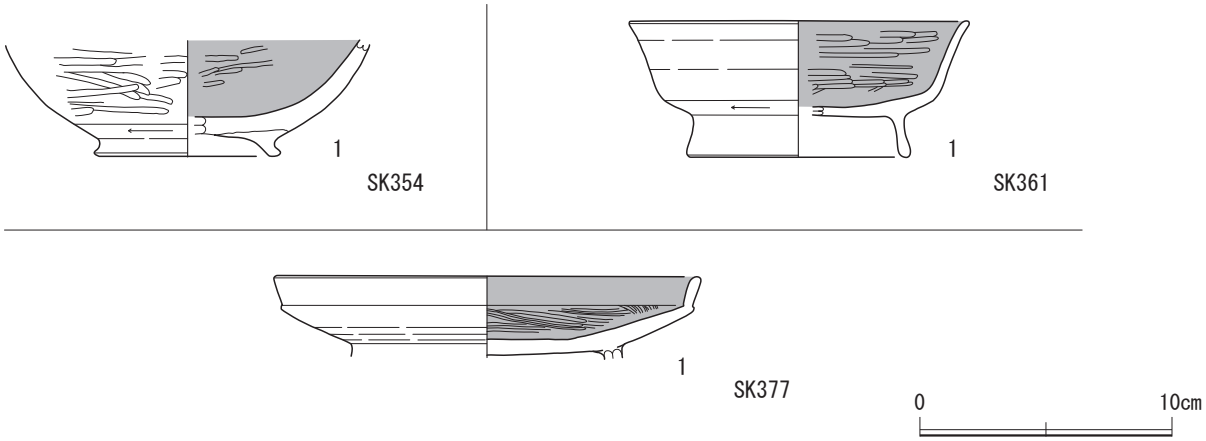
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，赤色スコリア少量

2　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物少量，粘性あり

3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片13点（坏・高台付坏類1，盤４，甕類８），須恵器片１点（甕類１）が覆土中から出土している。

所見　出土した土器は全て９世紀中葉から後葉に比定されるものであるが，土師器甕片３点には接合関係は認められないため，投棄したものではなく埋土中に混入していた土器の可能性がある。



第43図　第354・361・377号土坑出土遺物実測図

表20　第354号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付埦	－	(4.6)	〔7.0〕	長石，針状鉱物，白雲母	にぶい黄橙色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面ヘラミガキ，底部切り離し後高台貼り付け	覆土中	25% PL24

表21　第361号土坑出土遺物観察表

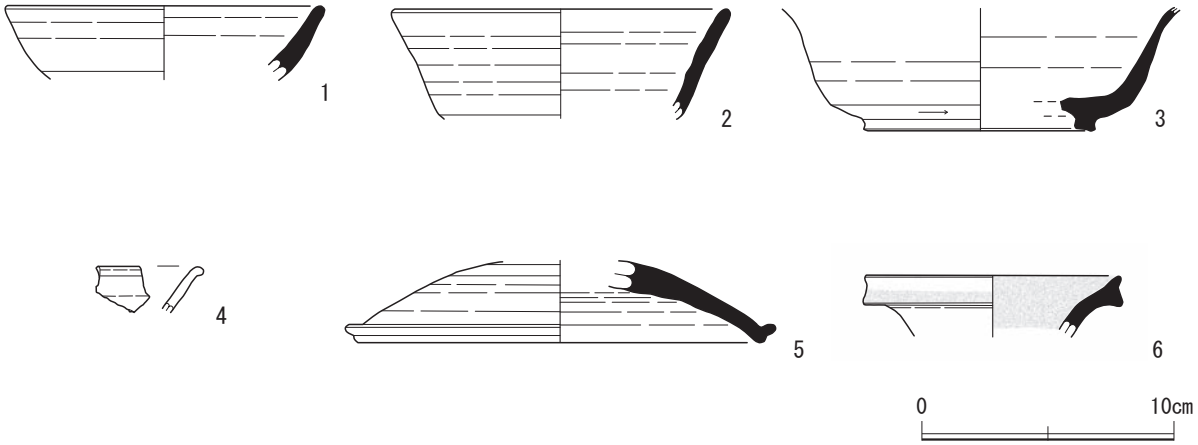
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	〔13.4〕	5.4	〔8.6〕	石英，長石，白雲母，白色粒子	暗褐色	内面黒色処理・ヘラミガキ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部切り離し後高台貼り付け	1層	40% PL24

表22　第377号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	盤	〔16.6〕	(3.2)	－	石英，長石，針状鉱物，白色粒子	にぶい褐色	内面黒色処理・ヘラミガキ，外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	2層	45% PL24

（3）遺構外出土遺物

今回の調査で，表土層，遺構確認面などから，遺構に伴わない奈良・平安時代の遺物が出土している。ここでは，それらの遺物をまとめて掲載する（第44図，表23）。



第44図　奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図

表23　奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	〔12.4〕	(2.9)	－	石英，長石	灰黄褐色	内外面ロクロナデ，体部外面下端回転ヘラ削り	Z'7g3グリッド	5%
2	須恵器	坏	〔13.2〕	(4.4)	－	小礫，石英，長石	灰黄褐色	内外面ロクロナデ，体部外面下端回転ヘラ削り	Z'7g3グリッド	5% PL24
3	須恵器	高台付坏	－	(4.9)	〔8.8〕	石英，長石，白雲母，小礫	にぶい褐色	内外面ロクロナデ，体部外面下端回転ヘラ削り，底部切り離し後高台貼り付け，内面剥離，底部打欠きヵ	Q0c8グリッド	20%
4	緑釉陶器	碗ヵ	－	(1.7)	－	白色粒子	灰オリーブ色(釉)、灰褐色(胎土)	釉は漬掛け，口縁端部が外に折れる	SK305覆土中混入	5% PL24
5	須恵器	蓋	〔15.9〕	(3.2)	－	白色，長石，石英	灰黄褐色	天井部回転ヘラ削り	Q0f8グリッド	30% PL25
6	須恵器	長頸瓶	〔10.0〕	(2.4)	－	石英，長石，黒色粒子	にぶい黄橙色	内外面ロクロナデ，内外面自然釉付着	方形竪穴1覆土中混入	5% PL25

4　中世

（1）掘立柱建物跡

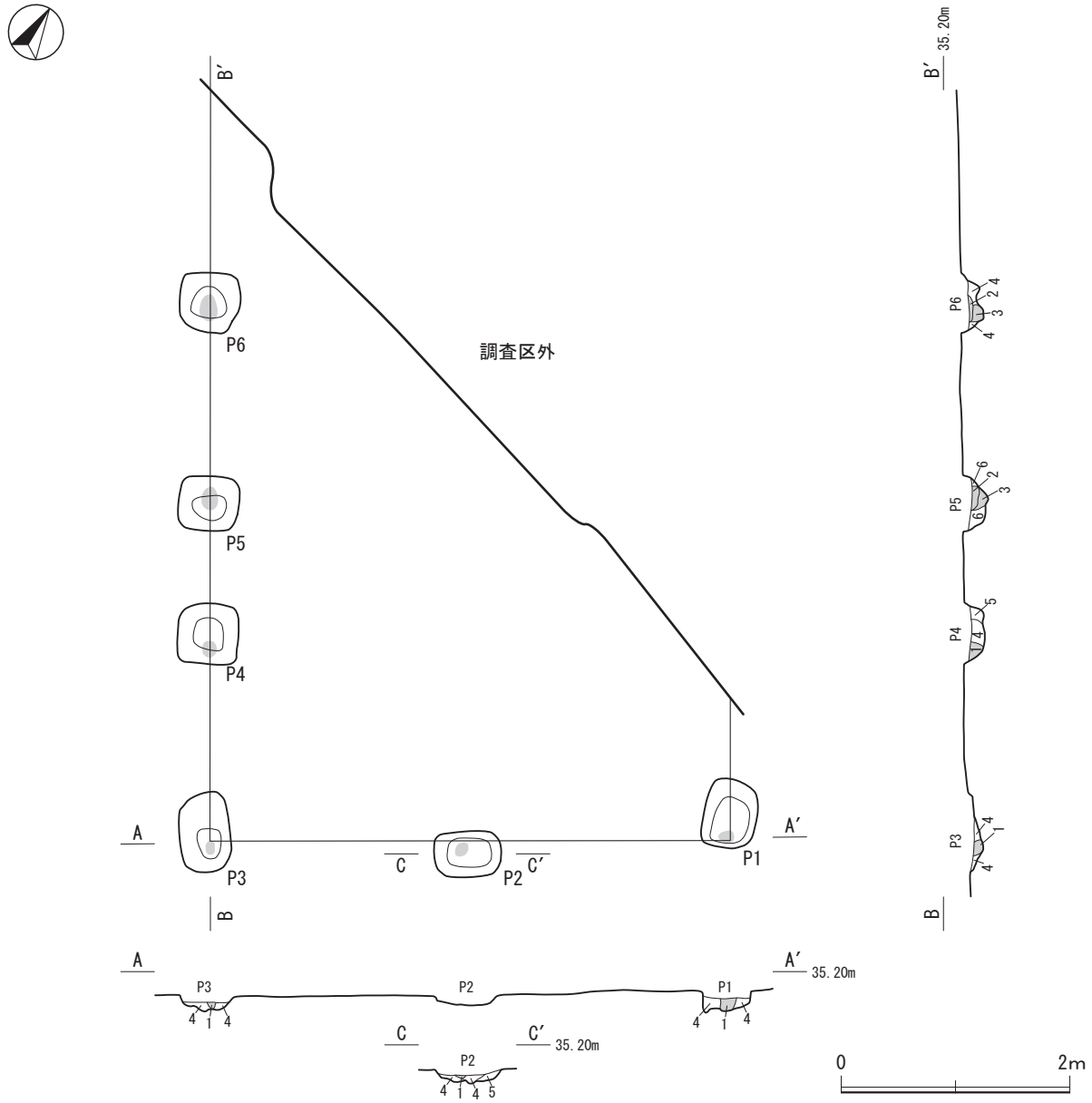
第５号掘立柱建物跡（第45図）

位置　第１調査区A6d8 ～ g9グリッド，標高35.00m地点に位置する。

規模・構造　調査区外に延びている事が予想されるが，桁行３間以上，梁間２間以上の側柱建物で，Ｐ１とＰ３を妻側隅柱と仮定すると，桁行方向をN－30°－Wとする南北棟である。規模は桁行4.60m以上，梁行4.65m以上である。柱間寸法にはバラつきがあり，桁行きは1.3 ～ 1.7m，梁間は2.3mとなっている。

重複関係　単独で位置する。

柱穴　６ヶ所確認され，いずれも平面形は方形である。Ｐ１：46×62cm，深さ19cm，Ｐ２：60×40cm，深さ14cm，Ｐ３：45×70cm，深さ15cm，Ｐ４：53×54cm，深さ19cm，Ｐ５：54×48cm，深さ22cm，Ｐ６：53×53cmである。



第45図　第５号掘立柱建物跡実測図

土層　ロームブロック主体の人為堆積である。なお，土層断面中の第１～３層は柱抜き取り痕に相当する。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，浅黄色パミス少量，赤色スコリア少量
2　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，粘性あり
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量
5　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量，浅黄色パミス少量，赤色スコリア少量
6　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量

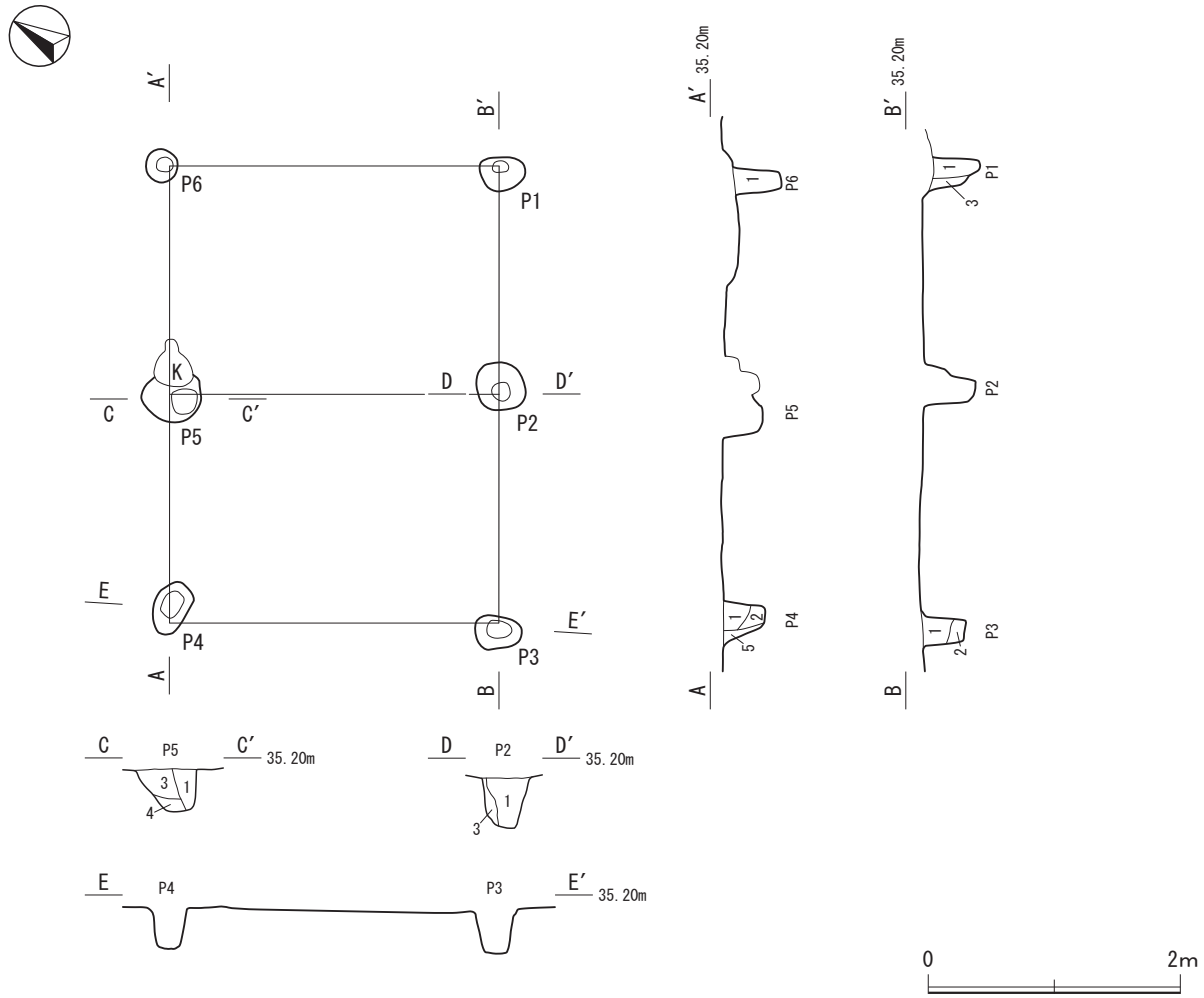
遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　遺構が調査区外に延びていると予想され全容は明らかではないが，調査できた柱穴すべてにあたり痕が認められ，また柱の並びがほぼ直線上にあること等から掘立柱建物跡と判断した。時期は遺構間の重複がなく遺物も出土していないため明確ではないが，近接する第１号方形竪穴遺構と主軸方向が近似しており，中世の可能性がある。

第６号掘立柱建物跡（第46図）

位置　第１調査区Z'6h7 ～ g9グリッド，標高35.08m地点に位置する。

規模・構造　桁行２間，梁行１間の側柱建物で，桁行方向がN－60°－Eの東西棟である。規模は桁行3.64m，梁行2.60mで，桁行の柱間寸法は約1.82mである。



第46図　第６号掘立柱建物跡実測図

重複関係　南東部で第309号土坑に掘り込まれている。

土層　ロームブロック主体の人為堆積である。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，締まり弱い
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，浅黄色パミス少量
4　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子多量，浅黄色パミス少量
5　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，浅黄色パミス少量，赤色スコリア少量

柱穴　６ヶ所確認され，いずれも平面形は楕円形である。Ｐ１：35×25㎝，深さ44㎝，Ｐ２：38×37㎝，深さ39㎝，Ｐ３：36×24㎝，深さ33㎝，Ｐ４：29×42㎝，深さ34㎝，Ｐ５：48×45㎝，深さ31㎝，Ｐ６：25×25m，深さ37㎝である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は第５号掘立柱建物跡と直交するように位置しており，配置的に見て中世の可能性が示唆される。

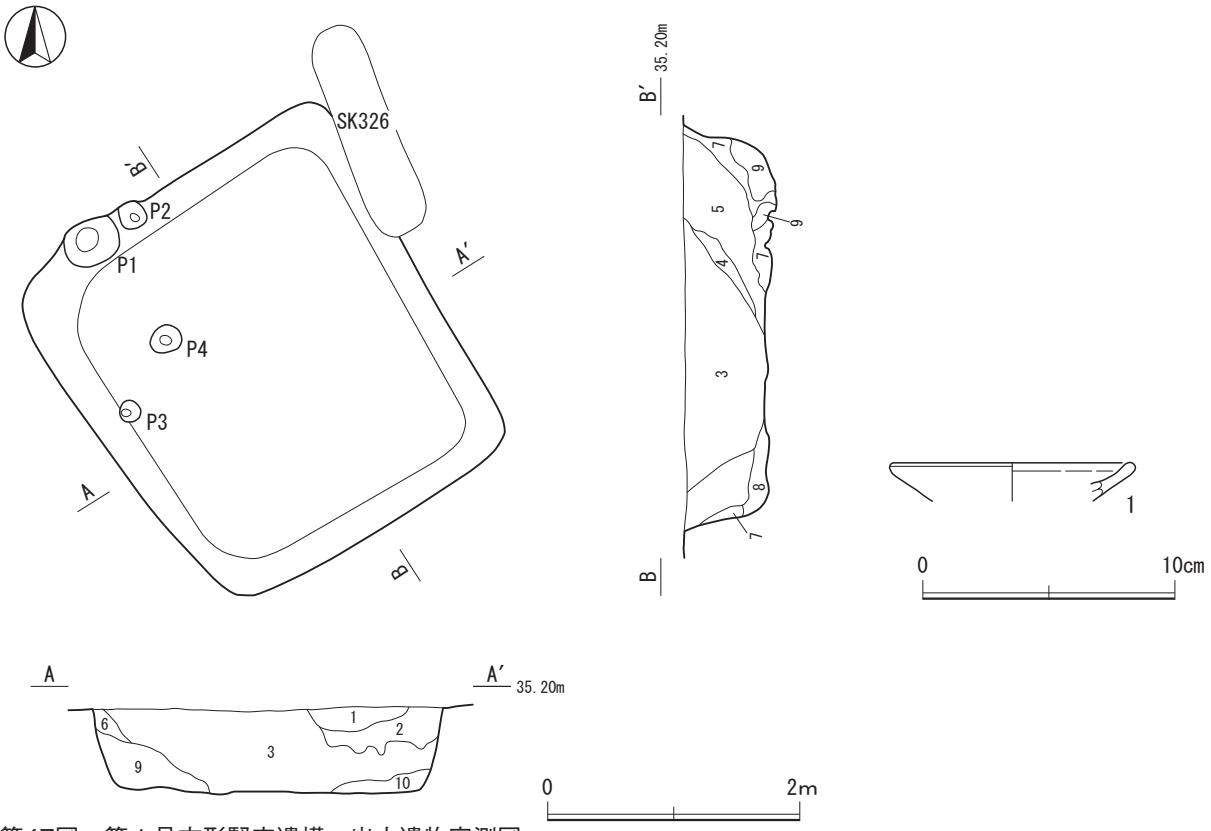
（２）方形竪穴遺構

第１号方形竪穴遺構（第47図，表24）

位置　第１調査区A6d0グリッド，標高34.99m地点に位置する。

規模と形状　長軸3.23m，短軸2.85mの方形を呈し，主軸方向はN－30°－Wである。壁高は確認面から最大高68㎝を測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北東部で第326号土坑に掘り込まれている。



第47図　第１号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

表24　第１号方形竪穴遺構出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	〔9.4〕	(1.5)	―	石英、長石、白雲母	黄色	内外面ロクロナデ	覆土中	5% PL25

床　ほぼ平坦であるが北部で凹凸が見られる。全体的に締りの弱い印象である。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，浅黄色パミス中量，赤色スコリア中量
2　10YR7/6　明黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子少量
3　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，浅黄色パミス少量，赤色スコリア少量
4　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子多量，浅黄色パミス少量
5　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，浅黄色パミス微量
6　5YR4/6　赤 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，赤色粒子多量
7　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，浅黄色パミス微量
8　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，浅黄色パミス微量
9　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，浅黄色パミス微量，締まり弱い
10　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，灰白色シルトブロック少量，浅黄色パミス中量，赤色スコリア中量

柱穴　４ヶ所確認された。Ｐ１：44×35cm，深さ50cm，Ｐ２：20×22cm，深さ65cm，Ｐ３：16×16cm，深さ12cm，Ｐ４：24×21cm，深さ７cmである。しかし，本跡に伴うか否かは明らかにできなかった。

遺物出土状況　縄文土器片５点，土師器片27点（坏類４，甕類23），須恵器片７点（坏・高台付坏類４，壺１，甕類５），土師質土器片１点（皿），炉器片１点（甕類），土製品１点（土錘）が出土した。全て細片であり，埋土中に混入したものと考えられる。

所見　本跡に伴う遺物は出土していないが，混入遺物の中で最も新しい時代に比定される土器片が中世に比定されることや，周辺の竪穴遺構が竪穴住居跡を掘り込み近世墓壙に掘り込まれていること等から総合的に中世と判断した。

第２号方形竪穴遺構（第48図）

位置　第１調査区Z'6h0グリッド，標高35.02m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.53m，短軸2.43mの方形を呈し，主軸方向はN－４°－Wである。壁高は確認面から最大高54cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

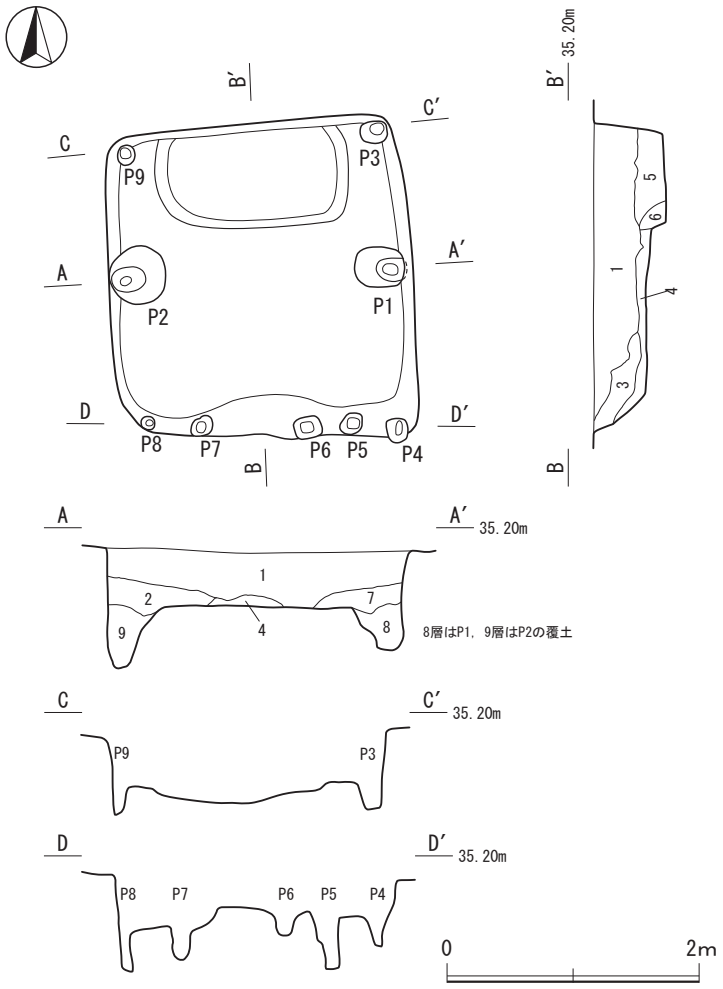
重複関係　南東部で第103号住居跡を掘り込んでいる。

床　貼り床や踏み固められ硬化した面は認められなかった。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，灰白色シルトブロック少量，赤色スコリア少量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，締まり弱い
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，赤色スコリア少量，締まり弱い
4　10YR5/4　にぶい黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化物中量，締まり弱い
5　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，締まり弱い
6　5YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子少量
7　10YR3/1　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量
8　10YR7/8　黄 橙 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，やや締まりあり
9　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，灰白色シルトブロック少量



第48図　第２号方形竪穴遺構実測図

柱穴　９ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１:40×31cm,深さ39cm,Ｐ２:45×46cm，深さ49cm，Ｐ３：21×18cm，深さ22cm，Ｐ４：17×20cm，深さ25cm，Ｐ５:17×17cm，深さ41cm，Ｐ６：21×17cm，深さ18cm，Ｐ７：17×16cm，深さ28cm，Ｐ８：11×11cm，深さ32cm，Ｐ９：13×16cm，深さ21cmである。

遺物出土状況　土師器片18点（坏類１,甕類17),須恵器片６点(坏類２,壺１，甕類３）が出土している。すべて埋土中に混入したものと考えられる。

所見　壁に沿って９ヵ所に柱穴が確認された。特にＰ１・Ｐ２は上屋を支える主柱穴と考えられる。時期は第３・４・６・９・10号方形竪穴遺構と建物構造が近似していることから中世と判断した。

第３号方形竪穴遺構（第49図）

位置　第１調査区Z'7d1グリッド，標高35.00m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.31m，短軸2.25mの方形を呈し，主軸方向はN－19°－Wである。壁高は確認面から最大高51cmを測り，外傾して立ち上がる。

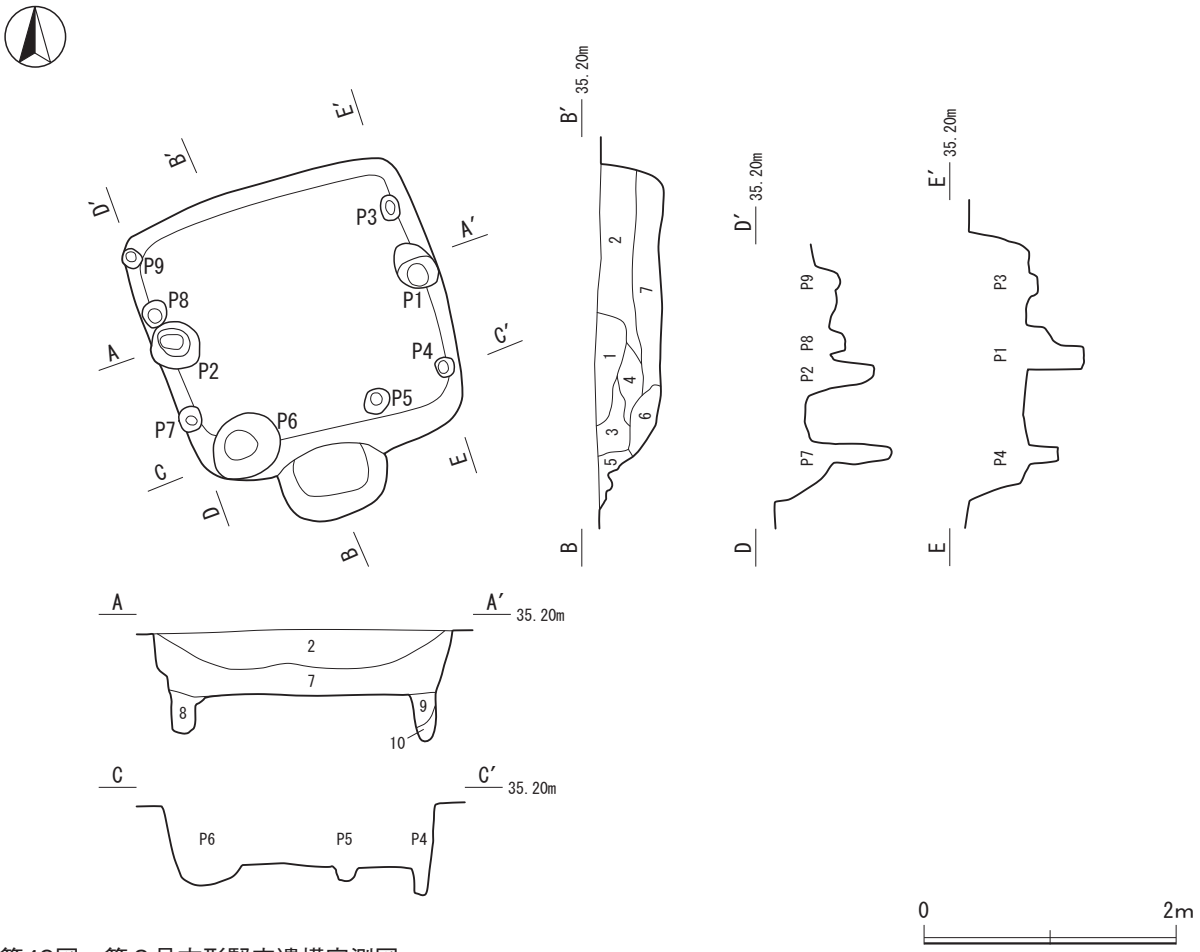
重複関係　西部で第106・107号住居跡を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦である。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物中量，浅黄色パミス中量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，灰白色シルトブロック少量
3　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量
5　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物少量，浅黄色パミス少量
8　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，やや締まりあり
9　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子微量
10　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量



第49図　第３号方形竪穴遺構実測図

柱穴　９ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：31×44cm，深さ39cm，Ｐ２:40×39cm，深さ34cm，Ｐ３:14×20cm，深さ８cm，Ｐ４:15×15cm，深さ23cm，Ｐ５:21×19cm，深さ12cm，Ｐ６：57×49cm，深さ14cm，Ｐ７：18×19cm，深さ50cm，Ｐ８：20×20cm，深さ13cm，Ｐ９：14×15cm，深さ５cmである。

張り出し部　遺構確認時，土坑との重複を考慮し調査を開始したが，土層観察の結果，本跡の張り出し部と判断した。

遺物出土状況　土師器片38点（坏類11，甕類27），須恵器片８点（盤１，蓋１，壺１，甕類５），土師質土器片１点（鉢），炻器片１点（甕類），青磁片１点（皿），石器１点（剥片），鉄滓１点が出土しているが，床面から確認された遺物はなかった。

所見　第２・４・６・９・10号方形竪穴遺構と同様，壁柱穴により上屋を支える建物構造である。時期はこれらの遺構と規模や構造が一致することから，中世と考えられる。

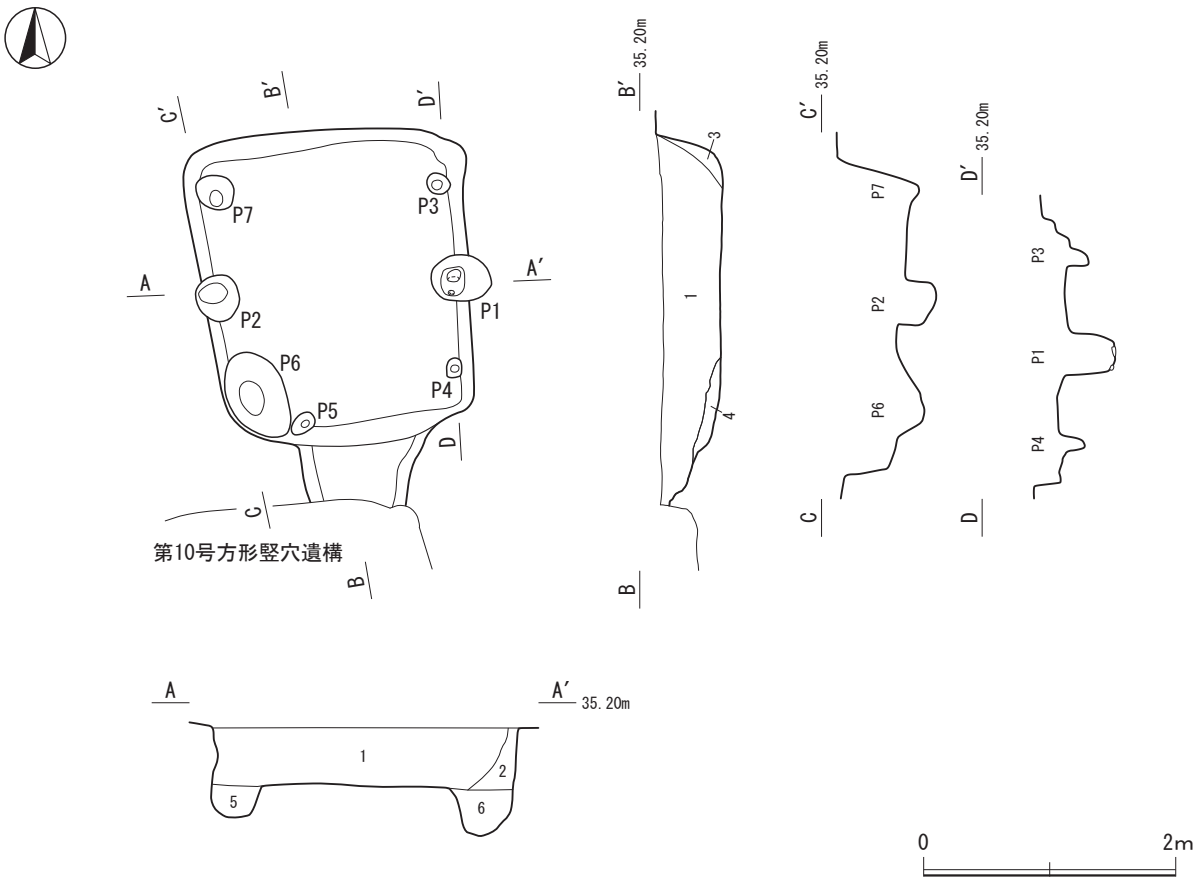
第４号方形竪穴遺構（第50図）

位置　第１調査区Z'7b2グリッド，標高35.05m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.46m，短軸2.25mの方形を呈し，主軸方向はN－５°－Wである。壁高は確認面から最大高48cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　南西コーナー部を第315号土坑に，南部を第10号方形竪穴遺構に掘り込まれ，東部で第106・107号住居跡を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦で貼り床や踏み固められ硬化した面は認められなかった。



第50図　第４号方形竪穴遺構実測図

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
5　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量
6　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子微量

柱穴　７ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：47×36cm，深さ36cm，Ｐ２:33×35cm，深さ24cm，Ｐ３:17×16cm，深さ16cm，Ｐ４:11×15cm，深さ14cm，Ｐ５：15×13cm，深さ24cm，Ｐ６：47×74cm，深さ20cm，Ｐ７：30×28cm，深さ13cmである。

張り出し部　南壁中央部に付設されているが，南端部は壊されている。規模は（41）×100cm，深さは26cmで，スロープ状である。

遺物出土状況　土師器片12点（坏類３，甕類９），須恵器片３点（坏類１，甕類２）が出土した。

所見　出土した遺物は埋土中に混入したものと考えられる。特に本跡は第106・107号竪穴住居跡を掘り込んでおり，これらの遺構の遺物の可能性が高い。時期は第２・３・６・９・10号方形竪穴遺構と建物構造が近似していることから中世と判断した。

第５号方形竪穴遺構（第51図）

位置　第１調査区Z'7b4グリッド，標高34.04m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.14m，短軸1.75mの長方形を呈し，主軸方向はN－18°－Wである。壁高は確認面から最大高48cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　北部で第10号方形竪穴遺構を，東部で第331号土坑を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦で全体的に締りは弱い。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

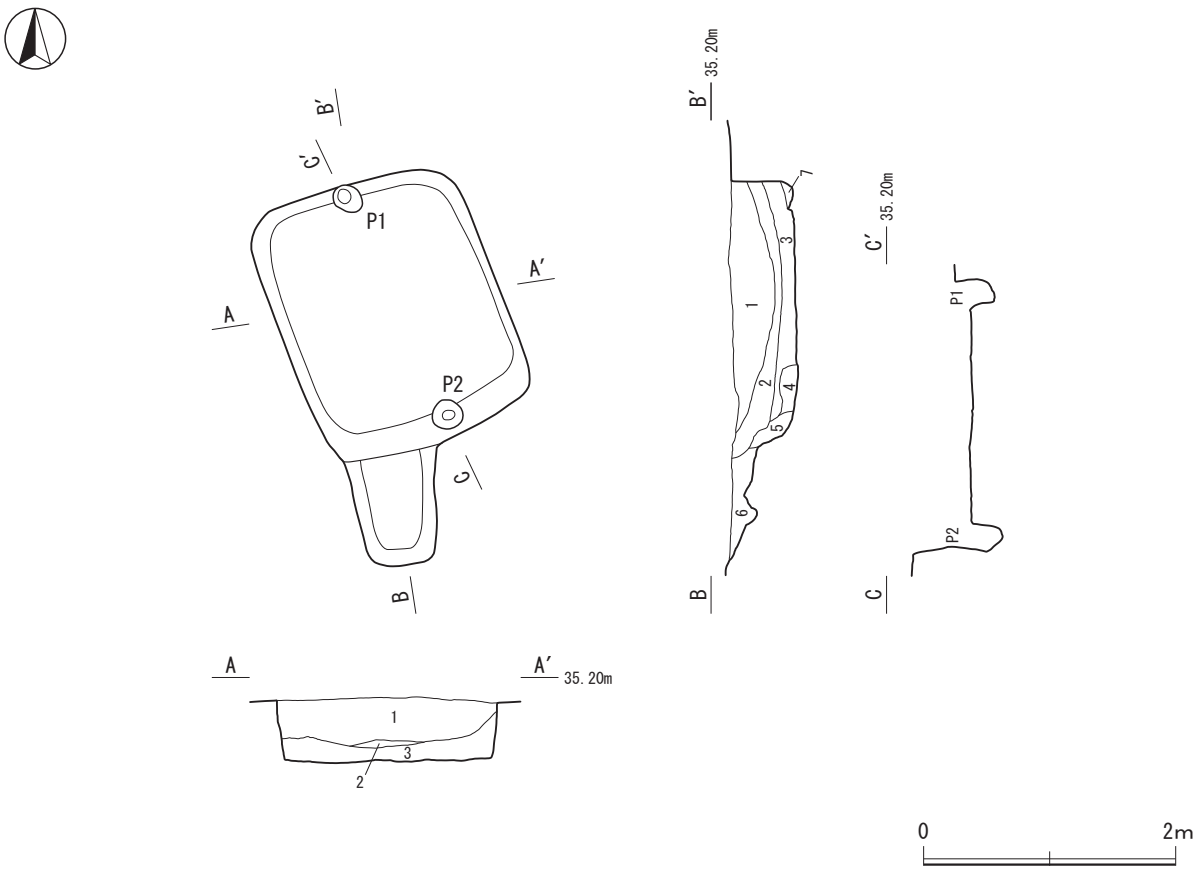
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量，灰白色シルトブロック少量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量，灰白色シルトブロック少量
3　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量，灰白色シルトブロック少量
4　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化物少量，灰白色シルトブロック少量
5　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子多量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，炭化物微量
7　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

柱穴　２ヶ所確認され，Ｐ１･Ｐ２は配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：22×24cm，深さ19cm，Ｐ２：24×25cm，深さ25cmである。

張り出し部　南壁西部に付設されている。規模は74×87cm，深さは20cmで，スロープ状である。

遺物出土状況　土師器片８点（坏類３，甕類５）が出土した。

所見　第７号方形竪穴遺構と規模と形状が酷似している。なお，二基の柱穴が対峙するように付設されている点やスロープ状の張り出しを持つ点など中世の墓壙の特徴が認められる。



第51図　第５号方形竪穴遺構実測図

第６号方形竪穴遺構（第52図）

位置　第１調査区Y'7j4グリッド，標高35.08m地点に位置する。

規模と形状　本跡南部は調査区外に延び，西部は壊されているため明確ではないが，調査できた範囲は長軸（1.91）m，短軸（2.27）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－５°－Wを示す。壁高は確認面から最大高27cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　西部を第11号方形竪穴遺構に掘り込まれ，東部で第12号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦である。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

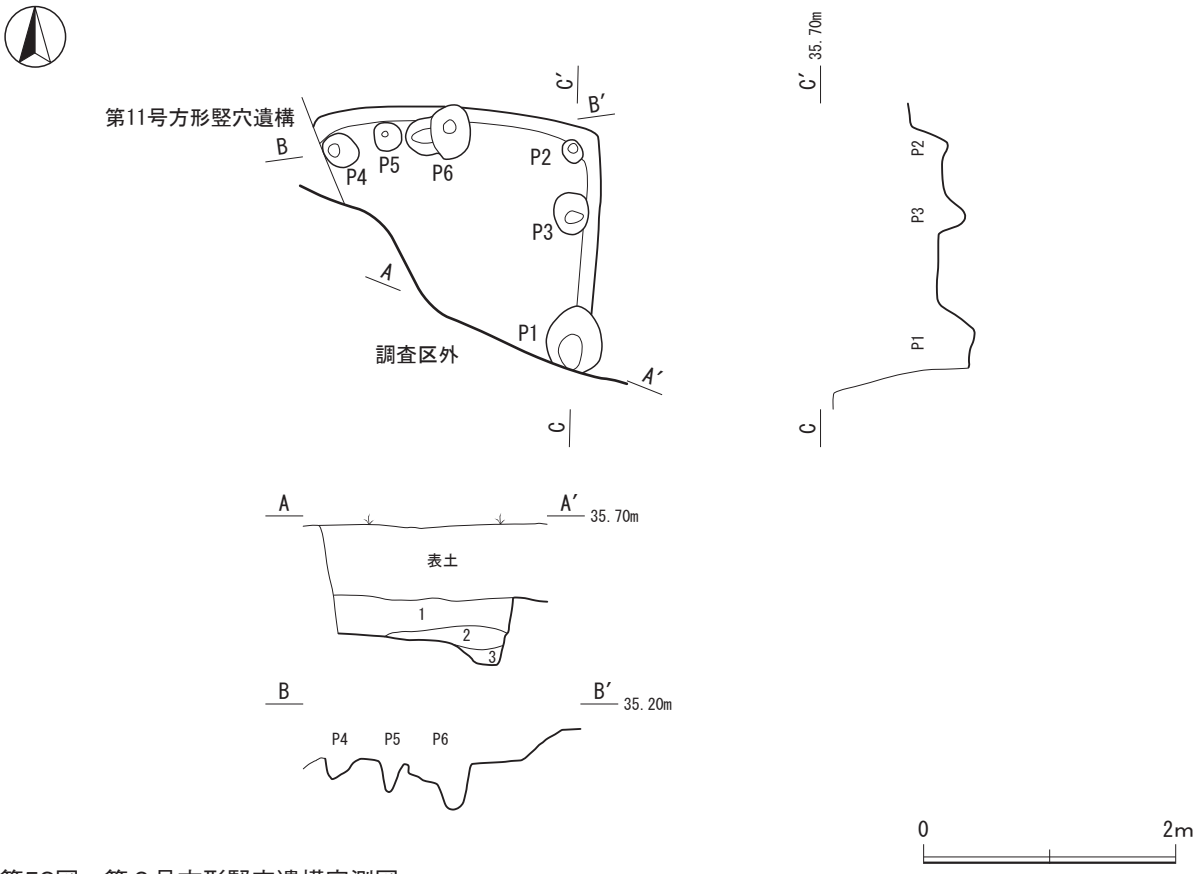
土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，粘性強い
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，粘性強い
3　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量

柱穴　６ヶ所確認され，Ｐ１は主柱穴の可能性が高い。Ｐ１：44×（50）cm，深さ30cm，Ｐ２：15×18cm，深さ８cm，Ｐ３：27×33cm，深さ22cm，Ｐ４：27×29cm，深さ17cm，Ｐ５：21×23cm，深さ27cm，Ｐ６：52×42cm，深さ41cmである。

遺物出土状況　土師器片４点(坏類２，甕類２)，須恵器片１点(瓶１)が埋土中から出土している。

所見　時期は第２～４・９・10号方形竪穴遺構と建物構造が近似していることから中世と判断した。なお，当遺跡で確認された11軒の方形竪穴遺構すべてにおいて床に踏み固められた痕跡はなく炉や竈も確認できていない。以上から本跡内で生活していたとは考え難く，これら方形竪穴遺構の性格を把握することはできなかった。



第52図　第６号方形竪穴遺構実測図

第７号方形竪穴遺構（第53図）

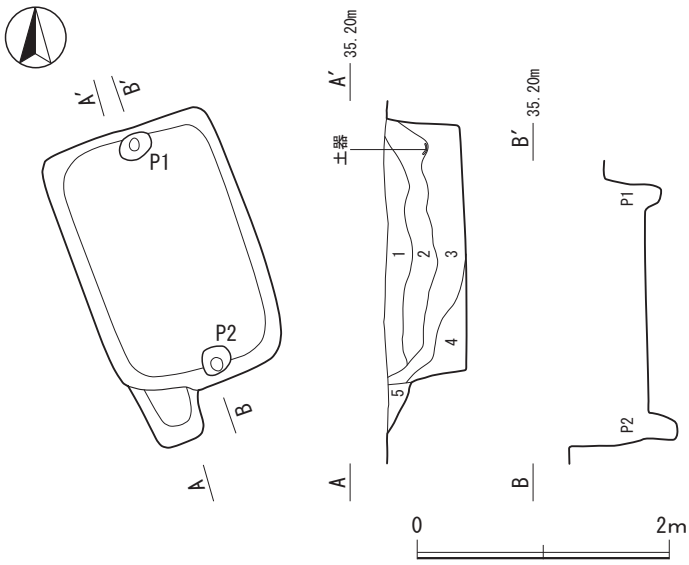
位置　第１調査区Z'7J2グリッド，標高34.92m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.13m，短軸1.45mの長方形を呈し，主軸方向はN－16°－Wである。壁高は確認面から最大高64cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　北部で第103号住居跡を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦で貼り床や踏み固められ硬化した面は認められなかった。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。



第53図　第７号方形竪穴遺構実測図

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量，浅黄色パミス少量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，焼土ブロック少量，炭化物少量，浅黄色パミス少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，浅黄色パミス微量
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，炭化物少量，締まり弱い
5　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，浅黄色パミス少量，締まり弱い

柱穴　２ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：28×20cm，深さ14cm，Ｐ２：23×21cm，深さ24cmである。

張り出し部　南壁西部に付設されている。規模は47×46cm，深さは18cmで，スロープ状である。

遺物出土状況　土師器片３点（甕類）が埋土中から出土している。

所見　第５号方形竪穴遺構と規模や形状が酷似している。時期は第103号竪穴住居跡を掘り込んでいることから９世紀前葉と考えられ，他の方形竪穴遺構と主軸方向や形状が類似していることから中世の所産と考えられる。

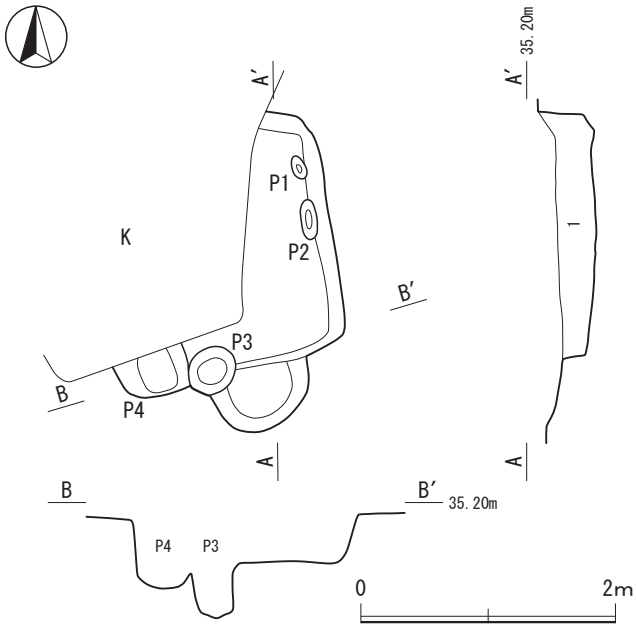
第８号方形竪穴遺構（第54図）

位置　第１調査区Y'7j2グリッド，標高35.09m地点に位置する。

規模と形状　北東部が壊されているため明確ではないが，長軸1.92m，短軸1.88mで，方形を呈していると推測される。主軸方向はN－12°－Wである。壁高は確認面から最大高43cmを測り，ほぼ直立して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

床　ほぼ平坦で貼り床や踏み固められ硬化した面は認められなかった。



第54図　第８号方形竪穴遺構実測図

土層　ロームブロックや焼土ブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，炭化物微量

柱穴　４ヶ所確認された。Ｐ１:12×20cm，深さ８cm，Ｐ２:12×31cm，深さ10cm，Ｐ３:37×36cm，深さ43cm，Ｐ４：55×34cm，深さ14cmである。

張り出し部　南壁西部に付設されている。規模は78×51cm，深さは13cmで，スロープ状である。

遺物出土状況　土師器片６点（坏類２，甕類４），須恵器片１点（蓋），土師質土器片２点（皿）が埋土中から出土している。

所見　当遺跡の方形竪穴遺構には張り出し部を持つものが見られるが，すべてスロープ状に垂下している特徴を持つ。時期は中世と考えられる。

第９号方形竪穴遺構（第55図）

位置　第１調査区Z7e2グリッド，標高35.07m地点に位置する。

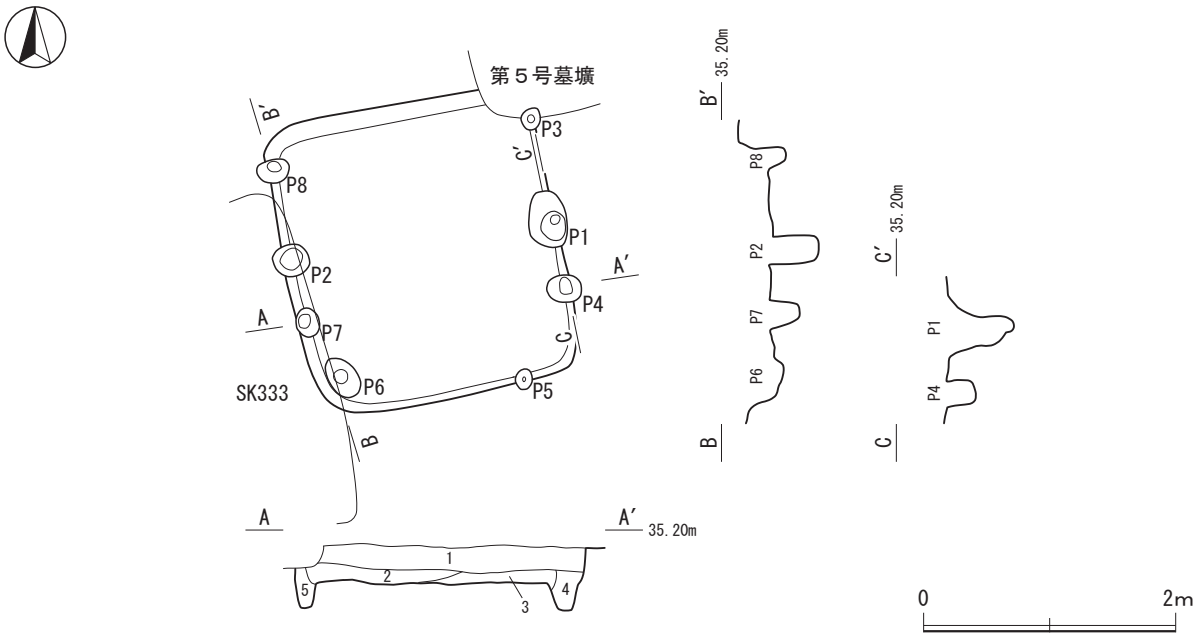
規模と形状　長軸2.38m，短軸2.18mの方形を呈し，主軸方向はN－11°－Wである。壁高は確認面から最大高51cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北東コーナー部を第５号墓壙に，西部を第333号土坑に掘り込まれ，南東部で第105号住居跡を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦である。

土層　ロームブロックを含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
4　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，締まり弱い
5　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量，締まり弱い



第55図　第９号方形竪穴遺構実測図

柱穴　８ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：30×45cm，深さ51cm，Ｐ２:28×26cm，深さ38cm，Ｐ３:15×17cm，深さ16cm，Ｐ４:27×22cm，深さ23cm，Ｐ５：15×17cm，深さ７cm，Ｐ６：22×35cm，深さ８cm，Ｐ７：18×24cm，深さ24cm，Ｐ８：26×18cm，深さ16cmである。

遺物出土状況　土師器片１点(甕類)が出土したが，いずれも埋土中に混入したものと考えられる。

所見　第105号竪穴住居跡を掘り込み，第５号墓壙に掘り込まれている。以上の重複関係から時期は中世と考えられる。

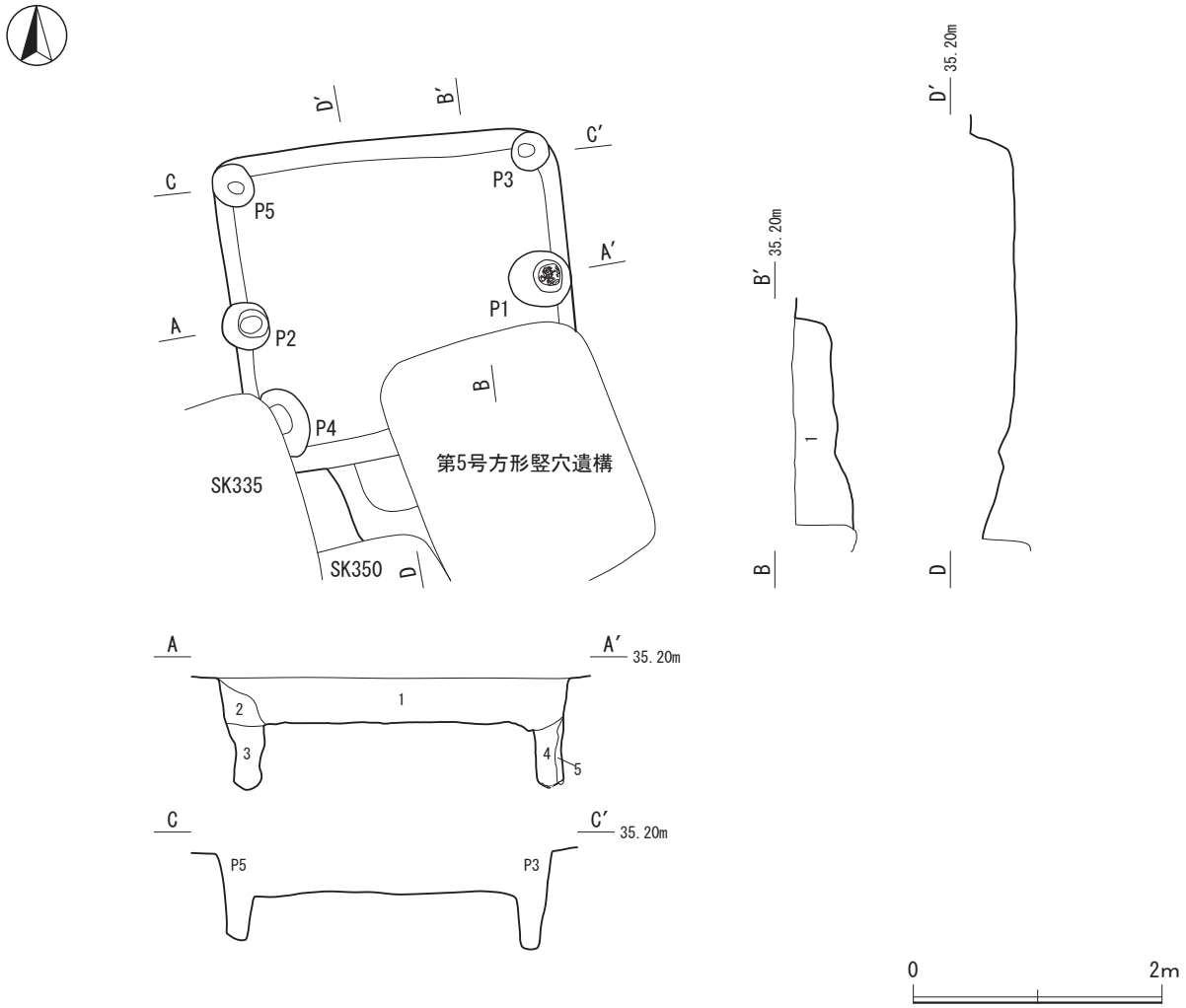
第10号方形竪穴遺構（第56図）

位置　第１調査区Z'7b3グリッド，標高35.05m地点に位置する。

規模と形状　長軸2.77m，短軸2.58mの方形を呈し，主軸方向はN－７°－Wである。壁高は確認面から最大高41cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　南東部を第５号方形竪穴遺構に，南部を第350号土坑に，南西部を第335号土坑に掘り込まれ，北部で第４号方形竪穴遺構を，北東部で第107号住居跡を，東部で第331号土坑を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦である。



第56図　第10号方形竪穴遺構実測図

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量，灰白色シルトブロック少量，粘性弱い
2　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，粘性強い
3　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，粘性強い
4　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
5　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

柱穴　５ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：50×45cm，深さ55cm，Ｐ２：38×39cm，深さ53cm，Ｐ３：30×31cm，深さ44cm，Ｐ４：(24) ×57cm，深さ10cm，Ｐ５：33×36cm，深さ37cmである。

張り出し部　南壁中央部に付設されているが，東部と南端部は壊されている。規模は(58)×(68)cm，深さは28cmで，スロープ状である。

遺物出土状況　出土していない。

所見　壁柱により上屋を支える建物構造で，第２～４・９号方形竪穴遺構と規模や形状が近似しており，時期は中世と判断した。床面には生活していた痕跡はなく性格は不明である。

第11号方形竪穴遺構（第57図）

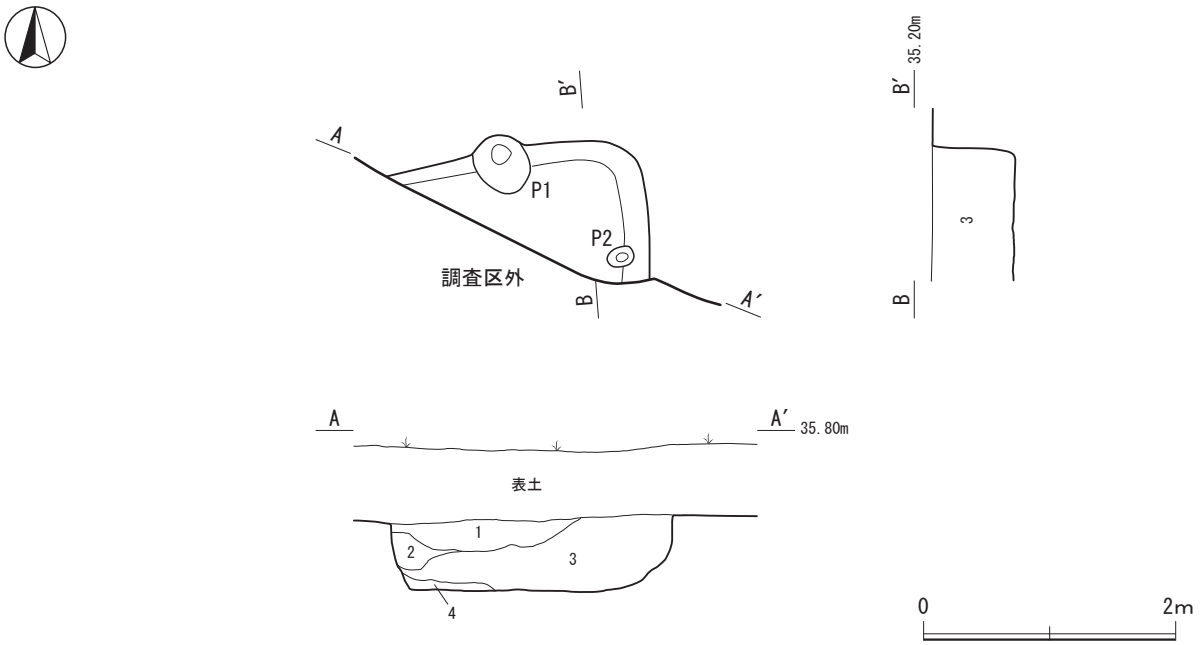
位置　第１調査区Y'7j4グリッド，標高35.09m地点に位置する。

規模と形状　本跡の大半が調査区外にあると推測される。調査できた部分は長軸（1.77）m，短軸（1.14）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－８°－Wである。壁高は確認面から最大高35cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部で第109号竪穴住居跡・第353号土坑を，東部で第６号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

床　ほぼ平坦で，貼り床や踏み固められ硬化した面は認められなかった。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。



第57図　第11号方形竪穴遺構実測図

土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，粘性弱い
2　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量
3　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子多量，締まり弱い
4　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，粘性強い

柱穴　２ヶ所確認され，Ｐ１・Ｐ２は規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１：50×45cm，深さ55cm，Ｐ２：38×39cm，深さ53cm，Ｐ３：30×31cm，深さ44cm，Ｐ４：(24) ×57cm，深さ10cm，Ｐ５：33×36cm，深さ37cmである。

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿）が埋土中から出土している。

所見　大半が調査区外にあると推測されるため明確ではないが，床面が硬化していないことや第６・12号方形竪穴遺構とほぼ同一方向を示していることなどから方形竪穴遺構の可能性が高い。時期は中世と推測される。

第12号方形竪穴遺構（第58図）

位置　第１調査区Z'7a4グリッド，標高35.02m地点に位置する。

規模と形状　大半が壊されており，南部は調査区外に延びているため明確ではないが，調査できた範囲は長軸（1.94）m，短軸（1.67）mの範囲で，方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。主軸方向はN－15°－Wを示す。壁高は確認面から最大高20cmを測り，外傾して立ち上がる。

重複関係　北部を第７号墓壙に，東部を第335号土坑に，西部を第６号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

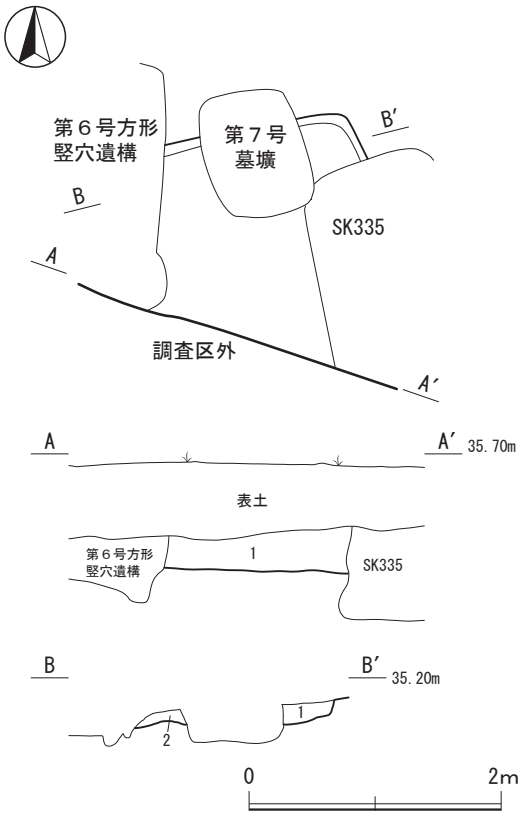
床　ほぼ平坦である。

土層　ロームブロック主体の人為堆積である。

土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量
2　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，灰白色シルトブロック中量

遺物出土状況　出土していない。

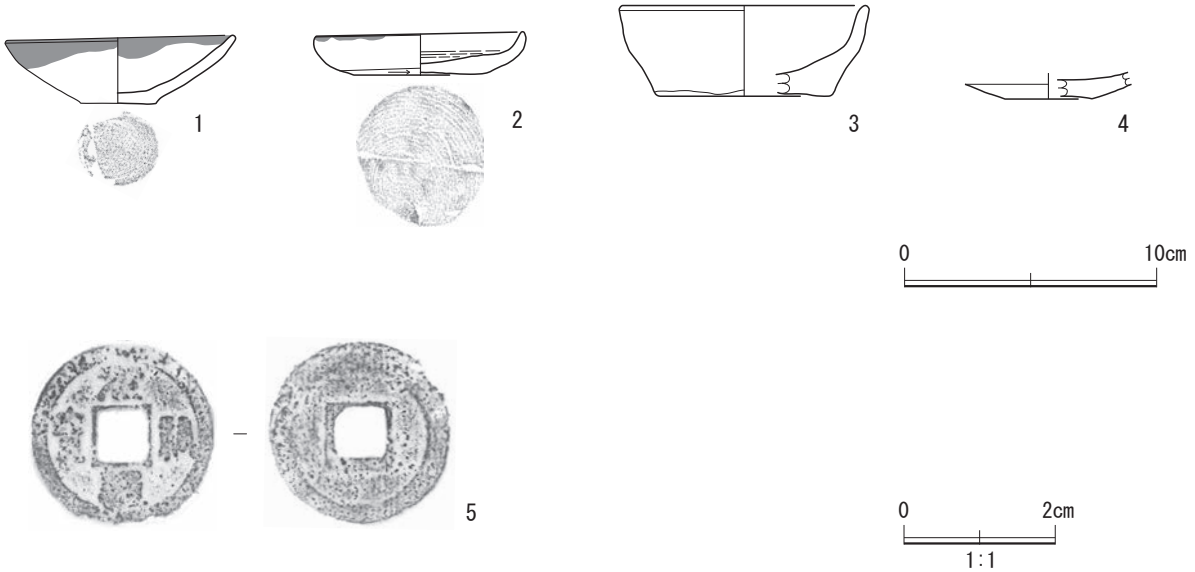
所見　大半が壊されているため断定できないが，第６・11号方形竪穴遺構と主軸方向がほぼ同一であることや，床面がほぼ平坦で硬化していないことなどから，方形竪穴遺構の可能性が高い。時期は，江戸期に比定される墓壙に掘り込まれていることや方形竪穴遺構の可能性が高いことから中世と推測される。



第58図　第12号方形竪穴遺構実測図

（3）遺構外出土遺物

今回の調査で，表土層や遺構確認面などから，遺構に伴わない中世の遺物が出土している。ここでは，それらの遺物をまとめて掲載する。（第59図，表25）



第59図　中世遺構外出土遺物実測図

表25　中世遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.0	2.7	3.0	石英，長石，白雲母	にぶい黄橙色	内外面ロクロナデ，口縁部スス付着，底部回転糸切り後ナデ	Z'7グリッド	95% 灯明皿 PL25
2	土師質土器	皿	8.1	1.7	5.2	石英，長石，金雲母	にぶい黄橙色	内外面ロクロナデ，口縁部スス付着，底部回転糸切り後ナデ	Z'7h2グリッド	95% 灯明皿 PL25
3	土師質土器	皿	〔9.8〕	3.6	〔6.7〕	長石，白雲母，赤色粒子，白色粒子	橙色	内外面指ナデ	F8b9グリッド	15% PL25
4	青磁	皿	－	(1.0)	〔3.5〕	赤色粒子	灰オリーブ色	灰緑色の釉	Z'7グリッド	5% PL25

番号	銭種	径(cm)	孔(cm)	重量(g)	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
5	元祐通寶	8.0	2.7	0.35	1086	銅	北宋	Z'7～A7グリッド	PL25

5　近世

（1）墓壙

第３号墓壙（第60・61・62図，表26）

位置　第１調査区Z'6d9グリッド，標高35.10m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.81m，短軸0.79mの方形で，深さは0.80mである。

重複関係　単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗褐色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物少量
2　10YR4/4　褐色：ローム粒子少量，粘性弱い
3　10YR3/2　黒褐色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量
4　10YR4/4　褐色：ロームブロック中量，ローム粒子少量

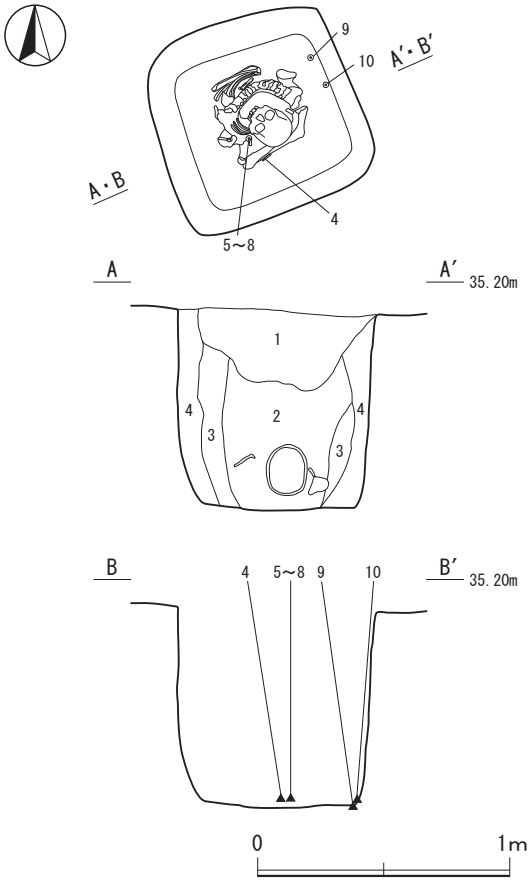
性別と年齢　女性　30歳代

埋葬の状況　37点の釘が出土したことや人骨の出土状況からみて方形木棺墓と考えられる。

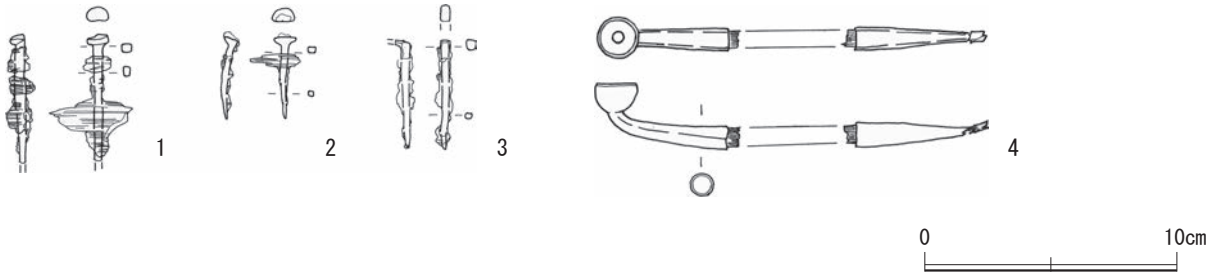
遺骸の特徴　人骨の遺存状態は良好で座葬の状態で埋葬されていたことが認められる。四肢骨などが出土している。

遺物出土状況　金属製品38点（釘37，煙管１），銭貨８点（寛永通寶），漆紙１点が出土した。釘は木棺に使用されたと考えられ木質が遺存している。銭貨は六道銭，煙管は副葬品と考えられる。

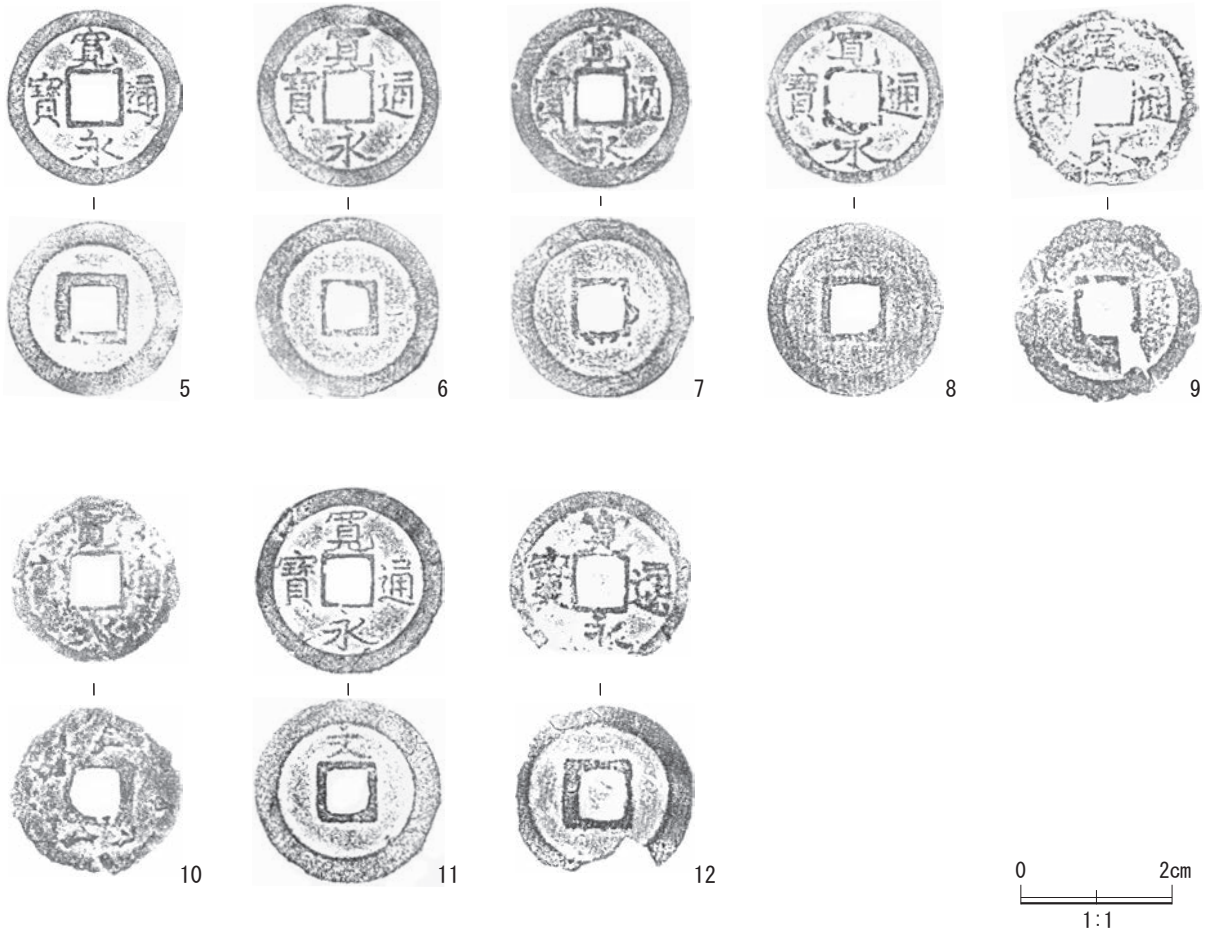
所見　江戸時代後期の方形木棺墓である。骨盤の位置から北西方向を向いて埋葬されていたと推測される。



第60図　第３号墓壙実測図



第61図　第３号墓壙出土遺物実測図（１）



第62図　第３号墓壙出土遺物実測図（２）

表26　第３号墓壙出土遺物観察表

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
1	鉄製品 (釘)	5.0	0.85	0.6	3.1	鉄	木質遺存	覆土中	PL25
2	鉄製品 (釘)	3.4	0.9	0.6	0.9	鉄	木質遺存	覆土中	PL25
3	鉄製品 (釘)	4.3	0.4	0.65	1.6	鉄	木質遺存	覆土中	PL25
4	銅製品 (煙管)	(11.2)	火皿径 1.4	1.0	10.4	銅	雁首・吸い口	覆土最下層	PL25

番号	銭種	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
5	寛永通寶	1.9	0.6	3.0	銅	新寛永	覆土最下層	PL26
6	寛永通寶	2.0	0.61	3.7	銅	新寛永	覆土最下層	PL26
7	寛永通寶	2.0	0.62	2.8	銅	古寛永	覆土最下層	PL26
8	寛永通寶	1.9	0.66	2.3	銅	新寛永	覆土最下層	PL26
9	寛永通寶	2.0	0.65	1.9	銅	古寛永	底面	PL26
10	寛永通寶	1.8	0.6	1.7	銅	新寛永	底面	PL26
11	寛永通寶	2.1	0.58	3.2	銅	新寛永	覆土中	PL26
12	寛永通寶	2.0	0.65	2.0	銅	新寛永	覆土中	PL26

第４号墓壙（第63・64・65図，表27）

位置　第１調査区A7d2グリッド，標高34.90m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.65m，短軸0.63mの方形で，深さは0.71mである。

重複関係　単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物少量

2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量，粘性弱い

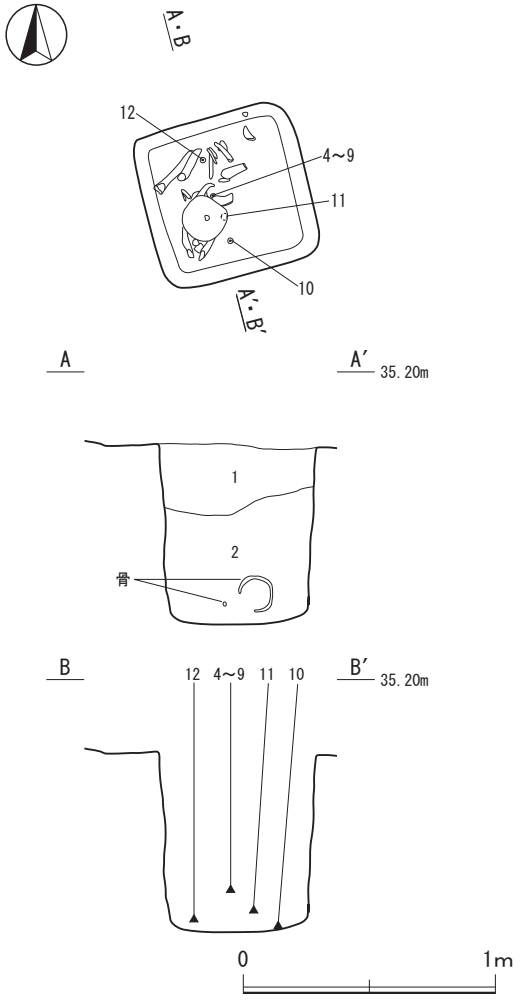
性別と年齢　女性　40歳代

埋葬の状況　21点の釘が出土したことや人骨の出土状況からみて方形木棺墓と考えられる。

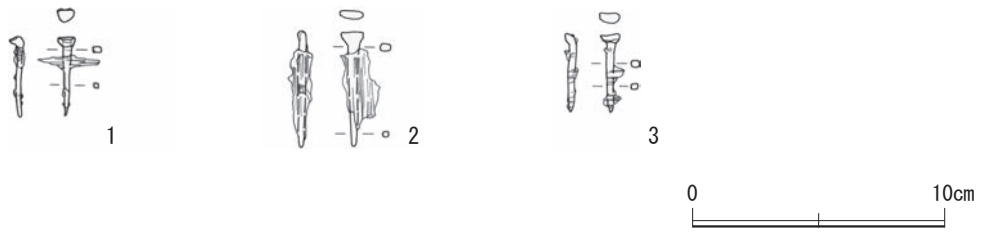
遺骸の特徴　人骨の遺存状態は良好で座葬の状態で埋葬されていたことが認められる。

遺物出土状況　土師器片１点(甕類)，炻器片１点(甕類)，土師質土器片１点（皿），金属製品21点（釘），銭貨９点（寛永通寶）が出土した。釘は木棺に使用されたと考えられ木質が遺存している。銭貨は六道銭と考えられる。

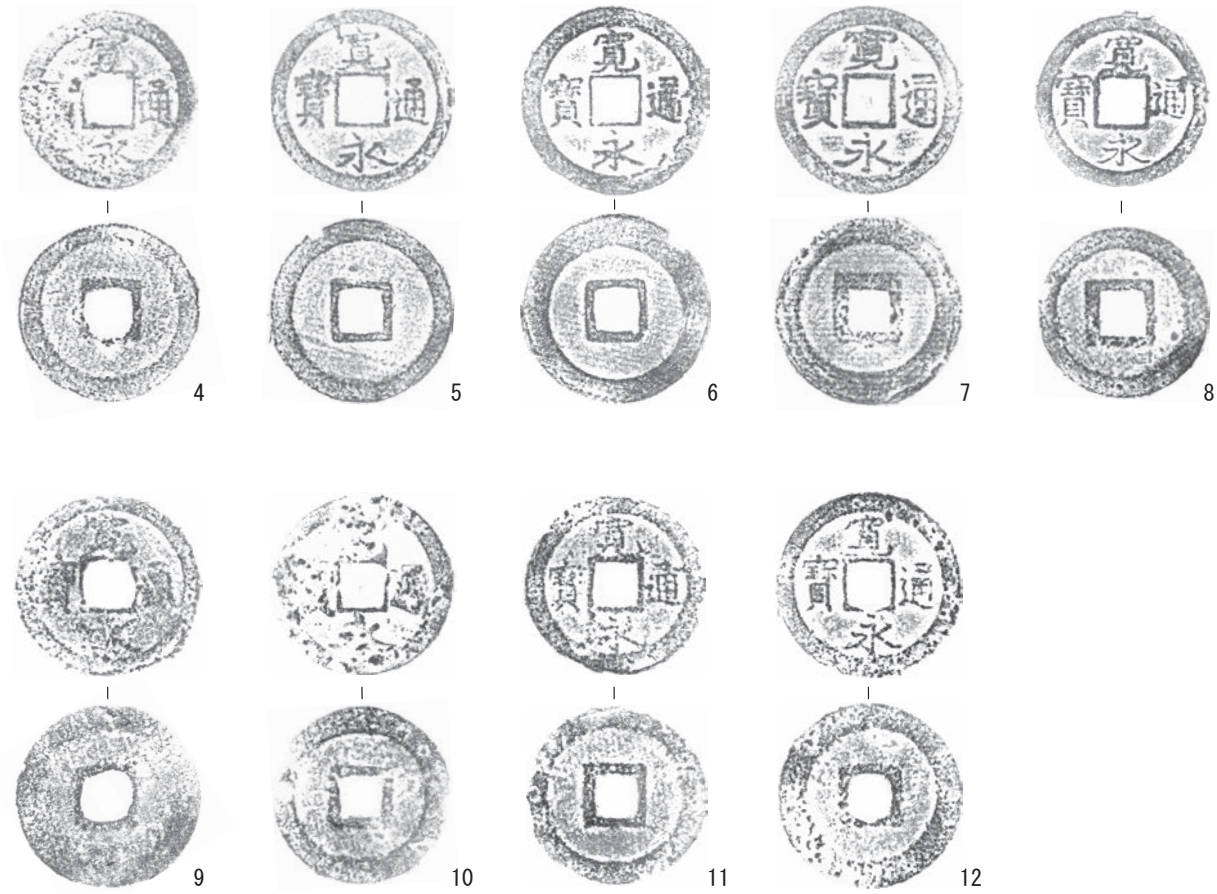
所見　江戸時代後期の方形木棺墓である。頭蓋骨が下を向いて落ち込んでおり埋葬方位は明確ではない。しかし第３号墓壙の主軸と同方向であるため，本来北西方向を向いて埋葬されていたと推測される。なお，寛永通寶が埋土中から９点確認されている。遺骸は単体であり，また埋土中に混入するほど墓壙が繰り返し掘り起こされた形跡もないことから，基本的には六道銭として使用したのであれば９枚を数える銭貨の出土は疑問が残る。



第63図　第４号墓壙実測図



第64図　第４号墓壙出土遺物実測図（１）



0　2cm
1:1

第65図　第４号墓壙出土遺物実測図（２）

表27　第４号墓壙出土遺物観察表

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
1	鉄製品 (釘)	3.1	0.65	0.47	0.7	鉄	木質遺存	覆土中	PL26
2	鉄製品 (釘)	4.5	0.9	0.35	2.7	鉄	木質遺存	覆土中	PL26
3	鉄製品 (釘)	3.1	0.8	0.4	0.6	鉄	木質遺存	覆土中	PL26

番号	銭種	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
4	寛永通寶	2.0	0.6	2.7	銅	古寛永	2層	PL26
5	寛永通寶	2.0	0.6	3.3	銅	古寛永	2層	PL26
6	寛永通寶	2.1	0.55	3.7	銅	新寛永	2層	PL26
7	寛永通寶	2.1	0.52	3.5	銅	新寛永	2層	PL26
8	寛永通寶	1.9	0.55	2.4	銅	新寛永	2層	PL26
9	寛永通寶	2.0	0.66	2.5	銅	古寛永	2層	PL26
10	寛永通寶	2.0	0.54	3.0	銅	新寛永	底面	PL26
11	寛永通寶	1.9	0.58	2.4	銅	古寛永	2層	PL26
12	寛永通寶	2.1	0.5	2.5	銅	新寛永	覆土中	PL26

第５号墓壙（第66・67図，表28）

位置　第１調査区Z'7e1グリッド，標高35.08m地点に位置する。

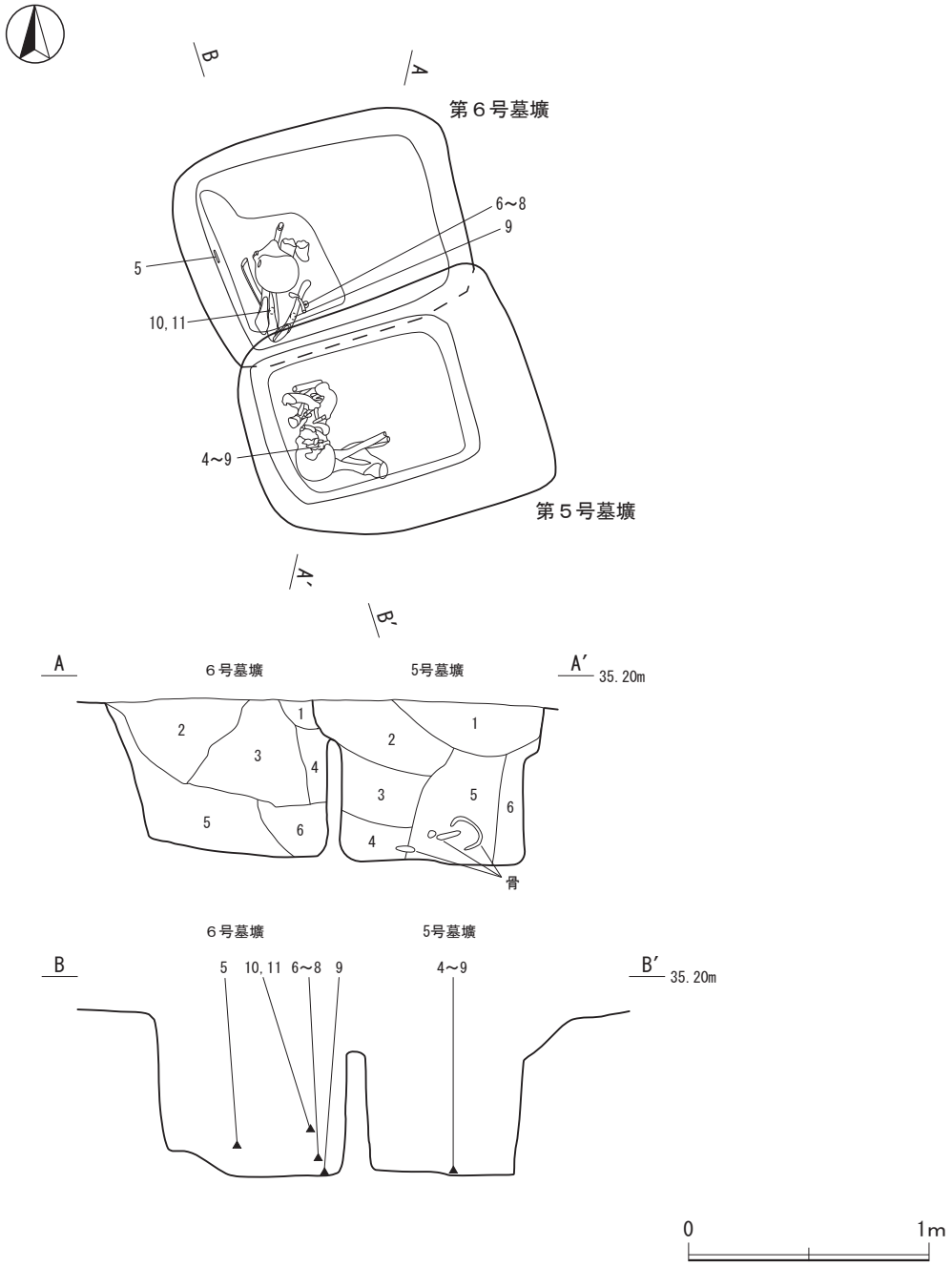
規模と形状　長径1.20m，短径0.99mの長方形で，深さは0.66mである。

重複関係　北部で第６号墓壙を，南西コーナー部で第９号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量
2　10YR4/6　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，締まり弱い
4　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック微量，締まり弱い
5　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，焼土ブロック少量，炭化物少量
6　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物少量



第66図　第５・６号墓壙実測図

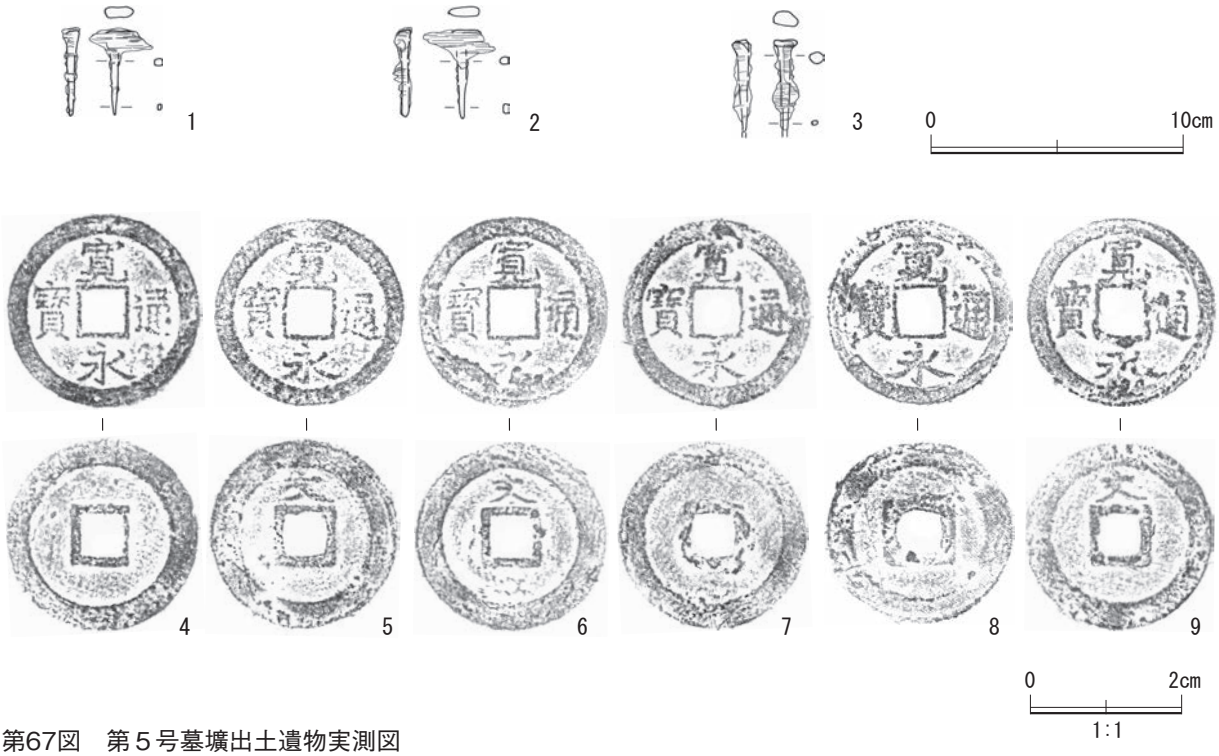
性別と年齢　男性　40歳代

埋葬の状況　39点の釘が出土したことや人骨の出土状況からみて方形木棺墓と考えられる。

遺骸の特徴　人骨の遺存状態は良好で，座葬の状態で埋葬されていたことが認められる。

遺物出土状況　金属製品39点（釘），銭貨６点（寛永通寶），漆紙１点が出土した。釘は木棺に使用されていたと考えられ，木質が遺存している。銭貨は六道銭と考えられる。

所見　江戸時代後期の方形木棺墓である。第６号墓壙と並ぶように付設されており規模もほぼ同一であることから，双方が親子関係あるいは婚姻関係にあったことが予想され，また第６号墓壙の被葬者が埋葬されて間もなく本跡の被葬者が葬送されたと推測できる。



第67図　第５号墓壙出土遺物実測図

表28　第５号墓壙出土遺物観察表

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
1	鉄製品(釘)	3.3	1.05	0.44	1.4	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
2	鉄製品(釘)	3.38	1.2	0.37	1.4	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
3	鉄製品(釘)	(3.57)	0.9	0.64	(1.9)	鉄	木質遺存	覆土中	PL27

番号	銭種	径(cm)	孔(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
4	寛永通寶	2.15	0.56	3.4	銅	新寛永	床面	PL27
5	寛永通寶	2.1	0.55	3.6	銅	新寛永	床面	PL27
6	寛永通寶	2.1	0.57	3.5	銅	新寛永	床面	PL27
7	寛永通寶	2.1	0.53	3.5	銅	新寛永	床面	PL27
8	寛永通寶	2.05	0.54	4.1	銅	新寛永	床面	PL27
9	寛永通寶	2.1	0.54	4.2	銅	新寛永	床面	PL27

第６号墓壙（第66・68図，表29）

位置　第１調査区Z'7e1グリッド，標高35.08m地点に位置する。

規模と形状　長軸1.17m，短軸0.92mの長方形で，深さは0.64mである。

重複関係　南部を第５号墓壙に掘り込まれている。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，やや締まりあり
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量
4　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，粘性弱い
5　10YR5/3　にぶい黄褐色：ロームブロック多量，ローム粒子多量
6　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物中量

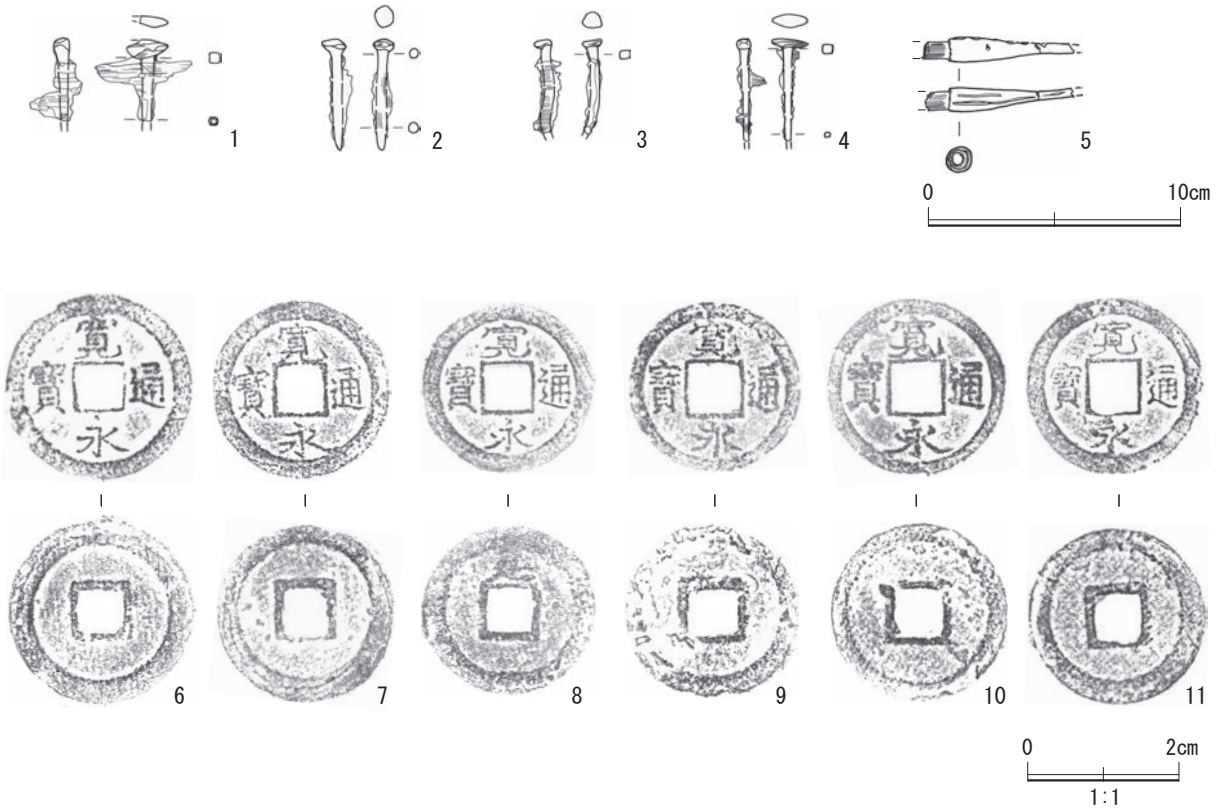
性別と年齢　女性　20歳代

埋葬の状況　65点の釘が出土したことや人骨の出土状況からみて方形木棺墓と考えられる。

遺骸の特徴　人骨の遺存状態は良好で座葬の状態で埋葬されていたことが認められる。

遺物出土状況　土師器片１点（坏類），金属製品66点（釘65，煙管１），銭貨６点（寛永通寶）が出土した。釘は木質が遺存しており，木棺に使用されたと考えられる。銭貨は六道銭，煙管は副葬品として考えられる。

所見　江戸時代後期の方形木棺墓である。第５号墓壙と並ぶように附設されており規模もほぼ同一であることから、第５号墓壙の被葬者とは親族関係にあったと推測される。



第68図　第６号墓壙出土遺物実測図

表29　第６号墓壙出土遺物観察表

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
1	鉄製品（釘）	(3.27)	(1.14)	0.47	(2.4)	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
2	鉄製品（釘）	4.3	0.87	0.7	1.8	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
3	鉄製品（釘）	(3.64)	0.78	0.57	(1.3)	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
4	鉄製品（釘）	(4.0)	1.4	0.5	(1.2)	鉄	木質遺存	覆土中	PL27
5	銅製品（煙管）	(6.0)	－	1.0	2.9	銅	吸い口	5層	PL28

番号	銭種	径 (cm)	孔 (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
6	寛永通寶	2.1	0.6	3.8	銅	新寛永	下層	PL27
7	寛永通寶	1.95	0.64	2.8	銅	古寛永	下層	PL27
8	寛永通寶	1.8	0.58	2.7	銅	新寛永	下層	PL27
9	寛永通寶	1.85	0.65	2.0	銅	新寛永	底面	PL27
10	寛永通寶	1.9	0.64	2.6	銅	新寛永	下層	PL27
11	寛永通寶	1.9	0.64	3.0	銅	新寛永	下層	PL27

第７号墓壙（第69図）

位置　第１調査区Z'7a4グリッド，標高35.01m地点に位置する。

規模と形状　長径軸.20m，短軸0.78mの長方形で，深さは0.16mである。

重複関係　南部で第12号方形竪穴遺構を，南東コーナー部で第335号土坑を掘り込んでいる。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化物少量，灰白色シルトブロック少量

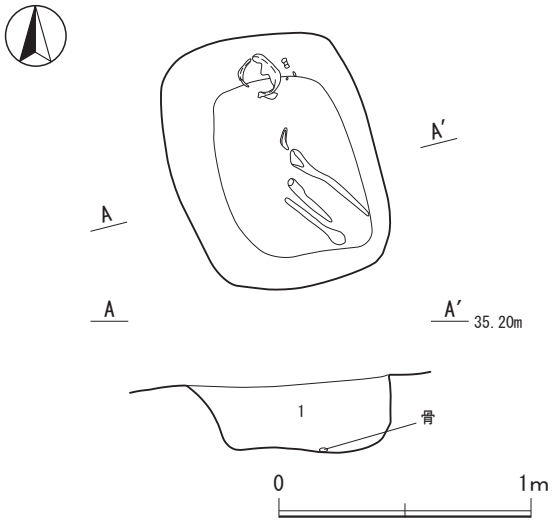
性別と年齢　遺存状態が悪く，不明である。

埋葬の状況　人骨の出土状況からみて直葬墓と考えられる。

遺骸の特徴　人骨の遺存状態は悪く埋葬状態は判然としなかった。

遺物出土状況　出土していない。

所見　直葬墓である。方形木棺墓である第３～６号墓壙とは明らかに形状は異なり副葬品もなく，時期は不明である。時期差があると仮定すれば本跡は方形木棺を使用する以前の埋葬形態と捉えられる。



第69図　第７号墓壙実測図

第８号墓壙（第70図，表30）

位置　第１調査区Y'6f0グリッド，標高35.10m地点に位置する。

規模と形状　長軸1.18m，短軸0.87mの長方形で，深さは0.35mである。

重複関係　単独で位置する。

土層　ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量，粘性弱い

2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子多量，焼土ブロック少量，粘性弱い

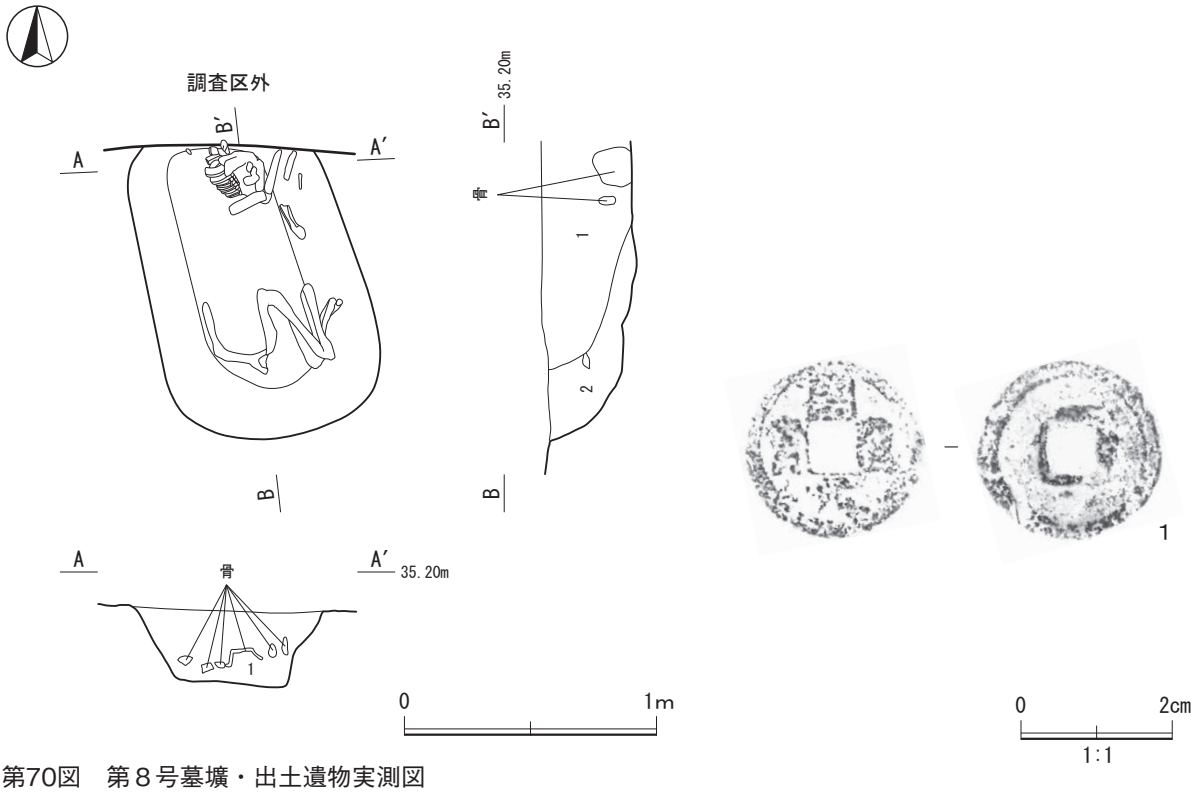
雌雄と年齢　不明である。

埋葬の状況　頭部を北に据え，後脚を曲げた状態で確認された。

遺骸の特徴　遺存状態は悪く埋葬状態は判然としなかった。

遺物出土状況　土師器片２点（坏類１，甕類１），銭貨１点（開元通寶），鉄塊１点が出土した。

所見　歯骨から農耕馬を埋葬したものと推測される。出土した開元通寶は墓銭としては江戸時代に入っても使用された貨幣であるため，本跡の時期を特定するには至らなかった。しかし，江戸期になると農耕馬や猟犬に対して葬送習俗として六道銭を納める事例が多いため，近世墓として記載した。



第70図　第８号墓壙・出土遺物実測図

表30　第８号墓壙出土遺物観察表

番号	銭種	径(cm)	孔(cm)	重量(g)	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1	開元通寶	2.34	0.7	3.0	621	銅	唐	1層	PL28

（2）土坑

第316号土坑（第71図，表31）

位置　第１調査区Z'6e9グリッド，標高35.07m地点に位置する。

規模と形状　長軸1.53m，短軸0.71mの楕円形を呈し，深さ43cmほど掘り込まれる。底面はやや起伏があり，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

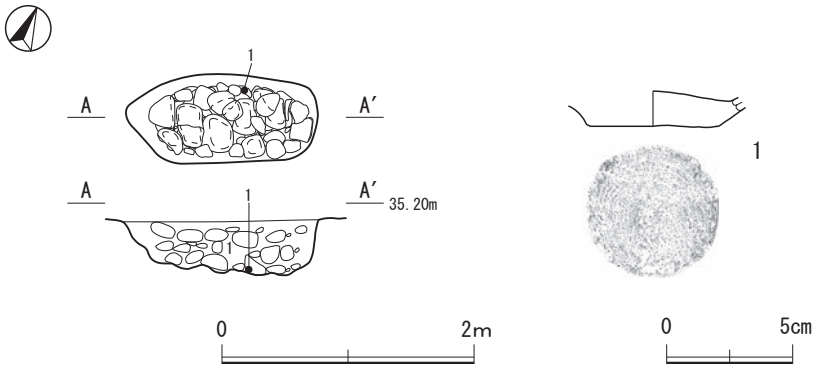
土層　人為堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿）が出土した。

所見　本跡は，楕円形を呈する土坑に大小の河原石を敷き並べ，あるいは積み重ねられた配石遺構である。出土した河原石は一部被熱している事が確認されたが，性格等は不明である。時期は底面から出土した遺物から判断して近世と推測される。



第71図　第316号土坑実測図・出土遺物実測図

表31　第316号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	－	(1.4)	5.0	石英，長石，金雲母，小礫	にぶい橙色	ロクロ成形，底部回転糸切り	底面	40% PL28

第356号土坑（第72図）

位置　第１調査区Y'6g0グリッド，標高35.10m地点に位置する。

規模と形状　長軸1.14m，短軸0.75mの楕円形を呈し，深さ34cmほど掘り込まれる。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　第357号土坑に掘り込まれ，第109号住居跡を掘り込んでいる。

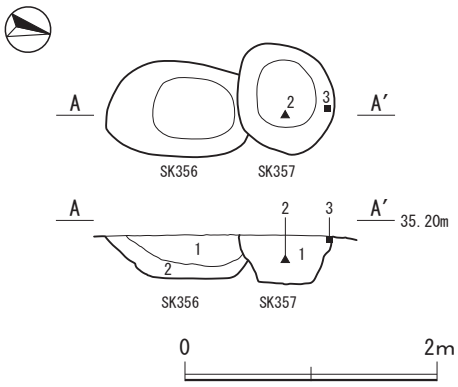
土層　人為堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，焼土ブロック微量，粘性あり

2　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，粘性あり

遺物出土状況　土師器片８点（坏類４，甕類４）が出土した。いずれも埋土に混入していたと考えられる。



第72図　第356・357号土坑実測図

所見　第357号土坑とは覆土が酷似しており，両者間に大きな時期差はないと推測される。時期は，中世末～近世と考えられる。

第357号土坑（第73図，表32）

位置　第１調査区Y'6g0グリッド，標高35.10m地点に位置する。

規模と形状　長軸0.82m，短軸0.77mの円形を呈し，深さ39cmほど掘り込まれる。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

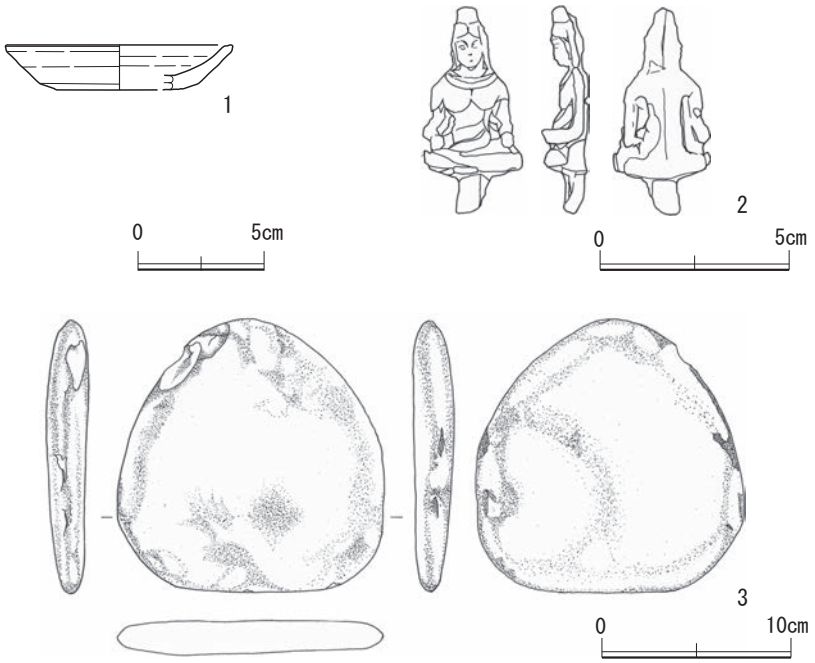
重複関係　第356号土坑を掘り込んでいる。

土層　人為堆積と考えられる。

土層解説

1　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，粘性あり

遺物出土状況　土師器片12点（坏類９，甕類３），土師質土器片１点（皿），金属製品１点（小仏像），礫１点が出土した。いずれも埋土中から出土しており，混入遺物である。２の小仏像は土坑中央部の覆土中より横位で出土している。底面の突起は台座に嵌め込むためのものと推測される。また背面は比較的扁平であり，光背が付けられていた可能性がある。３の礫は側面に擦痕がある円礫で，土坑上面の縁より出土している。



第73図　第357号土坑出土遺物実測図

表32　第357号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	〔8.8〕	1.8	〔5.0〕	石英,長石,白色粒子	にぶい橙	ロクロ成形，底部回転糸切り	1層	15% PL28

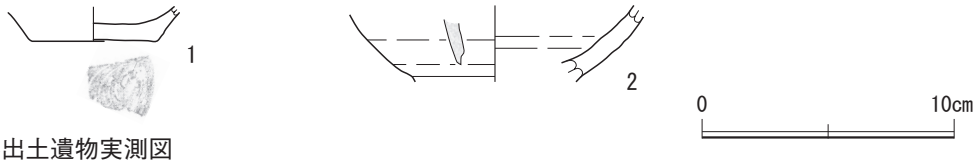
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
2	小仏像	5.4	2.6	1.2	31.0	銅	坐像，底面に突起が付く	1層	PL28

番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	特徴	出土位置	備考
3	礫	14.3	14.1	2.1	46.0	砂岩	隅丸三角形の扁平な石，側面に擦痕	1層	

所見　覆土中から出土した仏坐像は荒肌を呈し，また手先が欠損しており印相は不明である。制作年代は平安時代と推測される。土師質土器小皿は12世紀代に比定されるもので，仏坐像とともに平安時代の所産である。いずれも本跡を埋め戻す過程で埋土に混入したものと推測される。時期は近世に比定される第356号土坑を掘り込んでいることから，江戸時代以降と考えられる。

（3）遺構外出土遺物

今回の調査で，表土層や遺構確認面などから，遺構に伴わない近世の遺物が出土している。ここでは，それらの遺物を掲載する。



第74図　近世遺構外出土遺物実測図

表33　近世遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	－	(1.4)	〔5.0〕	長石，赤色粒子，白色粒子	にぶい黄橙色	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	Z'7グリッド	5% PL28
4	青磁	深皿ヵ	－	(3.1)	－	白色粒子	灰白色	暗灰黄色の釉	Z'7d1グリッド	5% PL28

6　その他の遺構と遺物

（1）溝跡

第６号溝跡（第75図）

位置　第３調査区M1e8グリッド，標高34.95m地点に位置する。

規模と形状　北端と南端は調査区外へと延びる。上幅0.83m，下幅0.40m，全長（3.33）mで，確認面からの深さは34cmである。断面は逆台形状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

重複関係　単独で位置する。

方向　N－５°－Wの方向に延びる。

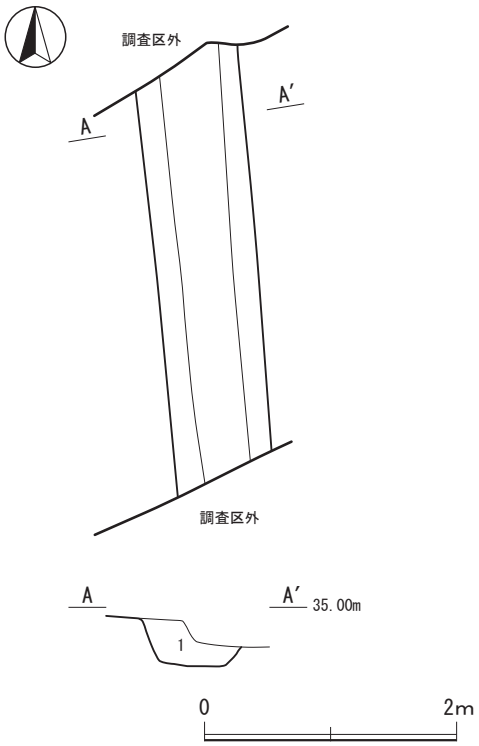
土層　単一層で，堆積状況は不明である。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性弱い

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡周辺に遺構がないことや調査幅が約３mと狭いこと等から時期や性格と特定するには至らなかった。



第75図　第６号溝跡実測図

（２）ピット列

第２号ピット列（第76図）

位置　第３調査区R0e7 ～ R0h6グリッド，標高34.40m地点に位置する。

規模　長軸7.25mで，軸線上に４ヶ所のピットが検出された。Ｐ１：54×50cm，深さ52cm，Ｐ２：64×45cm，深さ47cm，Ｐ３：78×64cm，深さ73cm，Ｐ４：42×45cm，深さ55cmである。柱間寸法は2.10 ～ 2.50mである。

重複関係　第382号土坑・第90・109号ピットに掘り込まれている。

方向　N－83°－Eの方向に延びる。

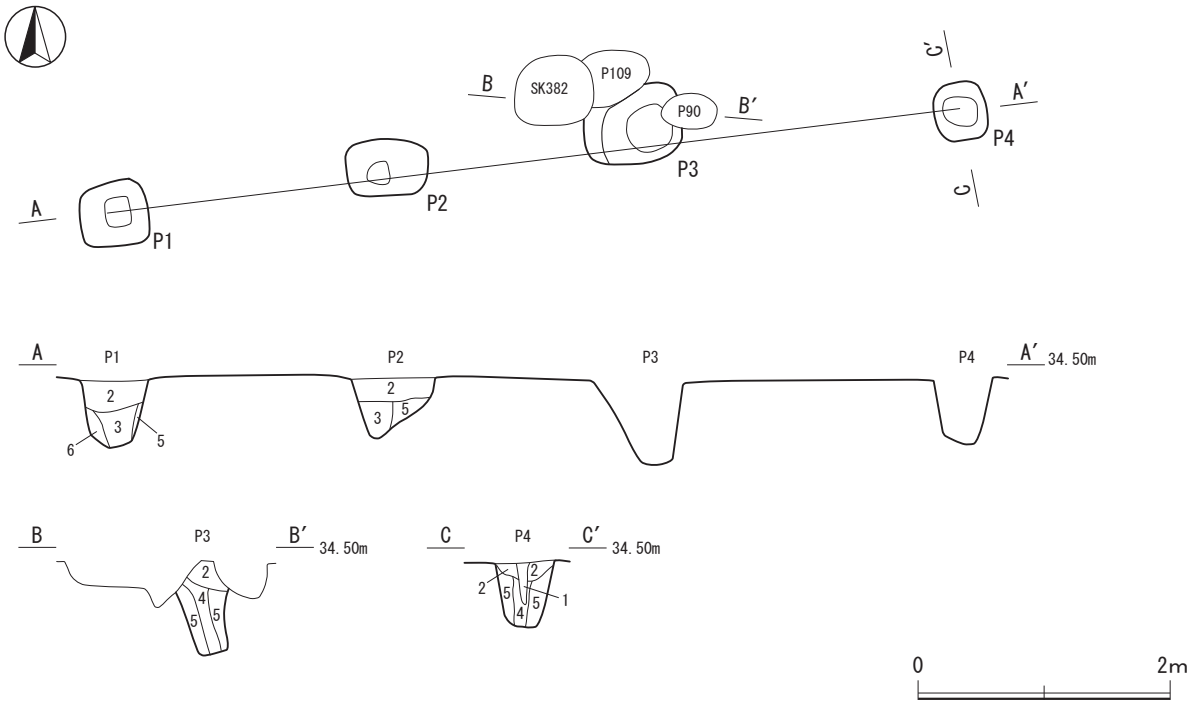
土層　人為堆積と考えられる。第４層は柱の抜き取り痕である。

土層解説

1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性強い
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，粘性強い
3　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，締まり弱い
4　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，焼土粒子微量
5　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量
6　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，締まり弱い

遺物出土状況　出土していない。

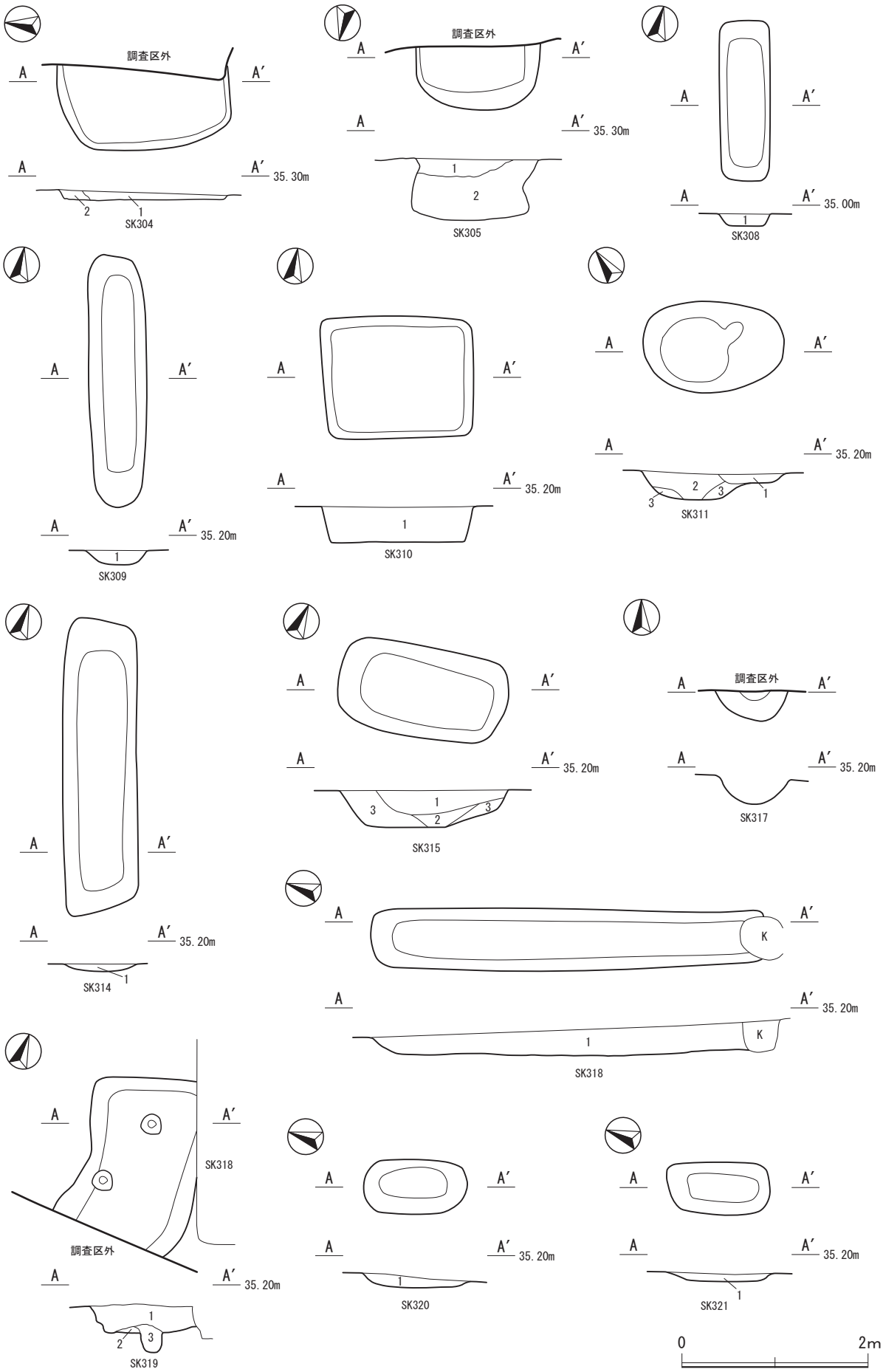
所見　いずれの柱穴も方形を呈していることや掘り込みの深さなどがほぼ同一であること，柱穴がほぼ一直線に並んでいることなどからピット列と判断したが，調査範囲が狭く本跡に伴う遺物もないため時期や性格等は不明である。



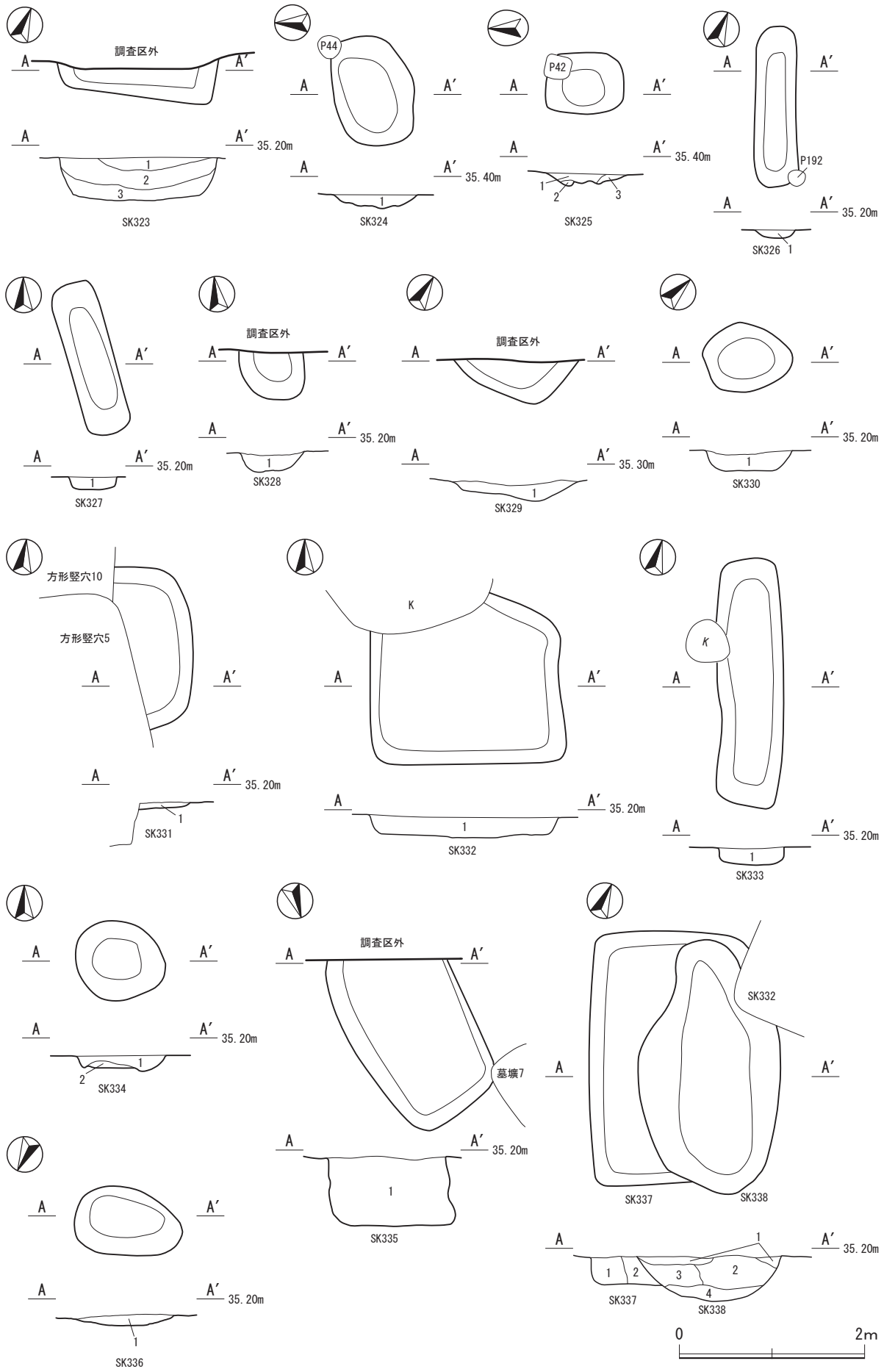
第76図　第２号ピット列実測図

（３）土坑

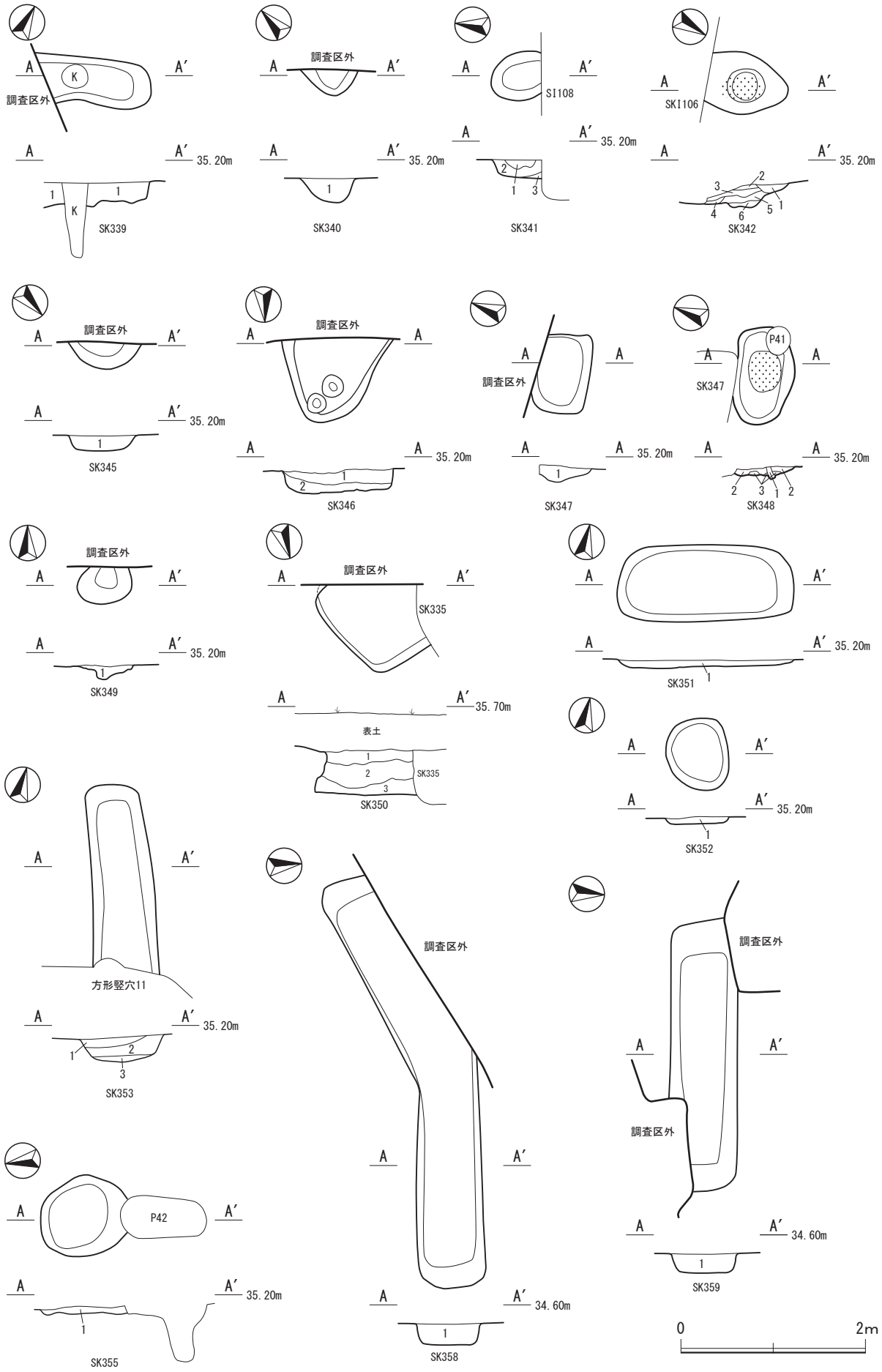
本調査では，総数67基の土坑が検出されている。出土遺物などから年代が特定できた７基の土坑については前述したが，ここでは，時期及び性格が不明なその他の60基の土坑について実測図と一覧表を示し，併せて土層解説を記載する。



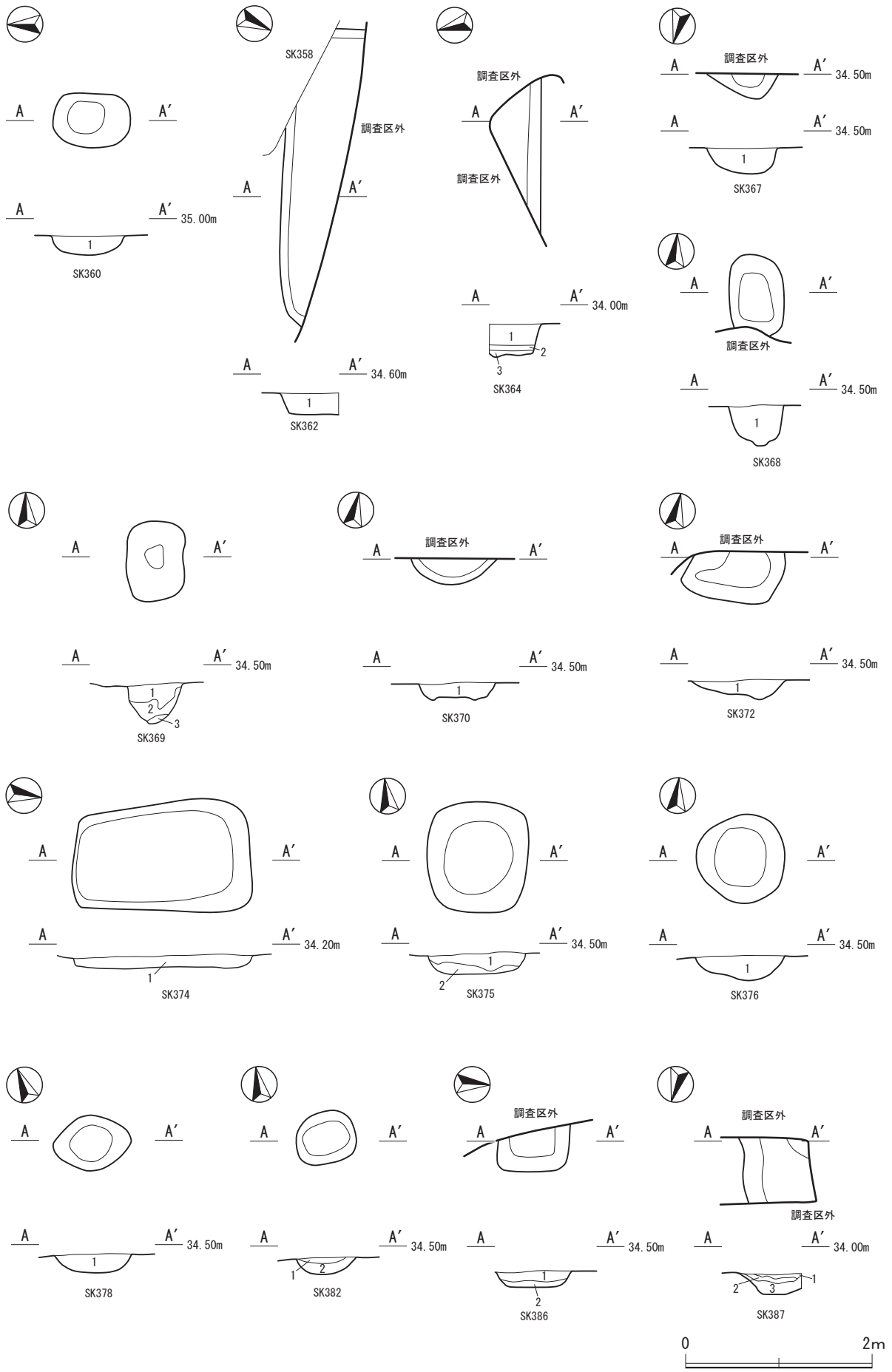
第77図　その他の土坑実測図（1）



第78図　その他の土坑実測図（２）



第79図　その他の土坑実測図（3）



第80図　その他の土坑実測図（４）

第304号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量
2　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子多量

第305号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，締まり弱い
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量，締まり弱い

第308号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性強い

第309号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性強い

第310号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子多量，炭化物少量

第311号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，締まり弱い
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，締まり弱い

第314号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，粘性強い

第315号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量

第318号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，粘性強い

第319号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，粘性強い
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量
3　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，粘性強い

第320号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック微量，粘性強い

第321号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性強い

第323号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子少量
3　10YR3/1　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量

第324号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第325号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量
2　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，焼土ブロック少量
3　10YR5/6　黄 褐 色：ローム粒子多量

第326号土坑土層解説
1　110YR4/4 褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性強い

第327号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック少量，ローム粒子微量，粘性強い

第328号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック多量，ローム粒子少量

第329号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

第330号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，粘性強い

第331号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，灰白色シルトブロック少量

第332号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量

第333号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子少量，粘性強い

第334号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量
2　10YR6/6　明黄褐色：ローム粒子微量，粘性強い

第335号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，灰白色シルトブロック微量

第336号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，粘性強い

第337号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物中量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量

第338号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量，粘性強い
2　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子少量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子少量，焼土ブロック少量，炭化物少量
4　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック多量，焼土ブロック少量

第339号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子微量，粘性強い

第340号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第341号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性強い
3　10YR6/6　明黄褐色：ローム粒子微量，粘性強い

第342号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ローム粒子中量，砂質粘土ブロック中量
2　5YR4/2　灰 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，砂質粘土ブロック中量
3　10YR3/4　暗 褐 色：焼土ブロック中量，炭化物少量
4　10YR5/6　黄 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量
5　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量
6　10YR6/6　明黄褐色：ローム粒子多量，焼土粒子微量

第345号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量

第346号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子多量

第347号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第348号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：焼土粒子少量，炭化物微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　10YR4/6　赤 褐 色：焼土粒子多量

第349号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子中量

第350号土坑土層解説
1　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量
2　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子中量
3　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子多量

第351号土坑土層解説
1　10YR2/3　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量

第352号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物微量

第353号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量
2　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，炭化物微量
3　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量

第355号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量，締まり弱い

第358号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第359号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第360号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，粘性強い

第362号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子微量

第364号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子少量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック中量，焼土ブロック少量
3　10YR6/6　明黄褐色：ロームブロック多量，締まり強い

第367号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子微量

第368号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量

第369号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量
2　10YR6/6　明黄褐色：ロームブロック少量，ローム粒子多量，粘性強い
3　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子中量，粘性強い

第370号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子少量

第372号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量

第374号土坑土層解説
1　10YR2/2　黒 褐 色：ロームブロック微量，ローム粒子微量，粘性強い

第375号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック少量，ローム粒子微量
2　10YR3/2　黒 褐 色：ロームブロック中量，ローム粒子微量

第376号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック中量，浅黄色パミス少量

第378号土坑土層解説
1　10YR3/3　暗 褐 色：ロームブロック少量，浅黄色パミス少量

第382号土坑土層解説
1　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子微量
2　10YR3/3　暗 褐 色：ローム粒子微量

第386号土坑土層解説
1　10YR3/2　黒 褐 色：ローム粒子微量，粘性強い
2　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック多量，ローム粒子中量

第387号土坑土層解説
1　10YR3/4　暗 褐 色：ローム粒子微量，酸化鉄微量
2　10YR3/4　暗 褐 色：ロームブロック多量，酸化鉄中量
3　10YR4/4　褐　　色：ロームブロック中量，ローム粒子中量，酸化鉄多量

表34　その他の土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)			底面	壁面	覆土	主な出土遺物
			長軸	短軸	深さ				
304	1区(B7b2)	方形	1.85	0.88	0.08	平坦	外傾	人為	無し
305	1区(A7b4)	方形	1.28	0.64	0.64	皿状	外傾	人為	土師器片、須恵器片、緑釉陶器片
308	1区(Z'7j4)	長方形	1.71	0.54	0.12	平坦	外傾	人為	無し
309	1区(Z'6h7)	長方形	2.68	0.61	0.14	平坦	外傾	人為	無し
310	1区(A7a4)	長方形	1.61	1.30	0.37	平坦	外傾	人為	縄文土器片、土師器片、石製品
311	1区(Z'6i7)	楕円形	1.50	0.97	0.26	皿状	外傾	人為	土師器片、須恵器片
314	1区(Z'7e3)	長方形	3.18	0.79	0.07	皿状	外傾	人為	石
315	1区(Z'7b2)	長方形	1.82	0.96	0.39	皿状	外傾	人為	土師器片、石
317	1区(Z'6i6)	円形ヵ	0.76	0.29	0.28	皿状	外傾	人為	無し
318	1区(Z'7f4)	長方形	4.16	0.64	0.28	平坦	外傾	人為	無し
319	1区(Z'7f5)	不定形	1.92	0.78	0.51	凹凸	外傾	人為	弥生土器片、土師器片、須恵器片
320	1区(A7c1)	長方形	1.11	0.58	0.12	皿状	外傾	人為	無し
321	1区(A6b9)	長方形	1.06	0.53	0.06	平坦	外傾	人為	須恵器片
323	1区(Z'6d8)	長方形ヵ	1.68	0.42	0.44	平坦	外傾	人為	土師器片
324	1区(Y'7e1)	楕円形	1.18	0.88	0.12	凹凸	外傾	人為	無し
325	1区(Y'6e0)	方形	0.83	0.64	0.12	凹凸	外傾	人為	無し
326	1区(A6d9)	楕円形	1.70	0.34	0.06	皿状	外傾	人為	無し
327	1区(A6c7)	長方形	1.66	0.48	0.11	平坦	垂直	人為	無し
328	1区(Z'6j7)	楕円形ヵ	0.69	0.43	0.16	皿状	外傾	人為	無し
329	1区(Z'6f7)	方形ヵ	0.91	0.46	0.16	皿状	外傾	人為	無し
330	1区(Z'6e0)	円形	0.94	0.74	0.18	平坦	外傾	人為	無し
331	1区(Z'7c3)	方形ヵ	1.76	0.77	0.06	平坦	外傾	人為	無し
332	1区(Z'6b9)	方形	2.09	1.85	0.21	平坦	外傾	人為	縄文土器片、土師器片
333	1区(Z'7d2)	長方形	2.68	0.71	0.07	平坦	垂直	人為	土師器片、須恵器片
334	2区(F9c1)	円形	0.96	0.86	0.15	凸凹	外傾	自然	土師器片
335	1区(Z'7a4)	長方形ヵ	2.15	1.33	0.74	平坦	垂直	人為	土師器片、須恵器片、灰釉陶器片
336	1区(Z'7g2)	楕円形	1.16	0.73	0.05	皿状	外傾	自然	土師器片、須恵器片
337	1区(Z'6a0)	長方形	2.74	0.52	0.28	平坦	垂直	人為	無し
338	1区(Z'6b0)	不定形	2.74	1.54	0.46	皿状	外傾	人為	土師器片、須恵器片
339	2区(G9d0)	楕円形	1.15	0.52	0.18	平坦	垂直	人為	土師器片、須恵器片
340	2区(F9h4)	方形ヵ	0.37	0.27	0.25	平坦	外傾	人為	須恵器片
341	2区(F8b9)	楕円形	0.55	0.51	0.19	皿状	外傾	自然	土師器片
342	1区(Z'6b0)	楕円形	0.86	0.65	0.22	皿状	外傾	人為	無し
345	2区(F9d2)	円形ヵ	0.76	0.26	0.13	皿状	外傾	自然	無し
346	1区(Z'7h5)	楕円形	1.19	0.89	0.22	凹凸	垂直	人為	無し
347	1区(Y'6h9)	長方形	0.90	0.58	0.16	皿状	外傾	人為	無し
348	1区(Y'6h9)	不整形	1.07	0.64	0.14	凹凸	外傾	人為	土師器片
349	1区(Y'6g9)	円形ヵ	0.67	0.41	0.14	凹凸	外傾	人為	無し
350	1区(Z'7b4)	方形ヵ	1.42	1.16	0.59	平坦	内傾	人為	無し

番号	位置	平面形	規模(m)			底面	壁面	覆土	主な出土遺物
			長軸	短軸	深さ				
351	1区(Y'7i1)	長方形	1.91	0.82	0.08	皿状	外傾	人為	無し
352	1区(Y'7h1)	円形	0.80	0.67	0.07	平坦	外傾	人為	無し
353	1区(Y'7i3)	長方形	2.00	0.66	0.27	皿状	外傾	人為	無し
355	1区(Y'6f0)	円形	0.89	0.85	0.07	平坦	外傾	人為	土師質土器片
358	3区(S0c8)	不整形	3.18	0.72	0.22	平坦	外傾	人為	土師器片、須恵器片、陶器片
359	3区(R0j9)	長方形	2.91	0.73	0.20	平坦	外傾	人為	土師器片、剥片
360	3区(M1h6)	楕円形	0.83	0.59	0.10	凸凹	外傾	自然	無し
362	3区(S0d8)	長方形ヵ	3.21	0.70	0.22	平坦	外傾	人為	無し
364	3区(Q1b4)	方形ヵ	1.56	0.54	0.35	平坦	外傾	人為	土師器片、須恵器片
367	3区(R0a8)	方形ヵ	0.74	0.25	0.25	皿状	外傾	人為	土師器片
368	3区(Q0j8)	方形	0.82	0.58	0.42	皿状	外傾	人為	土師器片
369	3区(Q0j8)	不整形	0.84	0.61	0.42	凸凹	外傾	自然	土師器片
370	3区(Q0j7)	方形ヵ	0.90	0.26	0.17	凸凹	外傾	自然	無し
372	3区(Q0i7)	不整形	1.04	5.04	0.18	凸凹	外傾	自然	無し
374	3区(Q0d9)	長方形	1.91	1.21	0.13	平坦	外傾	人為	無し
375	3区(R0d7)	円形	1.15	1.08	0.19	平坦	外傾	人為	土師器片、須恵器片
376	3区(R0d7)	円形	0.94	0.92	0.24	皿状	外傾	人為	土師器片
378	3区(R0e6)	楕円形	0.82	0.58	0.20	皿状	外傾	人為	無し
382	3区(R0f6)	方形	0.64	0.54	0.17	平坦	外傾	人為	無し
386	3区(R0c8)	方形ヵ	0.75	0.44	0.15	平坦	外傾	人為	無し
387	3区(S0d3)	不整形	0.69	0.72	0.20	皿状	外傾	人為	須恵器片

（4）ピット群（第81図，表35）

本調査では，総数270基のピットが検出されている。その中で，特にピットが集中している地点を３群に分けた。以下，各ピット群について記述する。

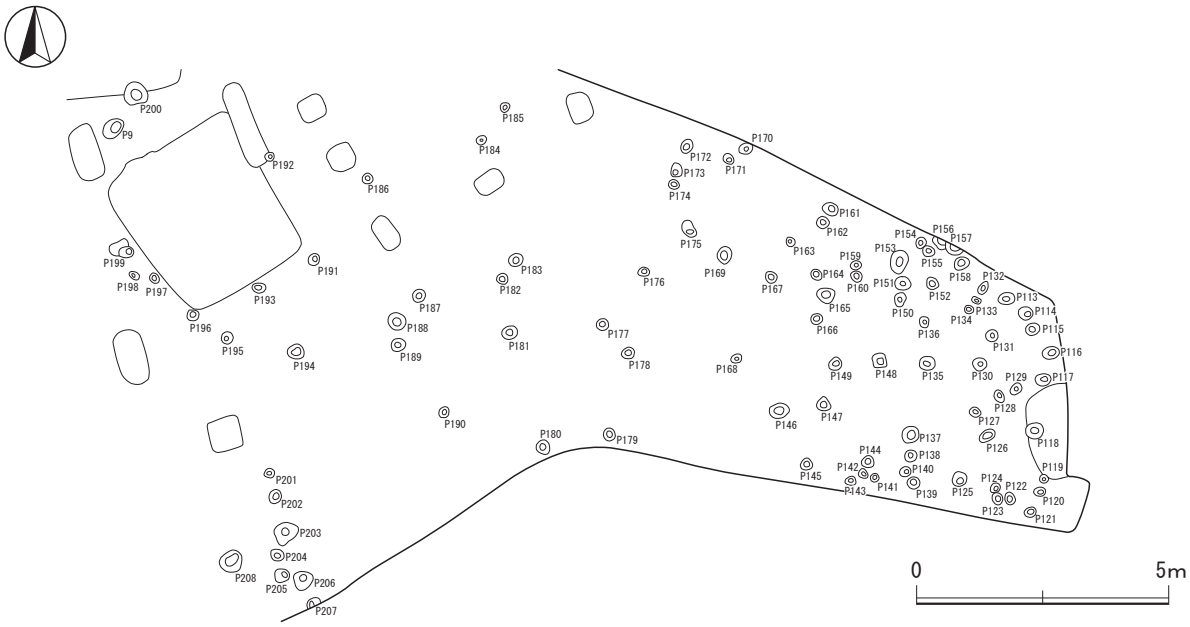
第１号ピット群

位置　第１調査区A6c9 ～ B7b4グリッドに位置する。

規模と形状　97基のピットが確認された。平面計はいずれも円形もしくは楕円形を呈し，最大のものは長径48cm，短径46cmで，最小のものは径15cm程度のものである。深さは８～70cmである。

遺物出土状況　遺構に伴う遺物は確認できなかった。その他の遺物の大半は埋土中に混入していたものと推測され、断面の摩耗している破片や器種を特定できない細片が多い。

所見　これらピットに掘立柱建物や柵列等に見られる柱穴の配置の規則性や規模や深さ等の同一性は確認できなかった。時期は、出土遺物が少なく、大半が埋土中に混入していた破片であることや、現代の遺物も出土していることから、特定するには至らなかった。



第81図　第１号ピット群実測図

表35　第１号ピット群計測表

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
9	48	32	49
113	34	24	33
114	30	24	17
115	28	24	27
116	32	24	24
117	32	24	39
118	36	32	40
119	18	18	43
120	24	19	26
121	26	20	30

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
122	27	18	14
123	24	20	34
124	21	18	28
125	29	29	32
126	36	22	30
127	22	20	17
128	28	18	17
129	26	20	38
130	26	26	14
131	22	22	12

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
132	27	17	30
133	18	12	27
134	18	16	23
135	31	28	34
136	21	17	32
137	32	32	31
138	24	22	28
139	26	26	27
140	24	20	36
141	16	16	8

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
142	20	18	14
143	21	18	21
144	26	26	17
145	24	24	21
146	38	30	26
147	29	28	16
148	30	26	12
149	27	26	12
150	28	22	19
151	32	26	32

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
152	24	22	26
153	49	34	30
154	22	20	26
155	22	20	17
156	27	18	30
157	38	18	30
158	32	26	31
159	22	18	22
160	24	22	22
161	33	30	38
162	27	26	19
163	20	17	14
164	24	20	8
165	36	28	22
166	22	22	23

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
167	23	22	30
168	21	18	33
169	37	28	21
170	28	20	15
171	21	16	15
172	31	23	24
173	37	21	30
174	21	18	21
175	37	22	16
176	24	17	24
177	24	24	38
178	27	23	21
179	26	22	20
180	30	26	23
181	31	26	15

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
182	22	22	11
183	27	50	35
184	20	18	16
185	20	18	16
186	21	21	18
187	26	24	35
188	36	34	11
189	28	26	30
190	21	19	22
191	22	21	19
192	19	16	40
193	27	20	10
194	32	30	33
195	24	22	39
196	20	20	23

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
197	20	20	16
198	20	16	10
199	32	22	61
200	48	46	49
201	21	20	43
202	28	21	32
203	49	41	70
204	27	22	28
205	28	26	41
206	38	38	52
207	28	16	32
208	47	40	55

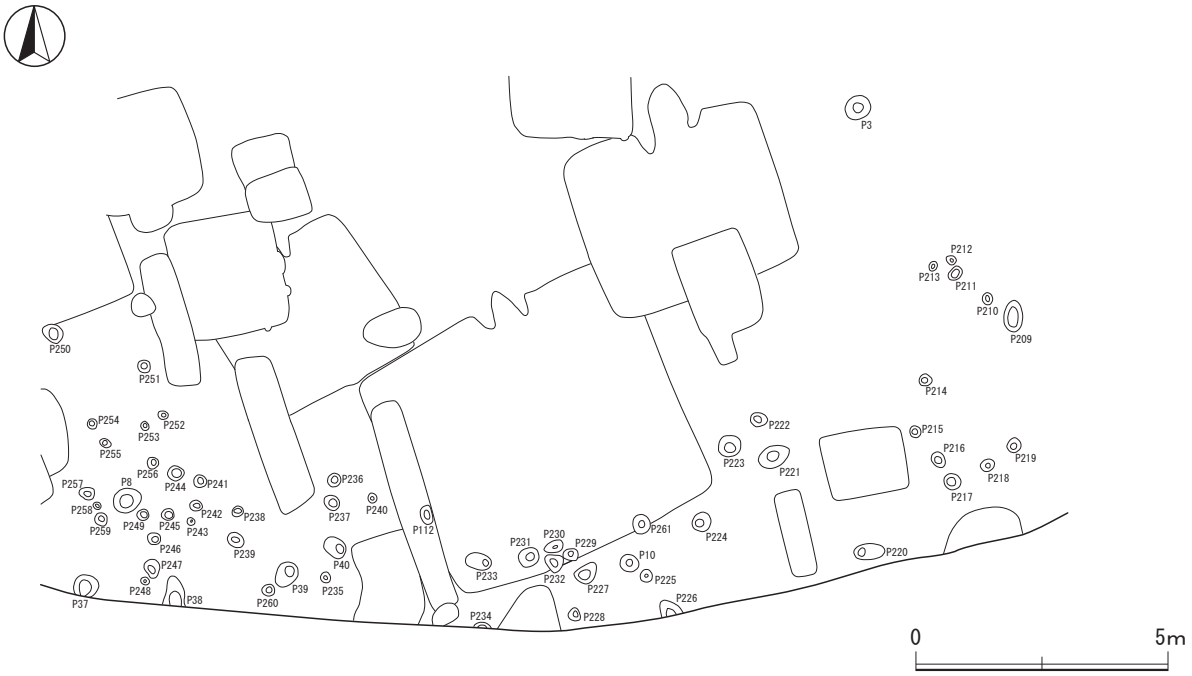
第２号ピット群（第82図，表36）

位置　第１調査区東部のA6c9 ～ B7b4グリッドに位置する。

規模と形状　61基のピットが確認された。平面計はいずれも円形もしくは楕円形を呈し，最大のものは長径64cm，短径44cmで，最小のものは径15cm程度である。深さは８～ 65cmである。

遺物出土状況　第１号ピット群と同様、出土遺物は少なく、また遺物の大半は埋土中に混入していたものと推測される。

所見　これらピットに掘立柱建物や柵列等に見られる柱穴の配置の規則性や柱穴の規模や深さ等の同一性は確認できないため、ピット群として扱った。時期は、古代の住居跡や近世の墓壙と重複しているピットがいずれもそれらの遺構より新しいことから、中世以降と推測されるが、伴う遺物が出土していないため、時期を細分化して特定するには到らなかった。



第82図　第２号ピット群実測図

表36　第２号ピット群計測表

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
3	52	44	8
8	58	50	23
10	39	32	50
37	50	42	43
38	59	44	61
39	52	41	65
40	48	35	44
112	38	26	13
209	60	36	19
210	23	18	33
211	31	23	56
212	20	16	15
213	21	16	20
214	25	24	16
215	21	21	24
216	33	22	24

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
217	34	32	22
218	28	21	29
219	30	28	32
220	62	20	40
221	64	44	19
222	35	27	23
223	43	42	11
224	39	36	18
225	23	21	40
226	40	34	51
227	48	35	17
228	25	22	44
229	30	21	36
230	40	21	47
231	38	37	43
232	38	37	37

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
233	51	32	57
234	36	10	46
235	21	20	28
236	26	26	41
237	34	28	28
238	20	20	15
239	30	29	43
240	21	20	12
241	24	22	19
242	23	21	15
243	15	14	8
244	34	30	21
245	26	21	55
246	28	22	16
247	39	31	20
248	18	13	25

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
249	24	21	29
250	42	39	27
251	23	23	35
252	20	18	24
253	18	16	21
254	20	20	30
255	23	17	12
256	22	21	22
257	30	26	14
258	18	12	18
259	26	26	48
260	24	22	42
261	39	35	38

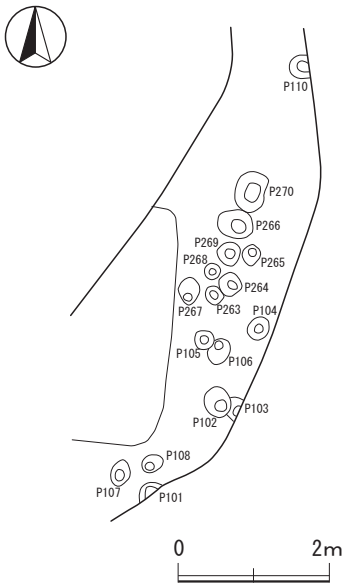
第３号ピット群（第83図，表37）

位置　第３調査区東部のS0c2 ～ S0d4グリッドに位置する。

規模と形状　17基のピットが確認された。平面計はいずれも円形もしくは楕円形を呈し，最大のものは長径48cm，短径35cmで，最小のものは径18cm程度である。深さは28 ～ 65cmである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期や性格は不明であるが、ピットが隣接しており遺構の重複も見られるため、度重なる造り替えが行われた可能性がある。しかし、調査区が狭くピットの配置や配列を確認することはできなかった。



第82図　第３号ピット群実測図

表37　第３号ピット群計測表

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
101	38	14	35
102	38	34	50
103	37	12	54
104	32	28	46
105	26	26	31

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
106	38	26	37
107	38	26	63
108	32	22	40
110	32	24	61
263	21	18	28

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
264	26	25	44
265	23	21	51
266	43	33	55
267	32	25	53
268	18	18	50

番号	規模(cm)		
	長径	短径	深さ
269	28	27	65
270	48	35	54

第４章　総　括

第１節　調査成果の概略

北原遺跡は，久慈川の右岸，標高35mほどの低位段丘面縁辺部に立地している。今回は第２次調査であり，第１次調査は平成25年11月から平成26年４月にかけて7,433㎡を対象に実施されている。第１次調査では竪穴住居跡93軒（古墳時代９，奈良・平安時代63，時期不明21），掘立柱建物跡４棟（時期不明４），溝跡３条（奈良･平安時代１，時期不明２），地下式坑１基（中世１），墓壙２基（近世２）などが確認され，７世紀後半～10世紀前半の間に拠点的集落が営まれていたことが明らかとなった。今回の第２次調査は，第１次調査で設定された調査区の西･東･南の３ヶ所に設けられた調査区1,196㎡を対象に実施され，ここから竪穴住居跡15軒（古墳時代６，奈良・平安時代９），掘立柱建物跡２棟（中世２），方形竪穴遺構12基（中世12），溝跡１条（時期不明１），墓壙６基（近世６），ピット列１条（不明１），土坑66基（縄文時代１，奈良・平安時代３，近世３，時期不明59）などが検出されている。ここでは二次にわたる調査で検出された遺構について時代ごとに概略を述べ，若干の考察を交え総括する。

１　縄文時代

土坑が１基確認された。第１調査区で確認された第322号土坑は，堀之内Ⅰ式土器がまとまって出土しており，縄文時代の後期前葉に埋没したものと考えられる。また，表面採集や後世の遺構内から，流れ込みと考えられる前期・中期・後期の土器片や石鏃などが出土している。

周辺の遺跡では，梶巾遺跡や諏訪台遺跡で中期前半の土坑群が検出されているほか，未発掘であるが本遺跡の南に近接する東平遺跡では中期の阿玉台式・加曽利Ｅ式土器が，下坪遺跡では中期の加曽利Ｅ式土器と後期の堀之内式・綱取式土器が，東に近接する後原遺跡では中期の加曽利Ｅ式土器が採取されており，付近に縄文時代の特に中期から後期にかけての集落が存在することが推測される。今後資料の蓄積に伴い，周辺地域を含めた土地利用の時間的・空間的移り変わりが明らかになることを期待したい。

２　古墳時代

竪穴住居跡が６軒確認された。第１調査区に２軒，第３調査区に４軒である。これに第１次調査で確認された９軒を加えると合計15軒で，詳細な時期判断ができない第113号住居跡を除き，全て古墳時代後期に属する。

当遺跡においては，古墳時代後期が集落の萌芽期と思われ，住居跡の検出状況は濃密ではなく，点在するように構築されている。建物の規模はまちまちで大型・中型・小型建物が混在し，一辺が5.7mの第104号住居跡と，一辺が7.8mの第115号住居跡には壁溝が認められ，一辺が3m台の第113・114号住居跡には壁溝がないなど，建物の規模に伴う構造の違いが窺える。床面には全ての住居跡に硬化面が確認され，特に堅く硬化する第115号住居跡などは，長期間にわたり居住されていたことが推測される。確認された15軒の主軸方向は，やや西に振れるものが10軒，やや東に振れるものが３軒，真北軸のものが２軒と様々である。このことは当該期の住居跡が蛇行する久慈川にそって立地しているため，地形を強く意識した配置となっていることが理由の１つとして考えられる。

当該期の住居跡からは，土師器（坏・埦・高坏・鉢・坩・甕），須恵器（坏・壺・甕），金属製品（鎌・鏃・釘）などが出土している。第74・104号住居跡からは鉄製の鎌が出土しており，集落内に鉄製農具等を配分できる有力者が存在していたことが窺える。このほか第104号住居跡より出土した土師器甕の底部には，オビヤスデ属の虫体圧痕が確認された。稀な事例であるため専門家の判断を仰ぎ付章に掲載したが，当集落周辺の植生や生態系を垣間見れる資料と言えよう。また，この圧痕の考察については，第２節でも詳しく述べられている。

古墳時代後期に形成された当遺跡の集落は，鉄製鎌の出土などから農耕に従事する人々の村落であると推測されるが，本地点から700mほど北東には古墳時代後期に築造された岩崎古墳群が立地しており，当遺跡との関連が注目される。

３　奈良・平安時代

竪穴住居跡が９軒確認された。第１調査区に６軒，第２調査区に１軒，第３調査区に２軒である。これに第１次調査で確認された63軒を加えると合計72軒となる。なお，第106・111号住居跡は年代特定の根拠に乏しいが，限られた推定資料から判断して，ここでは９世紀代の住居跡として扱う。

（１）８世紀代

８世紀代の住居跡は２軒で，第１調査区の第105号住居跡と第２調査区の第108号住居跡がある。これに第１次調査で確認された10軒を加えると，合計12軒となる。

第108号住居跡は８世紀前葉の住居跡で，主柱穴を伴い一辺は４m以上，一方の第105号住居跡は８世紀後葉の住居跡で，竪穴部に主柱穴をもたず一辺は３m台である。これは「８世紀代初頭に竪穴部に４ヶ所の主柱穴を持ち床にローム土を厚く貼った大型住居跡が依然存在し，その後は小型化し竪穴外に柱を有するタイプが現れる」〔宮田ほか2014〕という第１次調査時と同様の住居形態の変化がみられる。住居跡からは，土師器（坏・高台付坏・鉢・甕），須恵器（坏・高台付坏・高坏・蓋・壺・甕），手捏土器，金属製品（刀子・釘）などが出土している。

８世紀代は律令に基づく国家統治体制が構築されていた時期であり，本地点は当時久慈郡の八部郷に属する。確認された12軒の住居跡を概観すると，規模・出土遺物に古墳時代のような格差が認められず，官主導型で再び形成された均質な集団による集落であったことが推測される。

（２）９世紀代

９世紀代の住居跡は７軒で，第１調査区に５軒，第３調査区に２軒である。これに第１次調査で確認された47軒を加えると54軒となり，当遺跡では集落が最も繁栄していた時期と想定される。

住居の形態は，一辺が４m台以下で主柱穴をもたない住居跡が主体となるが，一方で第109号住居跡のような一辺が5.1mで主柱穴を伴う住居跡も存在し，比較的大型の建物１軒に対して小型建物数軒がその周辺に建てられる様子がみられる。当該期の54軒の住居跡の規模は，一辺２m台が19％，３m台が60％，４m台が17％，５m台が４％である。主軸方向は，やや西に振れるものが29軒，やや東に振れるものが３軒，大きく東に振れるものが16軒，真北軸のものが３軒と様々だが，比較的大型の住居跡はほぼ北を向く傾向にある。また，古墳時代の住居跡が調査区全体に遍在しているのに対し，当該期の住居跡は一定の地点にまとまって構築されており，数軒で一単位のグループ編成がなされていると推測される。

住居跡からは，土師器（坏・高坏・高台付坏・皿・蓋・甑・甕），須恵器（坏・高台付坏・盤・蓋・円面硯・瓶・壺・甕），灰釉陶器（皿），緑釉陶器（皿），手捏土器，土製品（紡錘車・管状土錐・支脚），石製品（紡錘車・砥石・支脚），金属製品（刀子・鎌・鏃・火打金・紡錘車・閂・釘）などが出土している。この頃から鉄製品の出土量が急増しており，その種類も多岐にわたる。また，多数の墨書土器や円面硯など集落内で文字が使用されていた痕跡が確認できる。

墨書土器は第１次調査時に33点，今回の調査で３点が確認されており，その内容は「万」「福」「吉」などの吉祥文字，「占」「稲村卍」などの呪術文字，「上家」「真家」などの郷家を示す可能性のある文字などが確認されている。これらの墨書土器や硯の出土などから，当集落内における官人を含めた上層階級者の存在が推測される。

（３）10世紀代

今回の調査において当該期の住居跡は確認されなかったが，第１次調査時に10世紀前半の住居跡が６軒確認されており，当該期が集落の消滅期と考えられる。この急速な住居数の減少と集落の終焉は，律令体制の崩壊と少なからず関係するものと推測される。なお，当遺跡における集落は10世紀に一時断絶するが，この後成立していく在地領主化の時期において，再び第１調査区には遺構群が構築されており，引き続き人々の生活の痕跡が確認できる。

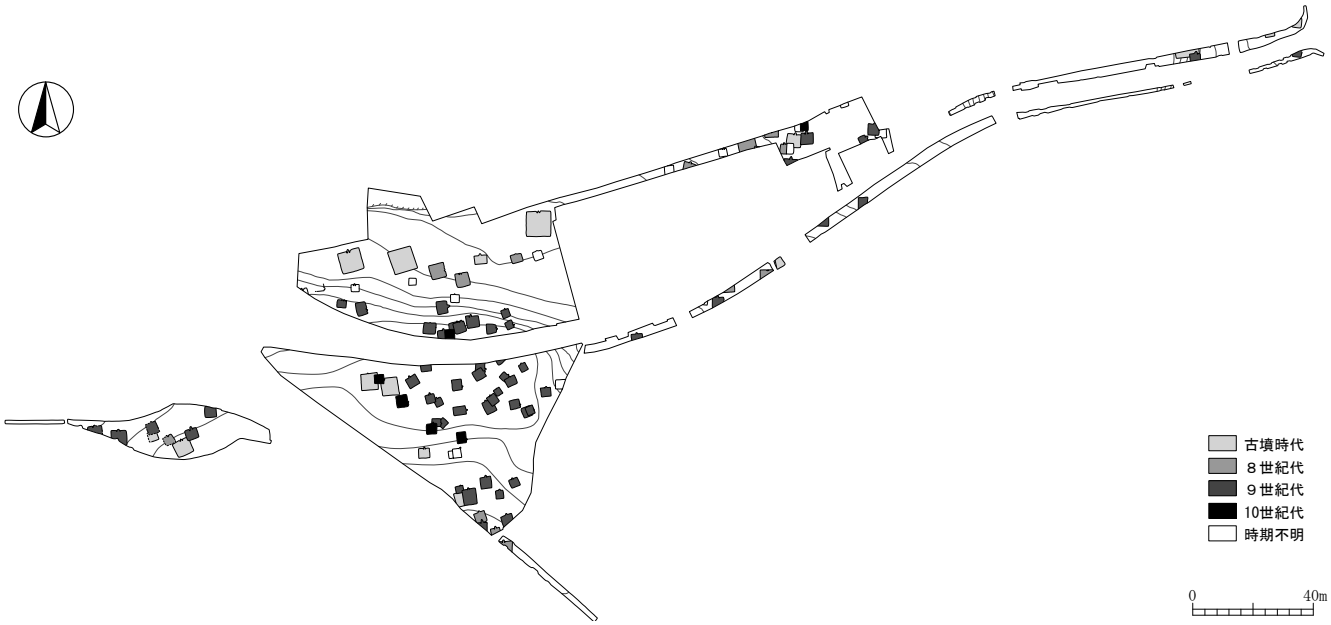
（４）第357号土坑出土の銅造仏坐像について

第１調査区西部に位置する第357号土坑の覆土中から銅造仏坐像が出土している。本跡は近世の土坑であるが，この仏坐像は埋土中に混入していたもので，平安時代後期の所産と推測される。

［法量］〈総高〉・・・・5.4cm　〈像高〉・・・・4.5cm　〈面張〉・・・・0.8cm
〈耳張〉・・・・0.9cm　〈面奥〉・・・・0.8cm　〈臂張〉・・・・2.3cm
〈胸奥〉・・・・0.6cm　〈膝張〉・・・・2.6cm　〈最大奥〉・・(1.3)cm
〈膝高〉・・・・0.5cm　〈背面突起長〉・1.0cm　〈背面突起幅〉・0.7cm

［構造と保存状態］　鋳銅一鋳で鍍金は施されていない。坐仏で，胸をひき腹部を少し前に出す御見姿である。両手先欠失し表面は荒れており，印相や衣紋は確認できなかったが，頭部は突出しており頂髻相の可能性がある。形状から如来像か菩薩と推測される。

当集落は常陸国久慈郡八部郷に属し，律令期において官主導の支配の下で集落が営まれたと推測され，特に墨書土器・刀子・硯などの文字関係資料等が多く出土しており，郷単位の末端集落の様相を呈している。しかし，９世紀中頃に住居数が急増したものの，その後住居数は激減しており，本跡の一次調査の結果では，当集落の移動があったのか集落自体が消滅したためなのかは判断できなかった。しかし今回の調査において平安時代後期作と推測される仏坐像が確認されたことは，当集落が10世紀以降，衰退あるいは消滅したのではなく，中心部が調査区外へと移動した可能性を示唆するものとして注目される。なお，当集落内での平安時代後期の村内寺院の有無に関しては，仏坐像が制作された時期が関東圏内において村内寺院の衰退期にあたるため，この仏坐像をもって一概に肯定できるものではなく，今後の調査を待ちたい。



第84図　北原遺跡の変遷

４　中世

第１調査区から方形竪穴遺構が12基，掘立柱建物跡が２棟確認された。中世の方形竪穴遺構は全国各地で検出されているが，代表的な遺跡をあげると県内ではつくば市の柴崎遺跡，桜川市の犬田神社前遺跡，近県では栃木県の下古館遺跡などがある。このうち栃木県の下古館遺跡は，100基を超える方形竪穴遺構が確認されており，当遺跡で確認されたものと構造上の共通点が多く，田代隆氏により，入口施設と柱穴配置からＡ～Ｊ類までの詳細な分類が行われている〔田代1995〕。

ここでは当遺跡で確認された方形竪穴遺構について，下古館遺跡の例と同様に出入口・柱穴などから分類を行い，遺構の性格について考察を行う。

（１）方形竪穴遺構の分類（第85図）

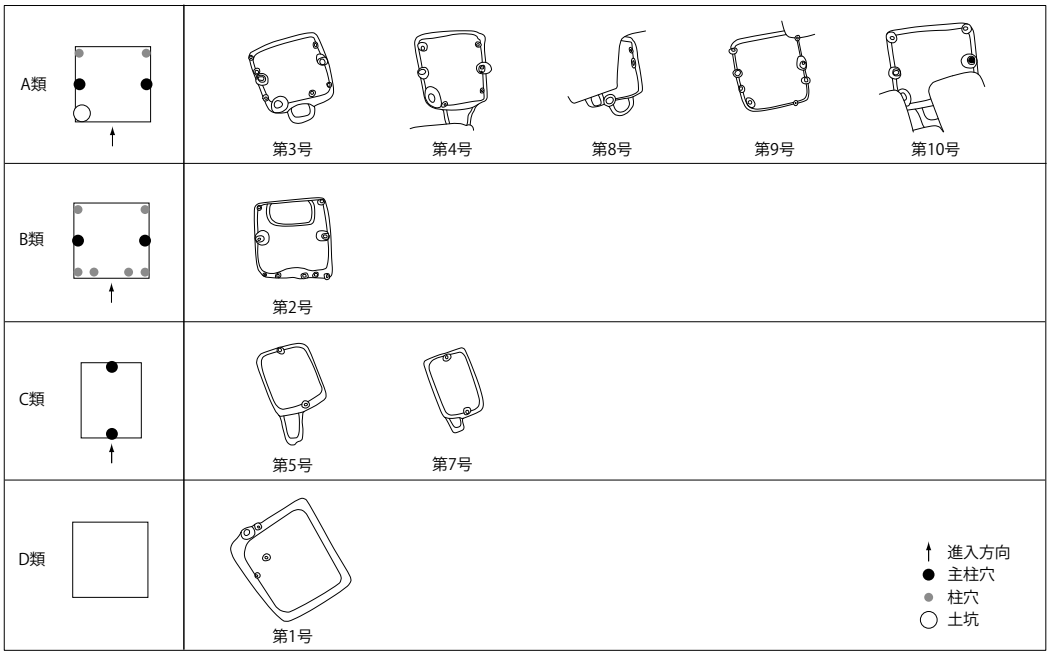
確認された方形竪穴遺構のうち，全容が不明な第６・11・12号方形竪穴遺構を除く９基について，柱穴･土坑･出入口の配置による，A類からD類に分類した。なお，出入口の位置については，張り出し部の位置と断面の傾斜から判断した。

Ａ類　東西の壁際に対になる主柱穴をもち，南側に出入口を有すると思われ，南西コーナー部に土坑をもつもの（第３・４・８・９・10号方形竪穴遺構）

Ｂ類　東西の壁際に対になる主柱穴をもち，南側に出入口を有すると思われ，南西コーナー部に土坑をもたないもの（第２号方形竪穴遺構）

Ｃ類　南北の壁際に対になる主柱穴をもち，南側に出入口を有すると思われるもの（第５・７号方形竪穴遺構）

Ｄ類　主柱穴と出入口が確認されないもの（第１号方形竪穴遺構）



第85図　方形竪穴遺構の分類

以上のように分類を行ったが，これによれば今回検出された方形竪穴遺構はＡ類が大半を占めており，Ｂ類は南西コーナー部の土坑をもたないが，その他はほぼＡ類と同じ構造である。また，Ｃ類は長方形を呈しており，規模も小さく，柱穴も浅いことなどから，Ａ・Ｂ類とは全く別の機能をもつ可能性がある。なお，下古館遺跡の分類に当てはめると，Ａ・Ｂ類は下古館遺跡のＡＩ類，Ｃ類は下古館遺跡のＢＩ類，Ｄ類は下古館遺跡のＧ類となる。

（２）方形竪穴遺構の性格について

当遺跡で確認された方形竪穴遺構は、1979年に中世鎌倉遺跡の発掘調査で初めて認識されて以来，中世東国を中心に多くの検出例が認められており，現在は東北地方や九州などでも確認されている。遺構の性格については，「兵士の詰所」「職人住居兼用の作業場」，「鍛冶工房」「皮革製品加工場」，「物資倉庫」など様々な推論がなされており，飯村均氏は方形竪穴遺構を主体とする集落は，交通の結節点や宗教的な空間に隣接するものとしている〔飯村1998〕。また，方形竪穴遺構の形態的特徴として、飯村氏は以下の五つの項目を挙げている。

① 一辺２～４ｍの方形を基調とする。② 堆積土は人為的である。③ 共伴遺物がない，または少ない。④ 床面が踏み締まっているものが少ない。⑤ 長期間の使用が認められない。

以上の特徴は当遺跡で確認された方形竪穴遺構にも当てはまり，このうち「床面が踏み締まっているものが少ない・長期間の使用が認められない」という特徴は，初めから長期間の居住を目的としない建物として方形竪穴遺構が築造されたものと考えられる。また，当遺跡で確認されたものはこの五つの項目に加え，「複数の方形竪穴遺構が同一地点に密集あるいは重複した状態で検出される」という特徴を持っており，第１調査区付近には当時細かく区切られた地割りが存在し，同一の地割り内で繰り返し構築されたことが考えられる。これらのことから，当遺跡で確認された方形竪穴遺構は，移動を伴う人々の簡易的な住居及び作業施設というよりは，一定期間ごとに造り変えられた収蔵施設として機能していたのではなかと推測される。

5　近世

第１調査区から墓壙が６基，土坑が３基が確認された。確認された６基の墓壙のうち第３～７号墓壙から人骨が，第８号墓壙から馬骨が出土しており，このうち人骨が出土した墓壙について，第１次調査で確認されたもの第１・２号墓壙を含め，以下に一覧を示す。

表38　墓壙一覧表

遺構名	平面形	主軸方向（南辺基準）	規模(cm)			出土人骨			出土遺物
			長軸	短軸	深さ	年齢	性別	埋葬姿勢	
第1号墓壙	方形	N-15°-W	74	64	76	不明(成人)	女性	不明	
第2号墓壙	方形	N-13°-W	120	(80)	71	不明(成人)	女性	不明	釘1，銭貨6
第3号墓壙	方形	N-10°-W	81	79	80	約30歳代	女性	座葬	釘37，煙管1，銭貨8，漆
第4号墓壙	方形	N-15°-W	65	63	71	約40歳代	女性	座葬	釘21，銭貨9
第5号墓壙	長方形	N-15°-W	120	99	66	約40歳代	男性	座葬	釘39，銭貨6，漆
第6号墓壙	長方形	N-15°-W	117	92	64	約40～50歳代	女性	座葬	釘65，煙管1，銭貨8
第7号墓壙	長方形	N-15°-W	120	78	16	不明	不明	仰臥屈葬	

※第３～６号墓壙出土人骨については，楢崎修一郎氏に鑑定していただいた分析結果に基づく。

第３～６号墓壙の人骨は出土した鉄釘の分布状況や底面の痕跡から方形木棺に入れて埋葬されたと考えられ，埋葬姿勢は第４・５・６号墓壙が座葬で西向き，第３号墓壙は座葬と思われるが，頭蓋骨が真上を向く不自然な状態で検出されており詳細は不明である。一方，第７号墓壙は遺体を棺に入れずに直接土坑に埋葬する直葬で，骨の残存が悪く不明な点が多いが，埋葬姿勢は仰臥屈葬，向きは北枕で南向きと推測される。この埋葬方法の違いから，第７号墓壙は第３～６号墓壙と埋葬時期が大きく異なることも考えられる。

なお，これまでに同定が行われた６体の人骨はすべて成人であり，うち男性１体に対し，女性が５体である。また第３～６号墓壙の時期については，いずれも埋納された六道銭に新寛永通宝（背無文銅銭）が含まれており，埋葬時期は18世紀から19世紀前葉頃と推測される。

墓壙の配列は，主軸方向が近似しており，なかでも第４～６号墓壙は西向きの座葬であることなど主軸方向･埋葬姿勢に規則性が認められる。また本地点西側の段丘崖下には天保13年まで「徳乗院」という寺院が存在していたことが記録に残されており，本地点は寺院付近に営まれた墓地であった可能性も考えられる。なお徳乗院は真言宗の寺院で，天保13年に鏡徳寺（現常陸太田市上利員町）へ引寺となっている。（高野）

【参考文献】

飯村 均　1994　「中世の「宿」「市」「津」」『中世都市研究』第3号　中世都市研究会
飯村 均　1998　「遺跡のかたち 都市のかたち」『中世都市研究会第6回研究集会発表要旨』中世都市研究会
大宮町史編さん委員会　1977　『大宮町史』大宮町
大宮町史編さん委員会　1980　『大宮町史　資料集』大宮町
小川和博ほか　2008　『上ノ宿遺跡 発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会
小川和博ほか　2009　『上ノ宿遺跡-第2次調査Ⅰ・Ⅱ-発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会員会
小川和博ほか　2013　『上ノ宿遺跡Ⅲ』常陸大宮市教育委員会員会
田代 隆ほか　1995　『下古館遺跡』（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
中・近世研究班　1992　「中世の竪穴遺構について」『研究ノート』創刊号（財）茨城県教育財団
榊 雅彦ほか　2004　『犬田神社前遺跡１』（財）茨城県教育財団
宮田和男ほか　2014　『北原遺跡Ⅰ』　常陸大宮市教育委員会
　　1997　『茨城の仏像－茨城県内寺社所蔵美術工芸品の調査研究－』茨城県歴史館学術報告書５

付章　自然科学分析

第１節　北原遺跡Ⅱ出土土器底部の木葉痕および虫体圧痕の同定

佐々木由香・米田恭子（パレオ・ラボ）
森　勇一（金城学院大学）
米倉浩司（東北大学植物園）

1. はじめに

茨城県常陸大宮市北部の旧大宮町域に所在する北原遺跡Ⅱは，久慈川右岸の標高約30mの低位段丘面の縁辺部に立地する古墳時代から平安時代の集落遺跡である。古墳時代（６世紀）の竪穴住居跡から出土した土師器甕の底部に，木葉痕と虫体圧痕と思われる圧痕が付着していた。ここでは，これらの圧痕の同定を行った。同定にあたっては，小林和貴氏（東北大学植物園）と緒方清人氏（愛知県環境審議会専門調査員）にお世話になった。

2. 分析試料とその計測値

試料は，第1調査区の第104号竪穴住居跡（SI-104）から出土した土師器甕（No.6）である。土師器甕（No.6）の底部外面には，木葉痕と思われる葉脈の圧痕と，２つの虫体圧痕が付着していた。虫体圧痕には任意に分析No.を付した。土師器の時期は，６世紀である。

圧痕のレプリカは以下のように作製した。圧痕内を筆と流水で水洗し，乾燥条件下でブロアーを用いて付着物を除去した。レプリカ法は，丑野・田川（1991）等を参考にして以下の手順で行った。資料の保護のため，パラロイドB72の５％アセトン溶液を離型剤にして土器表面に塗布し，印象剤に用いるシリコン樹脂（（株）ニッシン製JMシリコン レギュラータイプもしくはアグサ・ジャパン（株）製ブルーミックスソフト）を医療用注射器に入れ，圧痕部分に充填してレプリカを作製した。採取したレプリカについて実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて観察および写真撮影を行った。なお，採取したレプリカは，株式会社パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

木葉痕は，葉縁部が残存しておらず，主脈および側脈のみが確認できる。レプリカの観察から，側脈が左右非対称に出る点，側脈が主脈から分岐する時に外側に曲がり，その後すぐに直線的となる点，分岐した後の側脈は直線的である点，細脈は側脈から広い角度で間隔をおいて直線的に出る点が観察できるが，これらの特徴からは，樹木，蔓または草本広葉樹の葉以上の詳細な同定はできなかった。

虫体圧痕の分析No.1は，長さ約13.0mm，幅1.4mmの棍棒状で，前方および後方ではやや細くなり，頭部は丸みを帯びた半円形である。分析No.2は，後部1/3付近で約90度屈曲している。復元長は約14.0mm，幅1.4mmで，虫体の特徴は，分析No.1とほぼ同様である。分析No.1，分析No.2ともに，多数の体節で構成されており，細長い体つきから，節足動物門倍脚網Dilopodaに分類される。

図版1-3の分析No.1の走査型電子顕微鏡写真では，頚板に続く３胴節に各１対，第４胴節以降

にはそれぞれ各２対の歩脚が観察され，倍脚類（ヤスデの仲間）の特徴がよく現れている。分析No.1（図版1-3）は虫体の腹面から撮影されたもの，分析No.2（図版1-6）は歩脚が認められないため，虫体背面の画像と考えられる。

走査型電子顕微鏡写真を用いて計数可能な胴節数は，分析No.1とNo.2ともに18ないし19節であり，両試料は同一種に分類される倍脚類と考えられる。

分析No.1の頭部を腹側および前方から観察した画像（図版1-4）では，口器の一部が突出するのが観察される。また，虫体を背面から撮影した分析No.2を見ると，各胴節の背板は側方にやや張り出し，側庇が認められる。

以上の特徴より，圧痕試料（分析No.1，分析No.2）は，オビヤスデ科Polydesmidaeオビヤスデ属Epanerchodusに同定されるが，わが国のヤスデの仲間の分類は大変遅れており，未記載種や不明種も多い。オビヤスデ属に所属するヤスデについては，岡田ほか（2004）にヒガシオビヤスデEpanerchodusorientalis，エダオビヤスデE.bifidus，エトウオビヤスデE.etoi，サラオビヤスデE.saragagaminensisの計４種が記載されている。形状や分布地域を考慮すると，虫体圧痕はヒガシオビヤスデである可能性が最も高い。一方，緒方（2011）は愛知県内より未同定種を含めて計15種のオビヤスデ属を採集・報告し，大きさや形状などがヒガシオビヤスデに酷似したクチバシオビヤスデEpanerchodusrostralisについて記載している。クチバシオビヤスデは，オスの生殖肢がくちばし状（rostrate）に尖るため，識別可能とされる。

ヒガシオビヤスデは，体長約20.0mm，体幅2.0mmで，胴節は頚板および肛門節を含め20節である（梅谷，1994）。本種は，本州の東半分から北海道にかけて広く分布し（梅谷，1994），西日本では主に山地に生息する（緒方，2014）。クチバシオビヤスデは，体長，体幅ともに前種とほぼ同じ大きさであり，胴節数も20節である。分布については，東海地方における生息は確実であるものの（緒方，2011），詳細は明らかになっていない。

北原遺跡から得られた虫体圧痕は，ヒガシオビヤスデかクチバシオビヤスデ，およびその近縁種のオビヤスデ属Epanerchodusと判断され，大きさや胴節数を考慮すると，これらの幼体であると考えられる。

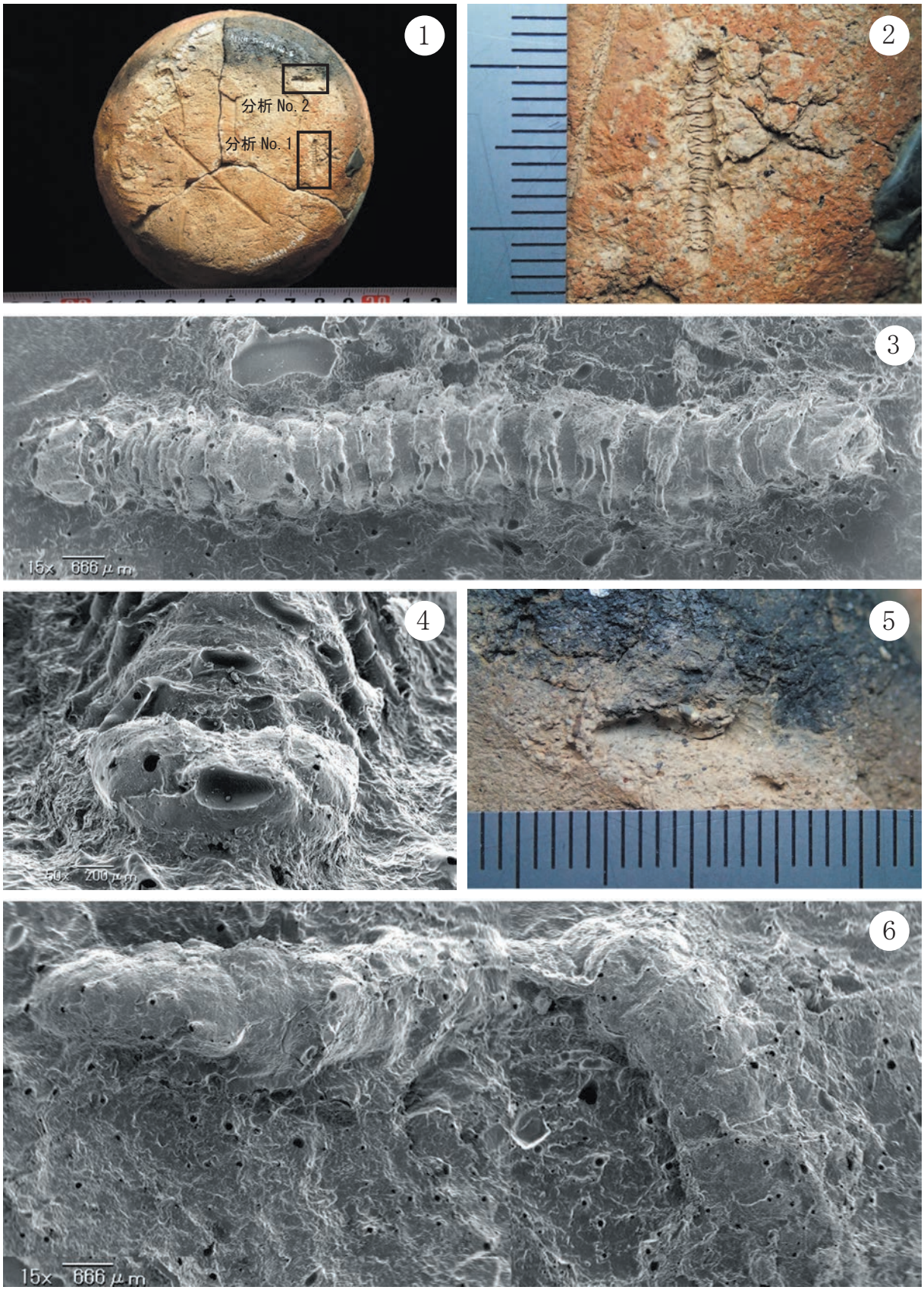
なお，オビヤスデ属を含む倍脚類の第７胴節の歩脚は，オスでは１対，メスでは２対であり，歩脚の詳細が観察される分析No.1については，第7胴節の歩脚が２対認められるため，メス個体である。

4. 考察

６世紀の土師器甕の底部に残っていた葉の圧痕と虫体圧痕を同定した結果，葉は識別可能な点が残存しておらず，樹木，蔓または草本広葉樹の葉で，それ以上の詳細な同定はできなかった。虫体圧痕は２点とも節足動物のオビヤスデ属であった。オビヤスデ属は，主に森林の腐葉土中に生息し，人家周辺にいて，ときに植木の多い庭園内でも見られる（梅谷，1994）。分析の結果，北原遺跡では，遺跡の周りに樹木や腐葉土などが存在し，土器製作の過程で敷物として用いたと考えられる葉にオビヤスデ属が付着していて，土器底部に圧痕を残した可能性がある。

引用文献

緒方清人（2011）愛知のヤスデ（Ⅱ）．三河生物，西三河野生生物研究会，1-12.
緒方清人（2014）新城市の多足類．新城市の自然誌－昆虫・動物編，鳳来寺山自然科学博物館，40-52.
岡田要・内田清之助・内田亨（2004）新日本動物図鑑（中）．679p，北隆館.
梅谷献二編（1994）原色図鑑野外の毒虫と不快な虫．331p，北隆館.
丑野　毅・田川裕美（1991）レプリカ法による土器圧痕の観察．考古学と自然科学，24，13-36．日本文化財科学会.



図版 1　北原遺跡Ⅱ出土土器と虫体圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

1．土器底部（SI-104、No. 6）、2．圧痕部拡大（分析 No. 1）、3．オビヤスデ科オビヤスデ属（分析 No. 1）、4．分析 No. 1 の頭部（前方）、5．圧痕部拡大（分析 No. 2）、6．オビヤスデ科オビヤスデ属（分析 No. 2）、図中のスケールは 1mm

第２節　北原遺跡出土土師器甕のオビヤスデ属圧痕

常陸大宮市教育委員会　後藤　俊一

青森県三内丸山遺跡では，５万点を超える土器の観察から，多様な動植物の圧痕が確認されており，これらの分析が古環境復元に寄与している。この分析では，それまで遺物包含層からまったく発見されていなかった数種類の家屋害虫が圧痕から検出されるという結果が得られ，家屋に住み着いた昆虫等の検出に圧痕分析が有効であることが証明されることとなった。圧痕を残す昆虫等としては，コクゾウムシ，ダニ，カツオブシムシ，蛆等昆虫の幼虫等が知られていて，これらは総じて家屋害虫である。これらの家屋害虫が土器を作る場所に多数住み着いていて，人の生活に身近な存在であったということが判る［小畑・眞邉2013］。

北原遺跡第２次調査で第104号竪穴住居跡から出土した土師器甕底面の虫体圧痕は，オビヤスデ属のものと判明した。オビヤスデ属は，丸くなることができない代わりに比較的素早く動き，湿度が保たれたところに身を隠して，落ち葉や腐葉土を食す。主に森林の腐葉土中に生活するが，植木等のある人家近くにも出現する。オビヤスデ属の圧痕が検出されたことにより，当時の北原遺跡は樹木のあった環境だと，株式会社パレオ・ラボにより考察されている。

加えて，貧窮問答歌にある「直土に藁解き敷きて」のような家屋内は，湿度が保たれて隠れるところもあり，オビヤスデ属のみならず，多足類全般にとって良好な生活環境と考えられる。オビヤスデ属は，コクゾウムシ等とは異なり，必ずしも家屋内にばかり生活するわけではないが，やはり，人の生活に近いところを多数徘徊していた様子が想像される。

北原遺跡は，久慈川右岸の低位段丘上に立地しており，古代の集落は，主に７～10世紀に営まれ，９世紀代に最盛期を迎えたと考えられている。第104号竪穴住居跡の属する６世紀代は，集落の黎明期ともいえる時期で，確認されている遺構は少ない。久慈川沿いの河畔林中に拓かれたばかりのごく小規模な集落が，北原遺跡の６世紀の姿と考えられる。後の律令制への時代の流れに伴い，同地に拠点的集落が立地したことを考えると，分岐点となった時期である。

また，圧痕として確認された２体は共に幼体であるが，№１は長さ約13.0㎜，№２は復元長約14.0㎜とのことで，土器の焼成による縮小を考慮すると，いずれも成体（体長約20.0㎜）に近づきつつある大きさである。生活史によって，土器の作られた時期を限定できる可能性を検討したが，オビヤスデ科オビヤスデ属の生活史研究はあまり進んでいない［田辺2001］ため，生活史を根拠として時期を限定するのは難しい。しかし，オビヤスデ属も他の多足類同様冬季は活動せず，活動状態にあるのは４～10月である。越冬中は落ち葉の堆積したところや朽木・石の下などに身を隠して動かずにいるため，２匹ものオビヤスデ属が圧痕を残すような状況は，活動期と推測するのが自然である。従って，この土器が作られたのは４～10月と考えることはできる。

北原遺跡で確認された虫体圧痕はこの１点のみで，多角的な視点からの考察は難しいが，久慈川流域では貴重な事例であり，今後の累積を待ちたい。

引用・参考文献

小畑弘己・眞邉彩『三内丸山遺跡北盛土出土土器の圧痕調査の成果とその意義』三内丸山遺跡年報17，2013年
田辺力『多足類読本　ムカデとヤスデの生物学』東海大学出版会，2001年
宮田和男ほか『北原遺跡Ⅰ』常陸大宮市教育委員会，2014年

第３節　北原遺跡Ⅱ出土近世人骨

生物考古学研究所　楢崎修一郎

はじめに

北原遺跡Ⅱは，茨城県常陸大宮市岩崎字北原に所在する。常陸大宮市教育委員会による発掘調査が，平成27（2015）年６月から同年８月まで行われた。なお，発掘調査の実務は，関東文化財振興会株式会社が実施している。本遺跡の第１調査区の第３号墓抗・同４号墓抗・同５号墓抗・同６号墓抗の４基の墓抗から近世人骨が検出されたので，以下に報告する。なお，本遺跡からは第７号墓からも人骨が検出されているが，残存状態が悪いため分析依頼はされなかった。

１．第３号墓抗出土人骨

（１）被葬者の埋葬状態：被葬者は，一辺約80cm・深さ約80cmの方形土坑に座葬の状態で埋葬されたと推定される。

（２）被葬者の個体数：出土人骨の出土部位には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

（３）被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，眉弓は発達しておらず，前頭結節及び後頭結節が認められる。また，四肢骨は全体的に華奢であり，左寛骨の大坐骨切痕の確度が鈍角であるため，総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

（４）被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると，外板は癒合していない状態であるが，内板は一部癒合している状態である。また，上顎骨の切歯縫合は癒合している。下顎骨左の大臼歯の咬耗度は，第１大臼歯は象牙質が一部露出する程度のマルティンの２度の状態であるが，第２及び第３大臼歯は，エナメル質のみのマルティンの１度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

写真１．第３号人骨頭蓋骨前面観

写真２．第３号人骨左側面観

２．第４号墓抗出土人骨

（１）被葬者の埋葬状態：被葬者は，一辺約70cm・深さ約70cmの方形土坑に座葬の状態で埋葬されている。

（２）被葬者の個体数：出土人骨の出土部位には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。
（３）被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，眉弓は発達しておらず，前頭結節及び後頭結節が認められる。また,四肢骨は全体的に華奢であり,左右寛骨の大坐骨切痕の確度が鈍角であるため,総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

写真３．第４号人骨頭蓋骨前面観

写真４．第４号人骨左側面観

（４）被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると，外板は癒合していない状態であるが，内板は一部癒合している状態である。本個体の上顎骨はほとんどの歯が生前脱落をし，歯槽も閉鎖した状態である。一方，下顎骨は右側が破損しているが，下顎左右切歯及び犬歯が生前脱落をし，歯槽も閉鎖した状態である。また，下顎左第２大臼歯も生前脱落をした状態である。上顎歯の状態からは老齢と推定されるが，下顎歯の咬耗度は，エナメル質のみのマルティンの１度の状態であり，上顎歯と下顎歯とで状態がかなり異なる。これは，上顎歯が先に脱落したために，下顎歯が咬合せずに咬耗が進まなかったためと推定される。どちらかが残存していなかった場合は死亡年齢推定に大きな誤差が生じる。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

写真５．第４号人骨上顎骨咬合面観

３．第５号墓抗出土人骨
（１）被葬者の埋葬状態：被葬者は，東西約120㎝･南北約95㎝・深さ約60㎝の長方形土坑に座葬の状態で埋葬されたと推定される。なお，第６号墓抗とは北部で重複している。
（２）被葬者の個体数：出土人骨の出土部位には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。
（３）被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，眉弓は発達しており，前頭結節及び後頭結節が認め

られない。また，四肢骨は全体的に大きく頑丈であり，左寛骨の大坐骨切痕の確度が鈍角であるため，総合的に被葬者の性別は男性であると推定される。

写真 6. 第５号人骨前面観

写真 7. 第５号人骨左側面観

（４）被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると，外板は癒合していない状態であるが，冠状縫合及び矢状縫合の内板は一部癒合している状態である。上下顎骨の歯の咬耗度は，象牙質が一部露出する程度のマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

（５）被葬者の古病理：下顎左犬歯と同第１小臼歯の舌側には顕著な歯石の付着が認められた。

写真 8. 第５号人骨下顎骨舌側面観：歯石に注意

４．第６号墓抗出土人骨

（１）被葬者の埋葬状態

被葬者は，東西約115㎝・南北約90㎝・深さ約60㎝の長方形土坑に座葬で埋葬されたと推定される。なお，本土坑は，南部で第５号墓抗と重複している。

（２）被葬者の個体数：出土人骨の出土部位には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

（３）被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，乳様突起はあまり発達していない。また，四肢骨は全体的に華奢である。総合的に，被葬者の性別は女性であると推定される。

（４）被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると，外板は一部癒合している状態であり，内板も一部癒合している状態である。また，上顎骨の切歯縫合は癒合している。上顎左右第２小臼歯の咬耗度は，エナメル質のみのマルティンの１度の状態である。しかしながら，上顎左右第２大臼歯及び同左右第３大臼歯は生前脱落をし歯槽も閉鎖した状態である。下顎骨は破損しているために確かではないが，上顎歯同様にいくつかの歯は生前脱落をしている状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代から50歳

代であると推定される。

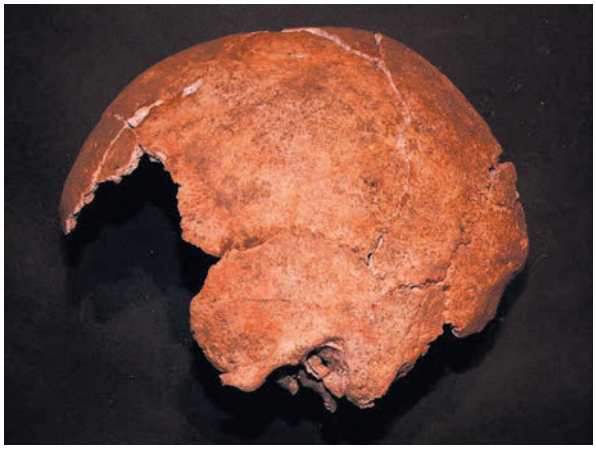


写真 11. 第６号人骨頭蓋骨左側面観

写真 12. 第６号人骨上顎歯咬合面観

まとめ

北原遺跡Ⅱから，近世人骨４体が出土した。なお，北原遺跡Ⅰでは，第１号墓坑から若い成人女性が，また，第２号墓坑から成人女性が検出されている（常陸大宮市教育委員会　2014）。北原遺跡Ⅱとまとめると，近世人骨６体が検出されたことになる。興味深いのは，この６体中，５体が女性であり，１体のみが男性であるという点である。この理由は不明であるが，少なくとも，第５号墓坑と第６号墓坑は接して並んで検出されている事から，屋敷墓で，夫婦の墓であった可能性が高い。以下の表１に，北原遺跡Ⅱ出土人骨のまとめを示した。

表１．北原遺跡Ⅱ出土人骨まとめ

	個体数	性別	死亡年齢	古病理
第３号墓坑	１個体	女性	約30歳代	歯石付着
第４号墓坑	１個体	女性	約40歳代	上顎の無歯顎
第５号墓坑	１個体	男性	約40歳代	下顎歯に歯石付着
第６号墓坑	１個体	女性	約40歳代～ 50歳代	上顎大臼歯の生前脱落

表２．北原遺跡Ⅱ出土人骨頭蓋骨計測値及び比較表（参考）

計測項目 (Martin's No.)	北原Ⅱ遺跡出土人骨			近世人骨*		現代人**	
	３号墓坑	４号墓坑	５号墓坑	♂	♀	♂	♀
1　脳頭蓋最大長	173mm	167mm	173mm	181.9mm	175.4mm	178.9mm	170.8mm
8　脳頭蓋最大幅	140mm	－	－	139.8mm	136.8mm	140.3mm	135.9mm
8：1　頭蓋長幅示数	80.9	－	－	76.9（中頭）	78.1（中頭）	78.5（中頭）	79.7（中頭）
9　最小前頭幅	92mm	－	93mm	94.5mm	91.8mm	93.2mm	91.0mm
12　最大後頭幅	109mm	－	－	109.9mm	105.8mm	108.4mm	104.2mm
12：8　横頭頂後頭示数	77.9	－	－	78.6	76.6	77.3	76.8
26　正中前頭弧長	132mm	130mm	115mm	126.7mm	123.7mm	127.4mm	122.1mm
27　正中頭頂弧長	105mm	110mm	125mm	127.7mm	123.9mm	125.1mm	121.0mm
27：26　矢状前頭頭頂示数	79.5	84.6	108.7	101.1	100.7	98.6	98.9
29　正中前頭弦長	114mm	105mm	103mm	111.4mm	108.7mm	111.8mm	106.5mm
30　正中頭頂弦長	100mm	103mm	107mm	114.6mm	111.2mm	111.8mm	108.6mm
29：26　矢状前頭彎曲示数	86.3	80.8	89.6	87.9	87.9	87.9	87.4
30：27　矢状頭頂彎曲示数	95.2	93.6	85.6	89.7	89.7	89.3	89.8

註１：「＊」は，鈴木（1967）より引用。
註２：「＊＊」は，森田（1950）より引用。

引用・参考文献

常陸大宮市教育委員会編　2014 『北原遺跡Ⅰ』、常陸大宮市教育委員会

写　真　図　版

北原遺跡全景　（南西から）

第１調査区東部遺構検出状況　（西から）

第１調査区完掘状況　（鉛直, 上が北）

第１調査区中央部完掘状況　（東から）

第１調査区テストピット　（南から）

第２調査区完掘状況　（北西から）

第３調査区北部東側完掘状況　（東から）

第３調査区北部東側完掘状況　（西から）

第３調査区北部中央完掘状況　（東から）

第３調査区北部中央完掘状況　（西から）

第３調査区北部西側完掘状況　（東から）

第３調査区南部東側完掘状況　（東から）

第３調査区南部中央完掘状況　（東から）

第３調査区南部中央完掘状況　（西から）

第322号土坑遺物出土状況　（西から）

第322号土坑完掘状況　（南西から）

第104号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第104号竪穴住居跡出入口付近遺物出土状況　（西から）

第104号竪穴住居跡P4堆積状況　（西から）

第104号竪穴住居跡掘方完掘状況　（南から）

第107号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

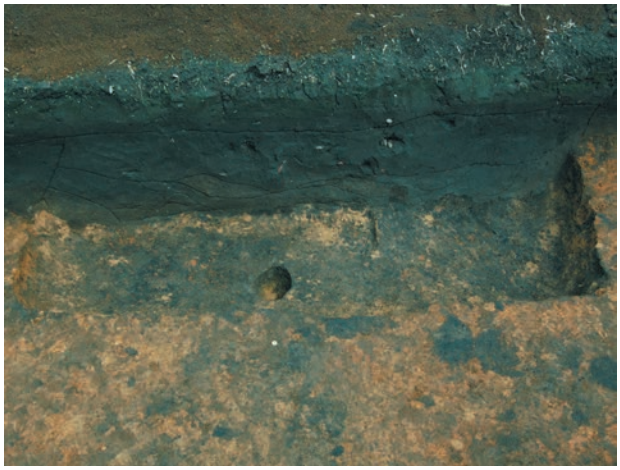
第107号竪穴住居跡遺物出土状況　（南から）

第110号竪穴住居跡完掘状況　（南西から）

第113号竪穴住居跡完掘状況　（東から）

第113号竪穴住居跡遺物出土状況　（東から）

第113号竪穴住居跡土師器坏出土状況　（北東から）


第114号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第115号竪穴住居跡完掘状況　（東から）

第115号竪穴住居跡遺物出土状況　（東から）

第115号竪穴住居跡遺物出土状況　（東から）

第101号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第101号竪穴住居跡竈埋没状況　（東から）

第102号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第102号竪穴住居跡遺物出土状況　（南西から）

第102号竪穴住居跡竈遺物出土状況　（南西から）

第103号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第103号竪穴住居跡遺物出土状況　（南から）

第103号竪穴住居跡竈遺物出土状況　（南から）

第103号竪穴住居跡西壁際火打金出土状況　（東から）

第103号竪穴住居跡掘方完掘状況　（南から）

第105号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第105号竪穴住居跡遺物出土状況　（南から）

第105号竪穴住居跡遺物出土状況　（南東から）

第106号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第108号竪穴住居跡完掘状況　（鉛直，上が北）

第108号竪穴住居跡遺物出土状況　（東から）

第109号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第109号竪穴住居跡遺物出土状況　（南から）

第109号竪穴住居跡竈遺物出土状況　（南から）

第109号竪穴住居跡掘方完掘状況　（南から）

第111号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第112号竪穴住居跡完掘状況　（南から）

第112号竪穴住居跡竈・貯蔵穴付近遺物出土状況（南から）

第112号竪穴住居跡竈埋没状況　（南西から）

第109号竪穴住居跡竈遺物出土状況　（南から）

第377号土坑遺物出土状況　（南から）

第５号掘立柱建物跡完掘状況　（南東から）

第６号掘立柱建物跡完掘状況　（北東から）

第１号方形竪穴遺構完掘状況　（南東から）

第１号方形竪穴遺構埋没状況　（南東から）

第２号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第２号方形竪穴遺構埋没状況　（南から）

第２・３・７・９号方形竪穴遺構完掘状況　（鉛直, 上が北）

第３号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第４号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第５号方形竪穴遺構完掘状況　（東から）

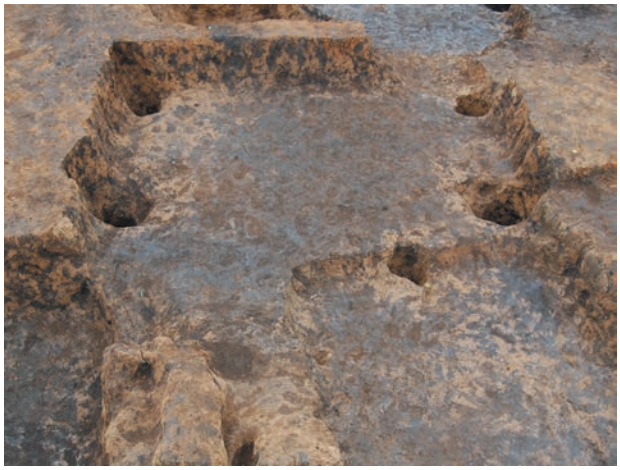
第６号方形竪穴遺構完掘状況　（北から）

第３～６・８～10･12号方形竪穴遺構完掘状況　（鉛直, 上が北）

第７号方形竪穴遺構完掘状況　（東から）

第８号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第９号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）



第10号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第10号方形竪穴遺構P1根石確認状況　（鉛直, 上が東）

第11号方形竪穴遺構完掘状況　（北から）

第12号方形竪穴遺構完掘状況　（南から）

第３号墓壙人骨出土状況　（北から）

第４号墓壙人骨出土状況　（西から）

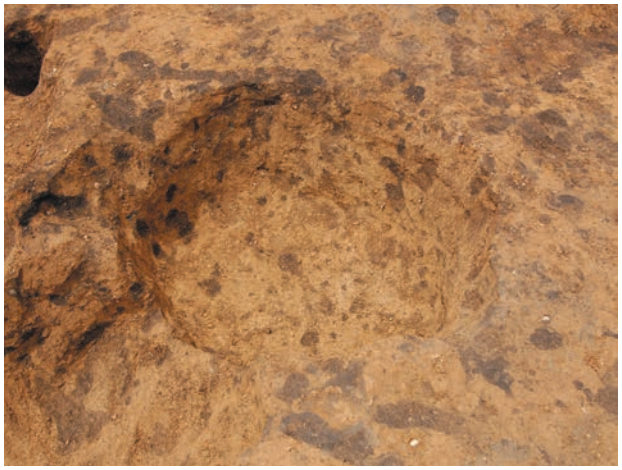
第５・６号墓壙完掘状況　（東から）

第５号墓壙人骨出土状況　（西から）

第６号墓壙人骨出土状況　（東から）

第７号墓壙人骨出土状況　（西から）

第８号墓壙獣骨出土状況　（南西から）


第357号土坑完掘状況　（東から）

第357号土坑埋没状況　（東から）

第316号土坑配石確認状況　（南から）

第387号土坑完掘状況　（東から）

第１号ピット群東部完掘状況　（東から）

第２号ピット群西部完掘状況　（西から）

第322号土坑－１

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－１

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－２

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－３

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－４

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－５

縄文･弥生時代遺構外出土遺物－６

第104号竪穴住居跡－１

第104号竪穴住居跡－２

第104号竪穴住居跡－４

第104号竪穴住居跡－５

第104号竪穴住居跡－３

第104号竪穴住居跡－７

第104号竪穴住居跡－６

第104号竪穴住居跡－８

第107号竪穴住居跡－１

第107号竪穴住居跡－３

第110号竪穴住居跡－１

第113号竪穴住居跡－１

第113号竪穴住居跡－２

第113号竪穴住居跡－３

第114号竪穴住居跡－１

第115号竪穴住居跡－１

第115号竪穴住居跡－２

第115号竪穴住居跡－４

第115号竪穴住居跡－５

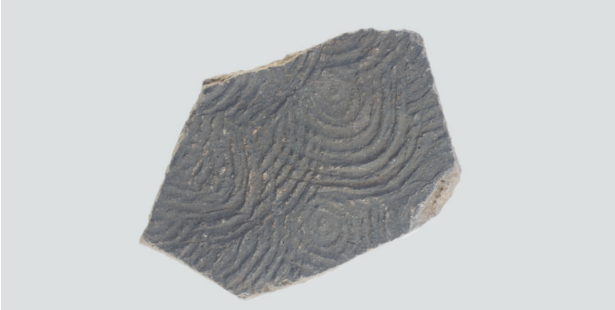
第115号竪穴住居跡－６

第115号竪穴住居跡－７

古墳時代遺構外出土遺物－１

古墳時代遺構外出土遺物－２

古墳時代遺構外出土遺物－５



古墳時代遺構外出土遺物－７

古墳時代遺構外出土遺物－６

第101号竪穴住居跡－１

第101号竪穴住居跡－２

第101号竪穴住居跡－３

第101号竪穴住居跡－４

第101号竪穴住居跡－５

第101号竪穴住居跡－６

第102号竪穴住居跡－１

第102号竪穴住居跡－２

第102号竪穴住居跡－３

第103号竪穴住居跡－１

第103号竪穴住居跡－２

第103号竪穴住居跡－３

第103号竪穴住居跡－５

第103号竪穴住居跡－６

第103号竪穴住居跡－８

第105号竪穴住居跡－１

第105号竪穴住居跡－２

第105号竪穴住居跡－３

第105号竪穴住居跡－４

第105号竪穴住居跡－５

第105号竪穴住居跡－６

第105号竪穴住居跡－７

第106号竪穴住居跡－１

第108号竪穴住居跡－２

第108号竪穴住居跡－３

第108号竪穴住居跡－４

第108号竪穴住居跡－５

第108号竪穴住居跡－６

第108号竪穴住居跡－７

第108号竪穴住居跡－８

第109号竪穴住居跡－１

第109号竪穴住居跡－２

第109号竪穴住居跡－３

第109号竪穴住居跡－４

第109号竪穴住居跡－５

第109号竪穴住居跡－７

第109号竪穴住居跡－６

第109号竪穴住居跡－８

第109号竪穴住居跡－９

第109号竪穴住居跡－10

第109号竪穴住居跡－11

第109号竪穴住居跡－12

第109号竪穴住居跡－14

第109号竪穴住居跡－16

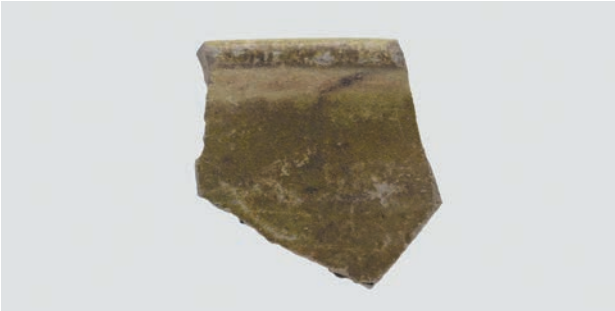
第112号竪穴住居跡－４

第354号土坑－１

第361号土坑－１

第377号土坑－１

奈良･平安時代遺構外出土遺物－２



奈良･平安時代遺構外出土遺物－４

奈良･平安時代遺構外出土遺物－５

奈良･平安時代遺構外出土遺物－６

第１号方形竪穴遺構－１

中世遺構外出土遺物－１

中世遺構外出土遺物－２

中世遺構外出土遺物－３

中世遺構外出土遺物－４

中世遺構外出土遺物－５

第３号墓壙－１～３

第３号墓壙－４

第３号墓壙－5～12

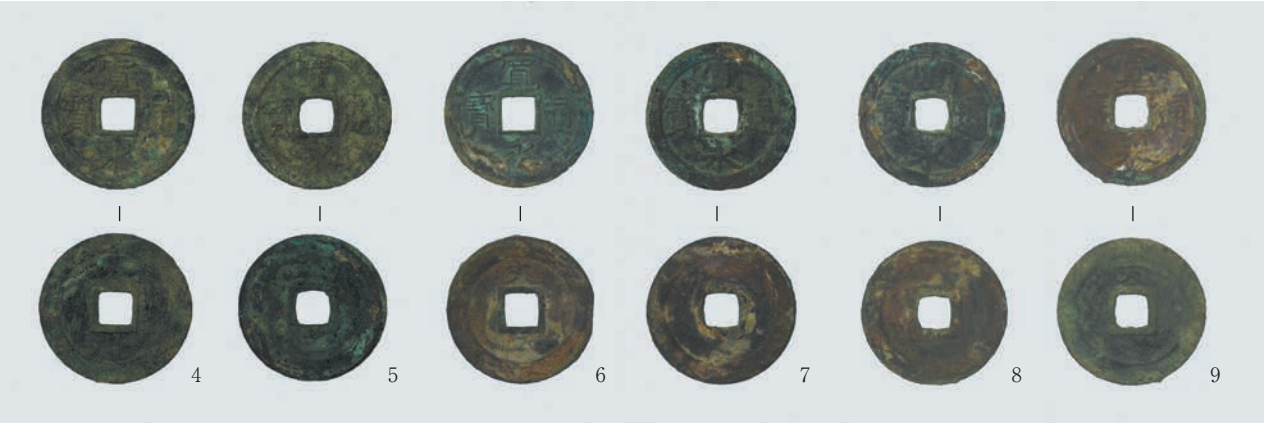
第３号墓壙－人骨

第４号墓壙－４～12

第４号墓壙－１～３

第４号墓壙－人骨

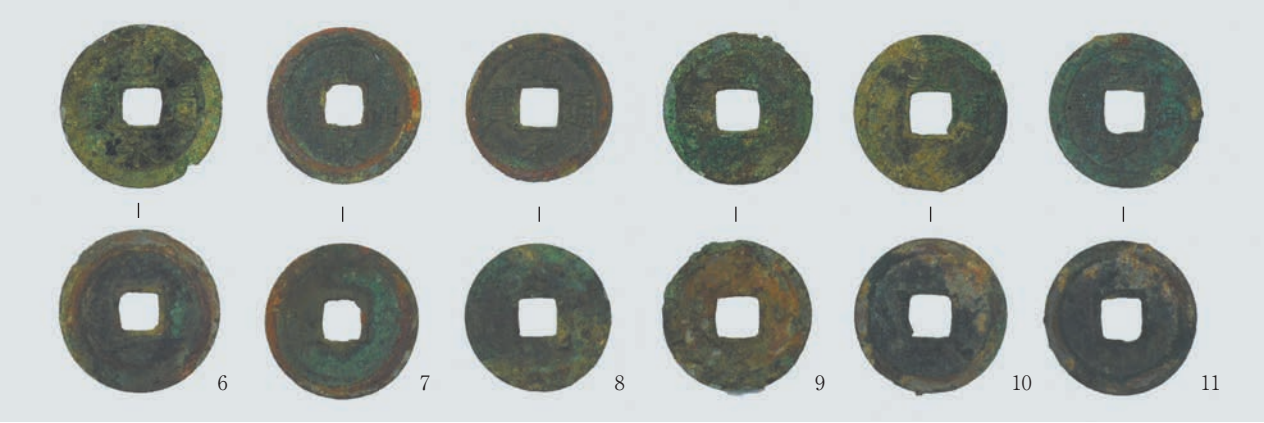
第５号墓壙－１～３



第５号墓壙－４～９

第５号墓壙－人骨

第６号墓壙－１～４



第６号墓壙－６～11

第６号墓壙－人骨

第316号土坑－１

第357号土坑－１

近世遺構外出土遺物－１

第６号墓壙－５

第８号墓壙－１

第375号土坑－２

近世遺構外出土遺物－２

報告書抄録

ふ り が な	きたはらいせきⅡ
書　　名	「北原遺跡Ⅱ」
副　書　名	市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第25集
編 著 者 名	後藤俊一・中林香澄（常陸大宮市教育委員会） 高野恒一（関東文化財振興会株式会社）
編 集 機 関	関東文化財振興会株式会社　〒308-0846　茨城県筑西市布川1012番地
発 行 機 関	茨城県常陸大宮市教育委員会　〒319-2292　茨城県常陸大宮市中富町3135番地の６
発行年月日	平成28年（西暦2016年）３月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東径	調査期間	調査面積	標　高	調査原因
北原遺跡（きたはらいせき）	茨城県常陸大宮市岩崎（いばらきけんひたちおおみやしいわざき）595番地２外	08225 － 大133	36° 59′ 61″	140° 40′ 92″	20150518 ～ 20160320	1,196㎡	33.60m ～ 35.25m	市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
北原遺跡	集落跡	縄文時代	土坑	1基	縄文土器	深鉢	当遺跡は縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代，中近世の複合遺跡である。古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡は今回新たに15軒確認され，１次調査と合わせると108軒にのぼり，周辺地域における拠点的集落跡といえる。そのほか第１調査区からは，中世の方形竪穴遺構13基，近世の墓壙６基などが検出されている。
					石器	石鏃・尖頭器	
		弥生時代			弥生土器	壺	
		古墳時代	竪穴住居跡	6軒	須恵器	坏・甕・壺	
					土師器	坏・高坏・坩・鉢・甕	
					鉄製品	鎌・釘	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡	9軒	須恵器	坏・蓋・壺・甕	
			土坑	3基	土師器	坏・皿・盤・蓋・甕	
					緑釉陶器	碗	
					石製品	砥石・支脚	
					鉄製品	刀子・閂・火打金	
		中世	掘立柱建物跡	2棟	土師質土器	皿	
			方形竪穴遺構	12基	青磁	皿	
		近世	墓壙	6基	土師質土器	皿	
			土坑	3基	銭貨	寛永通宝	
					鉄製品	釘	
					銅製品	キセル	
					その他	人骨・獣骨	
		時期不明	溝跡	1条			
			ピット列	1条			
			土坑	59基			
			柱穴	269基			

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

北 原 遺 跡 Ⅱ

市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

発行　平成28年（西暦2016年）３月20日

編集・発行　常陸大宮市教育委員会
〒319-2292　茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6
電話 0295(52)1111

関東文化財振興会株式会社
〒308－0846　茨城県筑西市布川1012
電話 0296(28)7737　FAX 0296-28-7551

印刷　山三印刷株式会社
〒311-4153　茨城県水戸市河和田町4433-33
電話　029(252)8481